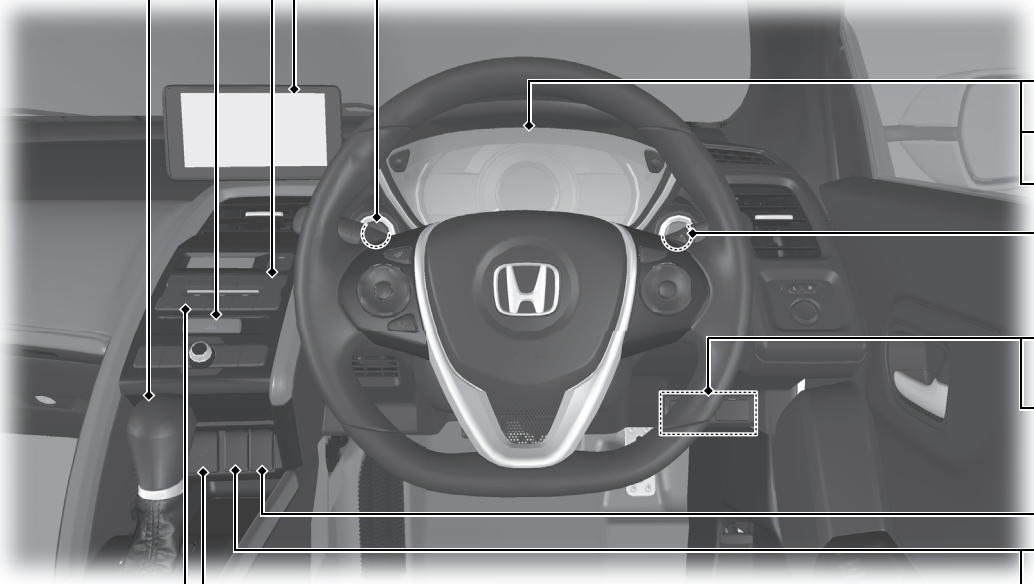
HONDA

S660

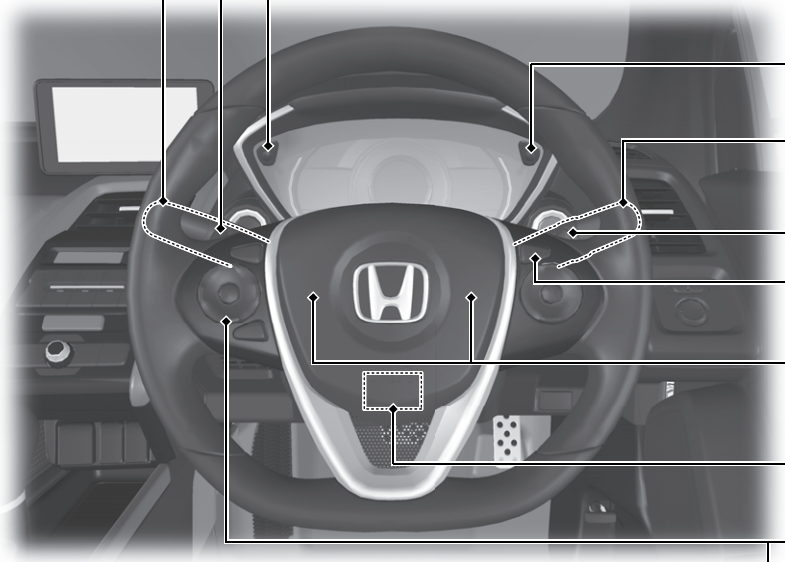
オーナーズマニュアル

クイックガイド
安全なドライブ
計器の見かた
各部の操作
オーディオ
運転
メンテナンス
万一の場合には
資料
索引

ビジュアル目次



セレクトレバー/ チェンジレバー P. 169, 173
非常点滅表示灯(ハザードスイッチ)
オートエアコン P. 96
センターディスプレイ(スマートフォン連携ナビ対応オーディオ)* P. 115
SPORT モードスイッチ(無段変速オートマチック車) P. 175
SELECT モードスイッチ(マニュアル車) P. 64
メーター P. 60
警告灯 P. 48
表示灯 P. 54
ENGINE START/ STOP スイッチ P. 82
(VSA OFF)スイッチ P. 184
CTBA OFF スイッチ* P. 192
USB ジャック P. 101
HDMI® ジャック* P. 101
AUX ジャック* P. 102
アクセサリーソケット P. 94
デフロスタースイッチ P. 97



ワイパー/ ウォッシャースイッチ P. 87

シフトスイッチ(シフトダウン)* P. 172

イルミネーションスイッチ P. 88

セレクト / リセットスイッチ P. 61

ライト / 方向指示器(ウィンカー)スイッチ P. 85, 86

シフトスイッチ(シフトアップ)* P. 172

クルーズコントロールスイッチ* P. 180

ホーンスイッチ (周辺)

ハンドル位置調節レバー P. 88

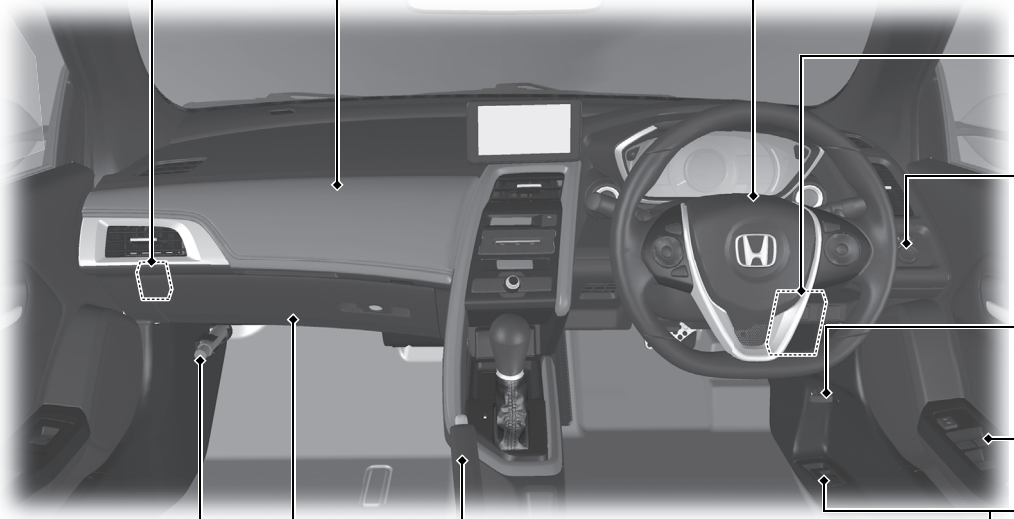
オーディオリモートコントロールスイッチ P. 103

iPod 対応 USB プレーヤー/ FM・AM チューナー* P. 105

センターディスプレイ(スマートフォン連携ナビ対応オーディオ)* P. 115

この「✤」はタイプやオプションなどにより、装備が異なる場合に付きます。

ビジュアル目次



室内助手席側ヒューズボックス* P. 267

SRS エアバッグシステム(助手席用) P. 32

SRS エアバッグシステム(運転席用) P. 32

室内運転席側ヒューズボックス P. 265

ドアミラー調節スイッチ P. 89

フロントフード(ボンネット)解除ノブ P. 213

パワーウィンドースイッチ P. 78

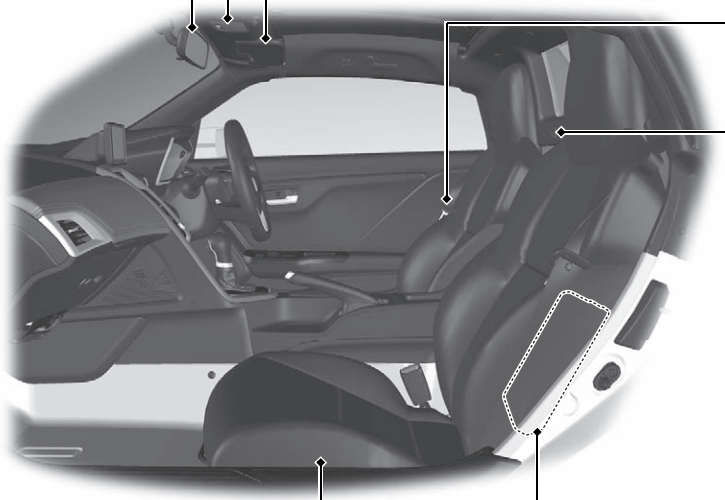
フューエルリッドオープナー P. 200

リヤフード解除ノブ P. 212

パーキングブレーキ P. 185

グローブボックス P. 93

発炎筒 P. 240



ルームミラー P. 89

室内灯 P. 92, 222

サンバイザー

シートベルト P. 26

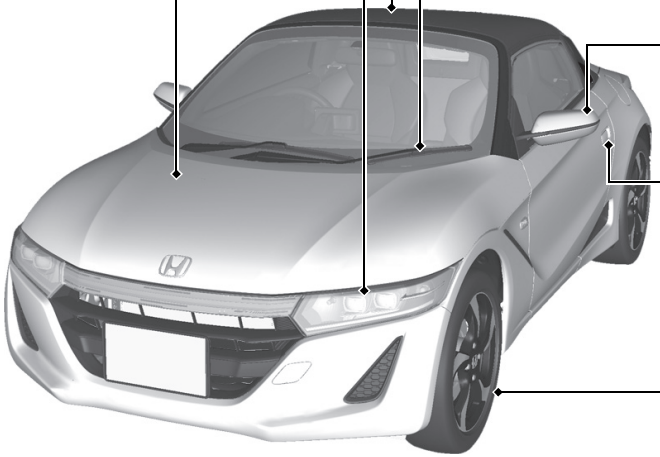
コンビニフック P. 94

サイドエアバッグシステム P. 35

シート P. 90

この「✤」はタイプやオプションなどにより、装備が異なる場合に付きます。

ビジュアル目次



フロントコンパートメント内のメンテナンス
P. 210

ヘッドライト P. 86, 215

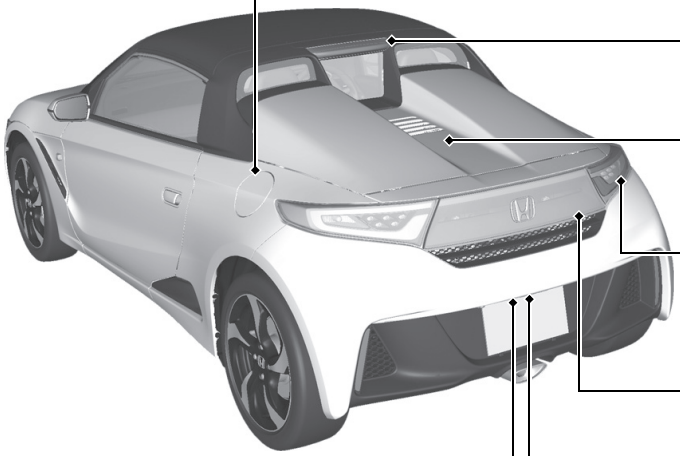
ロールトップ P. 79

ワイパー P. 87, 223

ドアミラー P. 89

ドアの施錠 / 解錠 P. 68

タイヤ P. 225, 241



給油のしかた P. 200

ハイマウントストップランプ P. 220

エンジンルーム内のメンテナンス P. 210

制動灯 / 尾灯 P. 219

ウィンカー P. 85, 217, 219

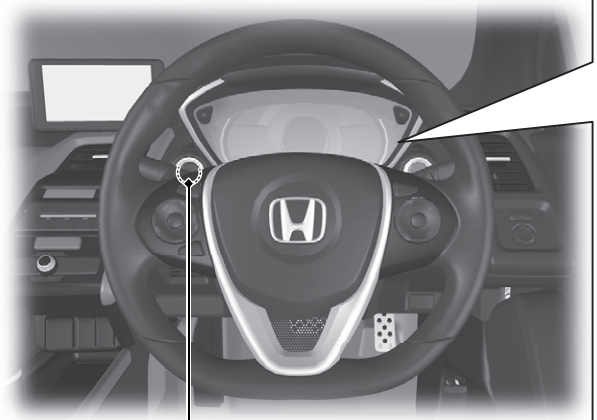
後退灯 P. 220

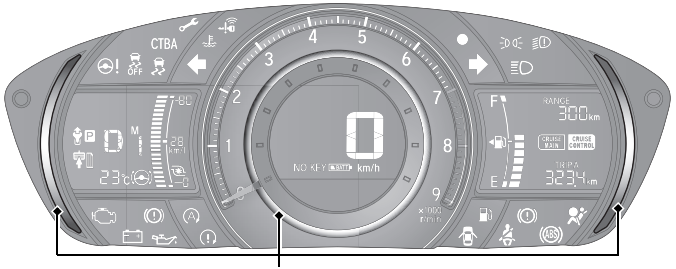
番号灯 P. 221

リヤカメラシステム* P. 199

この「*」はタイプやオプションなどにより、装備が異なる場合に付きます。

アンビエントメーター





●SPORT モード*/SELECT モード* にすると、白色から赤色に変化します。

► SPORTモードにすると、アイドリングストップシステムがOFFになります。

●SPORT モード*/SELECT モード* でエンジン回転数が以下に達したとき、中央のリング照明が赤色で点滅します。

マニュアル車

- エンジン回転数が 7,000rpm 以上になると遅く点滅し、7,200rpm 以上になると速く点滅
  ►6,800rpm まで下がると点灯に戻ります。

無段変速オートマチック車

- エンジン回転数が 6,300rpm 以上になると遅く点滅し、6,500rpm 以上になると速く点滅
  ►6,100rpm まで下がると点灯に戻ります。

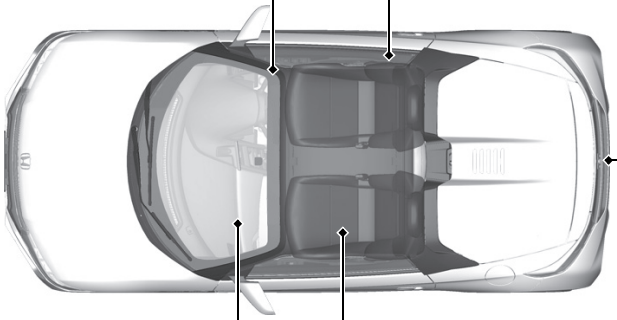
安全なドライブ P. 24



●正しい運転姿勢でシートベルトを着用してください。
●同乗者にも必ずシートベルトを着用させます。
●妊娠中のかたは腹部を圧迫しないようにシートベルトを着用してください。

運転を始める前の確認 P. 25

●運転前にシートの位置、ハンドルの位置、ミラー類の角度を調節します。



シートベルト P. 26

排気ガスについて P. 46

●車の排気ガスには有害な一酸化炭素が含まれているため、ガレージなどの密閉された場所ではエンジンを始動しないでください。

お子さまの安全 P. 39

●お子さまは後席のある車に乗せてください。この車にお子さまを乗せることはおすすめしません。
●シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。

エアバッグ P. 32

●万一の衝突の際に、乗員への衝撃を緩和するために、エアバッグが装備されています。

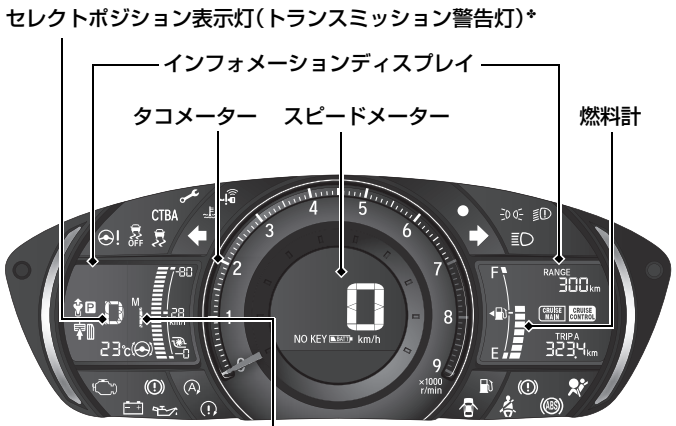
この「✤」はタイプやオプションなどにより、装備が異なる場合に付きます。

計器の見かた P. 47

警告灯 P. 48 表示灯 P. 54 メーター P. 60

警告灯 / 表示灯

- エンジンオイル メンテナンス表示灯
- VSA 警告灯
- VSA OFF 警告灯
- Honda スマートキーシステム警告灯
- 低水温表示灯(ブルー)
- 高水温警告灯(レッド)
- アイドリングストップシステム警告灯(オレンジ)*
- アイドリングストップ表示灯(グリーン)*
- スターターシステム警告灯
- セキュリティアラームシステム作動表示灯
- セレクトポジション P 移動警告灯*
- KEY BATT Honda スマートキー電池消耗警告灯
- NO KEY Honda スマートキー持ち去り警告灯
- CTBA シティブレーキアクティブシステム表示灯*



ライト表示灯

- ハイビーム表示灯
- ライト点灯表示灯

警告灯 / 表示灯

- ABS 警告灯
- ハンドル操作表示灯
- EPS 警告灯
- 方向指示器表示灯
- シートベルト非着用警告灯
- エアバッグシステム警告灯
- 油圧警告灯
- PGM-FI 警告灯
- 充電警告灯
- オートライトコントロール警告灯
- CRUISE MAIN クルーズメイン表示灯*
- CRUISE CONTROL クルーズコントロール表示灯*
- ブレーキ警告灯(レッド)
- ブレーキシステム警告灯(オレンジ)
- ドア / フロントフード開閉警告灯
- 燃料残量警告灯
- ブレーキ踏み込み不足表示灯*

各部の操作 P. 65

時刻を合わせる P. 66

センターディスプレイ（スマートフォン連携ナビ対応オーディオ）装備車

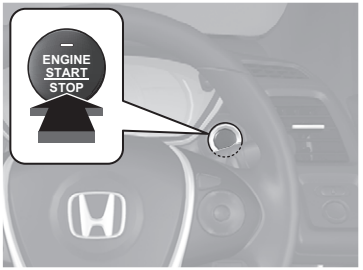


iPod 対応 USB プレーヤー/FM・AM チューナー装備車



ENGINE START/STOP スイッチ P. 82

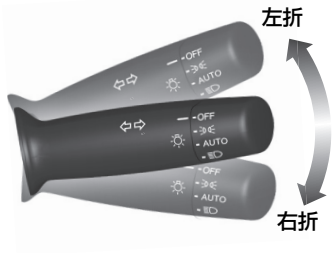
スイッチを押すと、パワーモードが切り換わります。



この「✤」はタイプやオプションなどにより、装備が異なる場合に付きます。

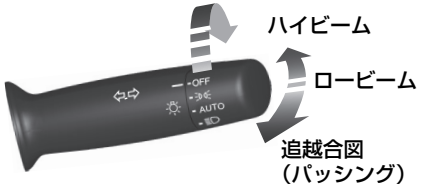
ウィンカー P. 85

方向指示器(ウィンカースイッチ)



ライト P. 86

ライトスイッチ



ワイパー P. 87

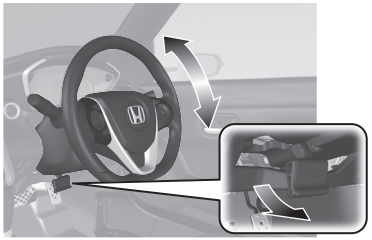
ワイパー/ ウォッシャースイッチ



- OFF 停止
- INT 間欠(雨量が少ないとき)
- LO 低速(普通の雨量のとき)
- HI 高速(雨量の多いとき)

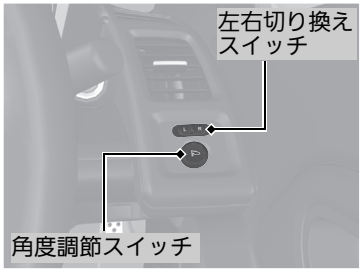
ハンドル位置の調節 P. 88

●ハンドル位置調節レバーを引き上げ、ハンドルの位置を調節します。



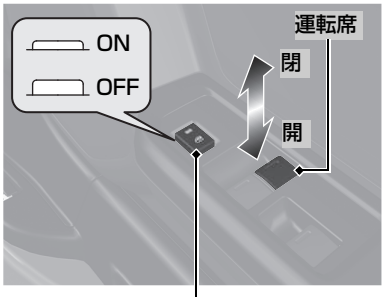
ドアミラー P. 89

●パワーモードが ON モードのとき、ドアミラーの角度の調節ができます。



パワーウィンドー P. 78

●パワーモードが ON モードのとき、ウィンドーの開閉ができます。

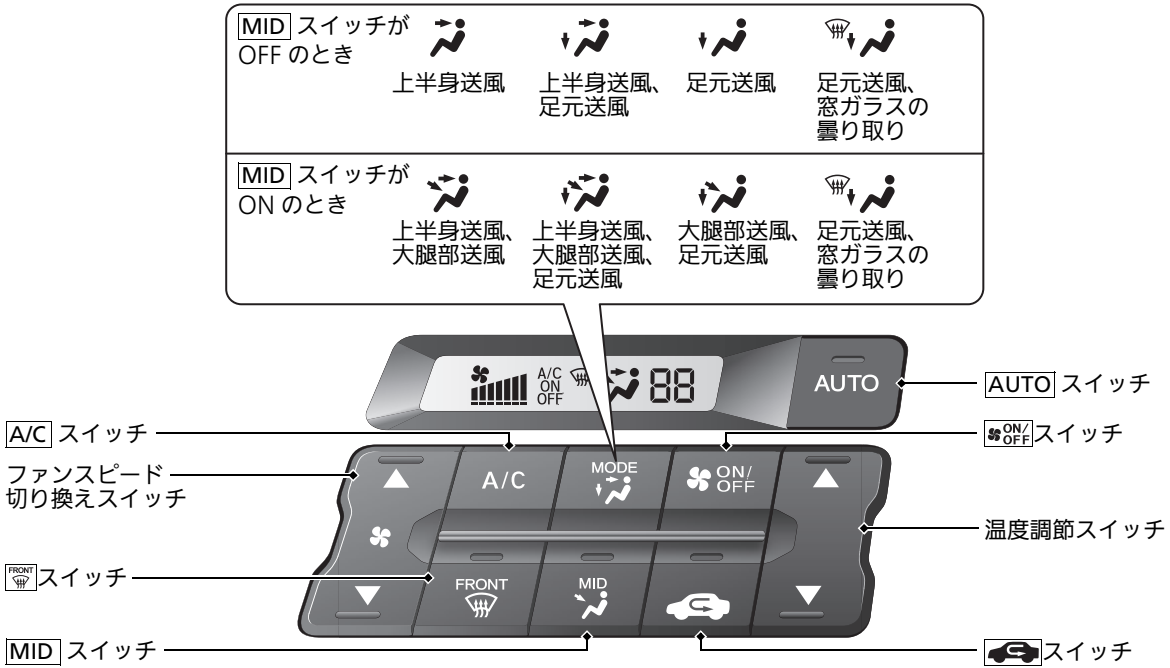


パワーウィンドーロックボタン

- ON 運転席以外のウィンドーが非作動
- OFF 全てのウィンドーが作動

エアコン P. 95

- AUTO を押すと、オートエアコンが作動します。
- ON/OFF を押すと、止まります。
- 前面ガラスの曇りを取るには、FRONT を押します。



オーディオ P. 99

iPod 対応 USB プレーヤー/ FM・AM チューナー*

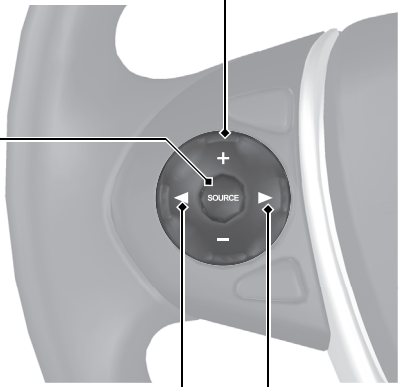
P. 105

ステアリングのオーディオリモートコントロールスイッチのみで操作します。

P. 103



オーディオリモートコントロールスイッチ P. 103



＋ / －（音量調整）スイッチ

SOURCE スイッチ
再生ソースを切り換えます。
長押しすると、オーディオモードが OFF になり、もう一度押すと ON になります。

◀ / ▶スイッチ

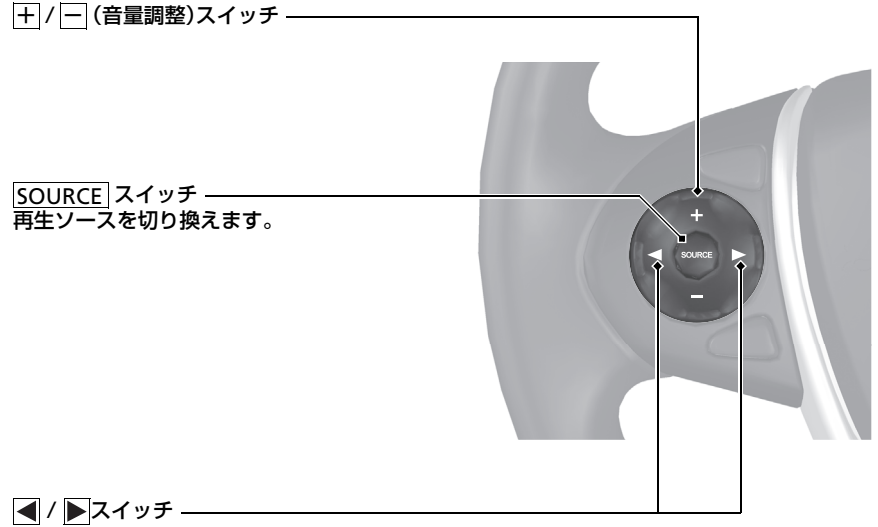
- ラジオ使用時：チャンネルの切り換え
  - ▶を押す：プリセットされている次の放送局を選局します。
  - ◀を押す：プリセットされている前の放送局を選局します。
  - ◀ / ▶を長く押す：自動選局になり放送局を受信すると止まります。
- iPod、USB デバイス使用時：
  - ▶を押す：スキップ（次の曲の頭出し）します。
  - ◀を押す：リプレイ（再生中の曲や前の曲の頭出し）します。
  - ◀ / ▶を長く押す：早送り / 早戻しします。（iPod のみ）

  MP3/WMA の場合、フォルダーの選択ができます。（USB デバイスのみ）

センターディスプレイ(スマートフォン連携ナビ対応オーディオ)✤ P.115



オーディオリモートコントロールスイッチ P.103



- ラジオ使用時：チャンネルの切り換え
  ▶を押す：プリセットされている次の放送局を選局します。
  ◀を押す：プリセットされている前の放送局を選局します。
  ◀ / ▶を長く押す：自動選局になり放送局を受信すると止まります。
- iPod、USB デバイス、Bluetooth オーディオ使用時：
  ▶を押す：スキップ(次の曲の頭出し)します。
  ◀を押す：リプレイ(再生中の曲や前の曲の頭出し)します。
  ◀ / ▶を長く押す：早送り / 早戻しします。(iPod のみ)
  MP3/WMA の場合、フォルダーの選択ができます。(USB デバイスのみ)
  グループの選択ができます。(Bluetooth オーディオのみ)

この「✤」はタイプやオプションなどにより、装備が異なる場合に付きます。

運転 P.158

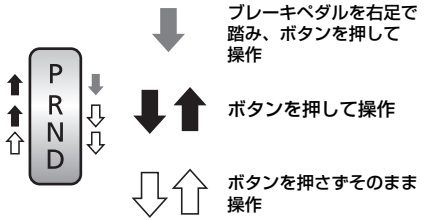
マニュアル車 P.173

無段変速オートマチック車 P.168

●セレクトレバーを P に入れ、ブレーキを踏みながらエンジンを始動します。

セレクトレバー

セレクトレバーの操作





P パーキング
駐車またはエンジンの始動

R リバース
車を後退

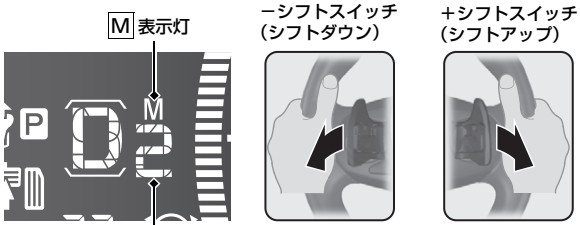
N ニュートラル
アイドリング状態

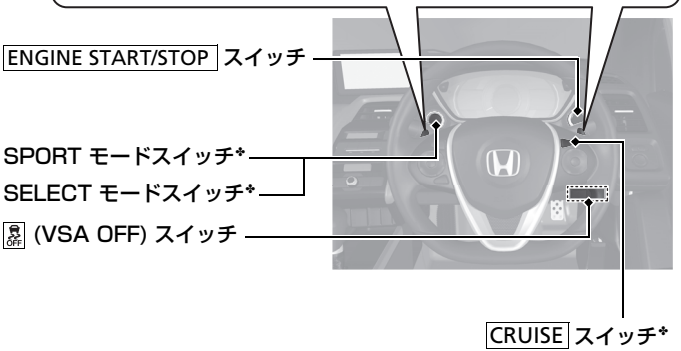
D ドライブ
- 通常走行
- 7 速マニュアルシフトモードにするとき

7速マニュアルシフトモード*
- ハンドルから手を放さずシフトスイッチを引いて、シフト操作ができます。

セレクトレバーが D で、SPORT モードスイッチが ON のとき
- ハンドルにあるシフトスイッチを引くと、7速マニュアルシフトモードになります。M (7速マニュアルシフトモード)表示灯が点灯し、シフトインジケーターにギヤ位置が表示されます。

セレクトレバーが D で、SPORT モードスイッチが OFF のとき
- ハンドルにあるシフトスイッチを引くと、一時的に7速マニュアルシフトモードになります。シフトインジケーターにギヤ位置が表示されます。





VSA OFF スイッチ P. 184

- VSA とは、急激な車両の挙動変化を抑制しようとする装置です。
- エンジンを始動すると自動的に VSA は ON になります。
- VSA を停止(OFF)状態にするには、VSA OFF を「ピッ」とブザーが鳴るまで押します。再度、使用(ON)するには VSA OFF を「ピッ」とブザーが鳴るまで押します。

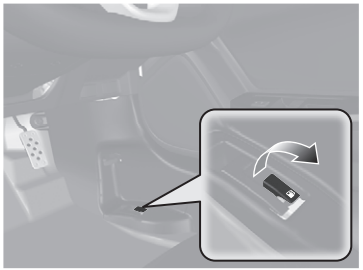
CRUISE スイッチ* P. 180

- クルーズコントロールは、高速道路などを定速で運転するとき、アクセルペダルを踏まなくても車速を一定に保つ装置です。
- クルーズコントロールを使用しないときは、安全のために CRUISE を押して OFF にしてください。

ガソリンを入れる P. 200

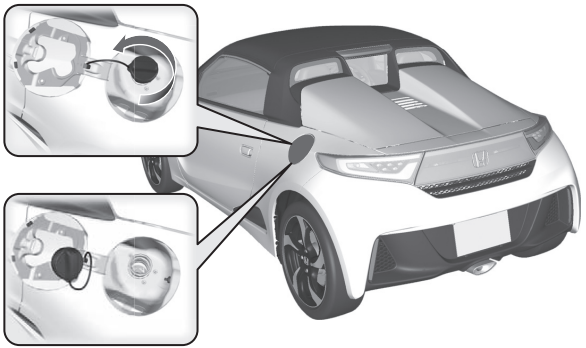
指定燃料：
無鉛レギュラーガソリン
レギュラーバイオ混合ガソリン(E10/ETBE22)
タンク容量：
25 リットル

❶ フューエルリッドオープナーを引いて、フューエルリッドを開ける。



❷ ツマミをゆっくり回してキャップを開ける。

❸ キャップをホルダーにかける。



この「*」はタイプやオプションなどにより、装備が異なる場合に付きます。

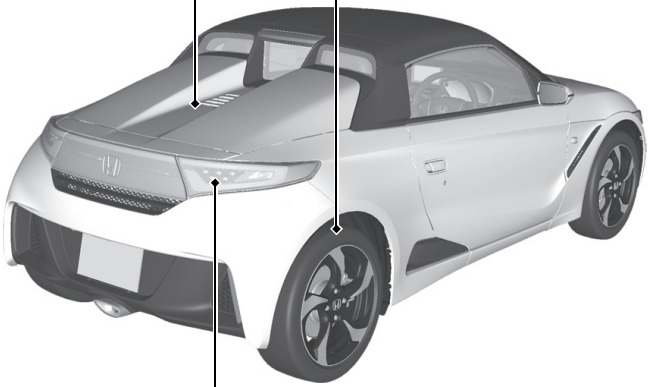
メンテナンス P. 207

エンジンルーム P. 210

●冷却水の補給を行います。

タイヤ P. 225

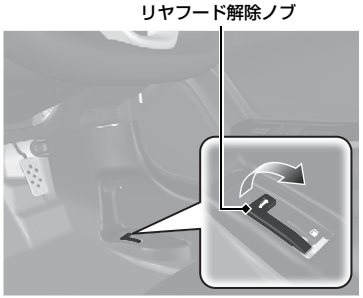
●タイヤ、ホイールを点検します。
●降雪地域では、スノータイヤが必要です。



ライト P. 219

●テールライト電球などの点検または交換を行います。
●電球の交換については、「メンテナンス」を参照してください。
●ヒューズの交換については、「万一の場合には」を参照してください。

❶ 運転席足元のリヤフード解除ノブを引く。



❷ 運転席側からレバーを引いてリヤフードを開ける。

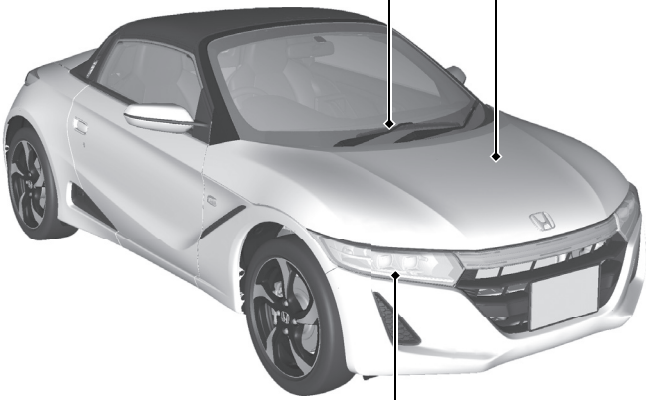


ワイパーブレード P. 223

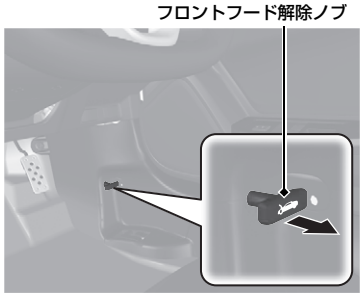
●拭きムラがある場合は、ワイパーブレードラバーを交換します。

フロントフード(ボンネット) P. 211

●ウォッシャー液の補給を行います。
●バッテリーを点検します。



❶ 運転席足元のフロントフード解除ノブを引く。



❷ レバーを押してフロントフードを開ける。



ライト P. 215

●ヘッドライト電球などの点検または交換を行います。
●電球の交換については、「メンテナンス」を参照してください。
●ヒューズの交換については、「万一の場合には」を参照してください。

万一の場合には P. 238

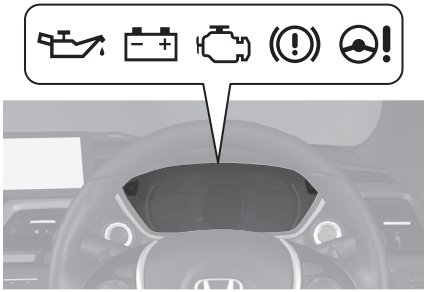
パンクした P. 241

●安全な場所に停車し、パンク修理キットで応急修理します。



警告灯が点灯した P. 261

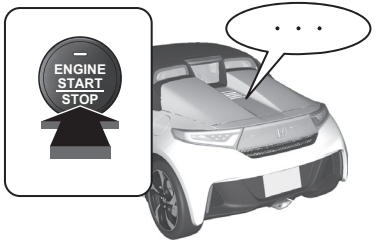
●詳細を確認し、取扱説明書にしたがってください。



エンジンが始動しない

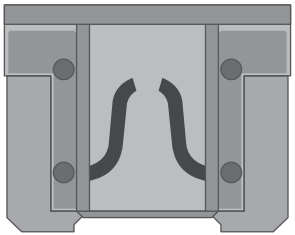
P. 252

●バッテリーあがりが考えられます。救援車のバッテリーを利用してエンジンを始動します。



ヒューズが切れた P. 264

●室内とエンジンルーム内、フロントコンパートメント内にヒューズボックスがあります。切れているヒューズを取り換えます。



オーバーヒートした P. 259

●安全な場所に停車し、蒸気が出ていなければリヤフードを開けてください。



けん引してもらいたい

P. 271

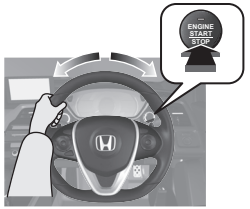
●必ず専門業者に依頼してください。やむをえず四輪を接地したままけん引される場合は、取扱説明書にしたがってください。



こんなときは

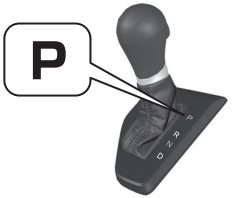
Q **ENGINE START/STOP のパワーモードが OFF モードからアクセサリーモードにならない**

A
- ハンドルがロックされていませんか？
- ハンドルを左右に回しながら、ENGINE START/STOP を押してください。



Q **ENGINE START/STOP のパワーモードが OFF モードにならない**

A
- セレクトレバーが P 以外の位置になっていませんか？



Q **ブレーキペダルを踏んだらガタガタと振動した**

A
- ブレーキペダルを踏んだとき、ペダルが小刻みに動くことがあります。
  これは ABS が作動しているときの現象で異常ではありません。
  そのまま、ブレーキペダルを強く踏み続けてください。

Q キーレスエントリーでドアを解錠したはずなのに施錠されている

A

- キーレスエントリー、Honda スマートキーで解錠してから、約 30 秒以内にドアを開けなかった場合は、自動的に再度施錠されます。



Q 運転席ドアを開けるとブザーが鳴る

A

- 「ピピピピ」と鳴るときはパワーモードをアクセサリーモードにしていませんか？
- 「ピー」と鳴るときはライトを消し忘れていませんか？

アイドリングストップシステム装備車

- アイドリングストップ中に運転席ドアを開けると「ピーッピーッピーッ･･･」と鳴ります。



Q 走行するとブザーが鳴る	**A** • 運転席または助手席シートベルトを着用していますか？ • パーキングブレーキを完全に戻していますか？
Q 走行中にブレーキを踏むと金属的な摩擦音がする	**A** • ブレーキパッドが摩耗して使用限界になっているおそれがあります。Honda 販売店で点検を受けてください。
Q レギュラーガソリン仕様車にプレミアム(ハイオク)ガソリンを使用しても大丈夫ですか？	**A** • プレミアムガソリンをお使いになることもできますが、この場合、本来のエンジン性能が大きく変わることはありません。

安全に関する表示

「運転者や他の人が傷害を受ける可能性のあること」を回避方法と共に、下記の表示で記載しています。これらは重要ですので、しっかりお読みください。

⚠危険	指示にしたがわないと、死亡または重大な傷害に至るもの
⚠警告	指示にしたがわないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの
⚠注意	指示にしたがわないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

下記の表示を使って記載しています。

アドバイス
お車が故障・破損するのを防ぐためのアドバイスや、環境への配慮のために守っていただきたいこと。

サービス診断記録装置について

この車には、システムを制御するためのコンピューターが搭載されており、次の内容をデータとして記録します。

- エアバッグシステムの故障診断情報
- エアバッグの作動に関する情報
- 動力伝達機構の状態
- 運転状態

HondaおよびHondaが委託した第三者は、記録されたデータを技術的な診断や Honda の車両の研究開発のために、取得、利用することがあります。
なお、会話等の音声や映像は記録されません。

データの開示について

HondaおよびHondaが委託した第三者は、取得したデータを以下の場合を除き、第三者へ開示、提供することはありません。

- お車の所有者または使用者の同意がある場合
- 裁判所命令等、法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行う等、使用者や車が特定できないように加工したデータを、研究機関等に提供する場合

目次

安全なドライブ P.24

安全なドライブのために 25　シートベルト 26　エアバッグ 32　お子さまの安全 39
排気ガスの危険性 46

計器の見かた P.47

警告灯と表示灯 48　メーターとインフォメーションディスプレイ 60

各部の操作 P.65

時刻の設定 66　ドアロック 68　セキュリティシステム 76　ウィンドー 78
ロールトップ 79　ハンドルまわりのスイッチ 82　ミラー類 89　シート 90
室内灯 / 室内装備品 92　エアコン 95

オーディオ P.99

オーディオ装置 100　オーディオリモートコントロールスイッチ 103
iPod 対応 USB プレーヤー/FM・AM チューナー* 105　センターディスプレイ(スマートフォン連携ナビ対応オーディオ)* 115
エラーメッセージ 138　補足情報 140　スマートフォン連携* 141　ハンズフリーテレフォン* 147

運転 P.158

運転の前に 159　運転 162　ブレーキ 185　駐停車 197
リヤカメラシステム* 199　給油 200　ターボ車 203　アクセサリーと改造 206

メンテナンス P.207

メンテナンスの前に 208　エンジンルーム内 210　電球 215　ワイパー 223
タイヤ 225　Honda スマートキー 230　エアコンのお手入れ 231
清掃 233

万一の場合には P.238

工具、発炎筒 239　パンク 241　ジャッキ 250　エンジンが始動しない 252
ジャンプスタート 255　セレクトレバーが動かない 258　オーバーヒート 259
警告灯が点灯 / 点滅した 261　ヒューズ 264　けん引 271

資料 P.274

仕様 275

車の仕様などの変更により、この本の内容と実車が一致しない場合がありますのでご了承ください。



安全なドライブ

この章には、安全運転のために必要な重要情報が記載されています。
運転を始める前によくお読みいただき、運転者と同乗者の安全を
確保してください。

安全なドライブのために 25
シートベルト
シートベルトについて 26
シートベルトの着用..... 29
シートベルトの点検..... 31
シートベルトのアンカーポイント 31
エアバッグ
エアバッグの種類 32
SRS エアバッグ 32
サイドエアバッグ 35
エアバッグシステム警告灯 / 表示灯 37
エアバッグのお手入れ 38
お子さまの安全
お子さまの安全を守るために 39
乳幼児の安全 41
大きなお子さまの安全 44
排気ガスの危険性
一酸化炭素について..... 46

安全のための確認事項

安全なドライブのために、走行前に下記の項目を確認してください。

- ドアは完全に閉まっているか？
  ▶すべてのドアが完全に閉まり、正しく施錠されていることを確認してください。
  ➡ **車内での施錠 / 解錠** P.75
- 運転しやすい姿勢にシート位置を調節しているか？
  ▶正しい運転姿勢がとれるよう、シート位置の調節をしてください。
  ➡ **シート** P.90
- 同乗者のシートも、安全が保たれるよう調節しているか？
  ▶ダッシュボードからできるだけ離れた位置までシートを下げてください。
  ➡ **シート** P.90
- 乗員全員が正しくシートベルトを着用しているか？
  ▶運転者と乗員が正しくシートベルトを着用していることを確認してください。
  ➡ **シートベルトの着用** P.29
- エアバッグシステム警告灯などが点灯していないか？
  ▶エアバッグに関する説明をあらかじめお読みいただき、シートの位置などを調節してください。
  ➡ **エアバッグ** P.32
- お子さまの安全を守るために、チャイルドシートやシートベルトを着用しているか？
  ▶お子さまが同乗する場合は、お子さまの年齢や身長・体重に応じてチャイルドシートやシートベルトなどで安全を確保するようにしてください。
  ➡ **お子さまの安全** P.39
- 坂道で駐車するときは、パーキングブレーキをかけ、セレクトレバーを P にまたはチェンジレバーを上り坂の場合 1、下り坂と平地の場合 R にしているか？
  ▶さらにタイヤに輪止めをすると効果があります。
  ➡ **シフト操作** P.169, 173

安全のための確認事項

ドア / フロントフード開閉警告灯が点灯している場合は、完全に閉まっていないドア、フロントフードがあります。

ドア、フロントフードをもう一度正しく閉め直してください。「ドア/フロントフード開閉警告灯」は消灯し、正常な状態に戻ります。

➡ **ドア / フロントフード開閉警告灯** P.52

シートベルトについて

シートベルトは、シートに体を固定することで安全を確保するための安全装置です。

■三点式シートベルト

体の動きに合わせて伸縮し、強い衝撃を受けるとベルトが自動的にロックします。すべての席に三点式シートベルトが装備されています。

■シートベルトの着用

シートベルトの着用にあたっては、以下の点に注意してください。

- 運転者は正しい運転姿勢で、シートベルトを必ず着用
- 同乗者にも必ずシートベルトを着用
- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、必ずチャイルドシートを使用
- 1本のシートベルトを2人以上で使用しない
- ベルトにはクリップや洗たくばさみなどでたるみをつけない

シートベルトについて

⚠警告

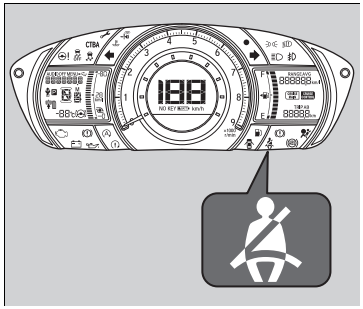
シートベルトは乗員全員が必ず正しく着用する。
シートベルトを正しく着用しないと、エアバッグが装備されていても、衝突したときに重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

乗車中は正しい姿勢を保つ。
正しい姿勢ですわらないと、衝突したときに傷害を受ける危険性が高くなります。

シートベルトを着用した状態で事故にあったときは、Honda 販売店で点検を受け、ベルトが破損していたり、正しく作動しない場合は、ベルトを交換してください。

シートベルトがロックした場合、一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ベルトをゆっくり引き出してください。

■シートベルトリマインダー



パワーモードをONモードにしたときや走行したとき、運転席または助手席のシートベルトを着用するまでシートベルトリマインダーが作動し、ブザーと警告灯でお知らせします。

シートベルトリマインダー

- 助手席シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅しブザーが鳴ることがあります。
- 助手席にお子様や小柄な方を乗せたりクッションなどを使用すると、センサーが乗員を検知せず正常に作動しないことがあります。
- 運転席または助手席のシートベルトを着用せずに走行した場合、停車するとブザーは止まります。また、走行している場合でも一定時間を超えるとブザーは止まります。

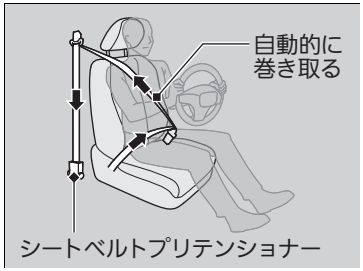
無段変速オートマチック車

- セレクトレバーを R に入れたときは後退位置警報装置のチャイムが鳴るため、シートベルト非着用の警告ブザーは鳴りません。

次ページに続く

■シートベルトプリテンショナー

シートベルトプリテンショナーを装備しています。
シートベルトプリテンショナーは、一定以上の前方向からの衝撃を受けると自動的にシートベルトを引き込み、拘束します。



▶シートベルトプリテンショナー

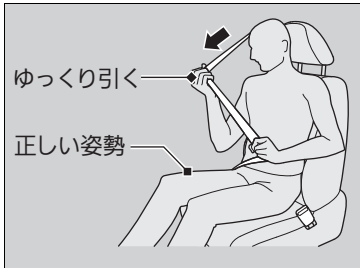
⚠注意

シートベルト引き込み装置の取り外し、分解などはしない。
誤作動や故障の原因となります。

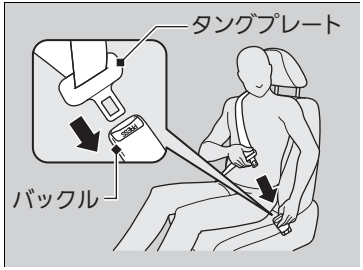
シートベルトプリテンショナーは、一度作動すると使用できません。
衝突によりシートベルトプリテンショナーが作動するとエアバッグシステム警告灯が点灯します。
衝突したときは、Honda 販売店で点検を受け、作動済みの場合は交換してください。

SRSエアバッグとシートベルトプリテンショナーはかならずしも同時に作動しません。

シートベルトの着用



1. 正しい姿勢でシートにすわる。
2. シートベルトをゆっくり引き出す。



3. タングプレートをバックルに差し込む。
▶ このとき、ベルトにねじれや引っかかりがないように注意します。

シートベルトの着用

⚠注意

肩ベルトは腕の下に通したり、首の後ろに回さない。
シートベルトを正しく着用しないと、本来の機能を果たさず衝突時などに、けがをするおそれがあります。

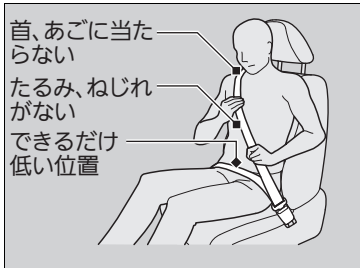
ベルトがくび、あご、顔などに当たらないように着用してください。

シートベルトを外すには、バックルの赤色の PRESS を押してください。
そのとき、ベルトが完全に収納されるようベルトに手を添えてください。

シートベルトを十分に機能させるため、バックルおよび自動巻き取り装置の内部に異物を入れないようにしてください。

シートベルトの分解、改造はしないでください。正常に作動しないおそれがあります。

次ページに続く

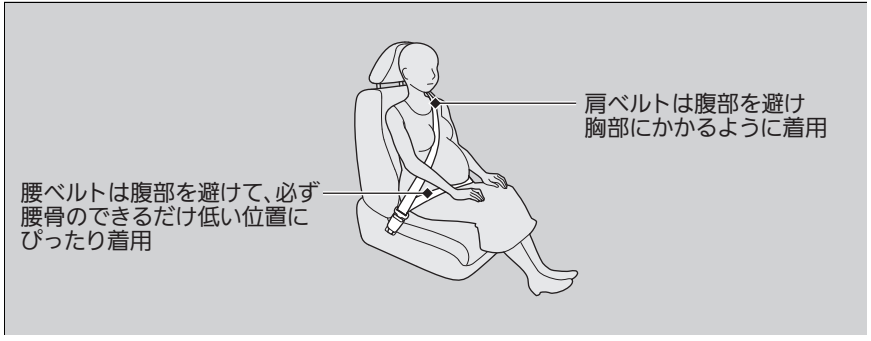


4. シートベルトが正しく着用できているか確認する。
- ▶肩ベルトは鎖骨の中心を通るように合わせ、首やあごに当たらないようにしてください。
- ▶腰ベルトは腰骨のできるだけ低い位置に合わせてください。
- ▶ベルトにたるみやねじれがないようにしてください。

5. ベルトを引っ張り、バックルが固定されていることを確認する。

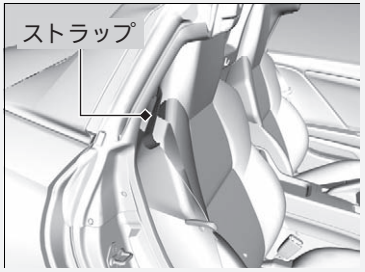
■妊娠中のかたのシートベルト着用のしかた

妊娠中のかたが運転または同乗するときは、ご自身と赤ちゃんを守るために、常に三点式シートベルトを着用してください。



シートベルトの着用

シートベルトを使用するときは、必ずベルトをストラップの中に通してください。



妊娠中のかたのシートベルト着用のしかた

⚠注意

妊娠中のシートベルト着用は、医師に確認する。
万一のとき、腹部、胸部、肩部などに圧迫を受けることがあります。

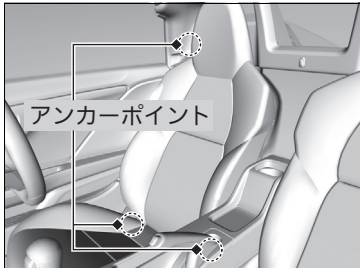
妊娠中のかたは以下の点を注意してください。万一の衝突時にフロントエアバッグによって、ご自身と赤ちゃんが傷害を受ける危険性が軽減されます。
- 運転するときは上体を起こして、運転に支障のない範囲でシートをなるべく後ろに下げる
- 助手席にすわる場合も、シートはできるだけ後ろに下げる

シートベルトの点検

シートベルトを安全にお使いいただくために、定期的な点検を行ってください。
点検の確認ポイントは下記のとおりです。

- すべてのベルトをいっぱいまで引き出し、ほつれ、破れ、焼けこげ、すり切れがないか？
- バックルが確実に固定されるか？
- ベルトがスムーズに巻き取られるか？

シートベルトのアンカーポイント



シートベルトを交換する場合、図の中で示されるアンカーポイントを使用してください。
シートには三点式シートベルトが使われています。

シートベルトの点検

ベルトがスムーズに巻き取られない場合、ベルトが汚れていないことを確認してください。
ベルトが汚れているとスムーズに巻き取られない場合があります。まず、ベルトに汚れがないか確認してください。汚れを落とすと動きが元に戻ることがあります。

ベルトが破損していたり、正しく作動しない場合は、ベルトを交換してください。

エアバッグの種類

エアバッグは、パワーモードがONモードのときに車体が衝突による衝撃を受けると膨らみ、運転者および同乗者の受ける衝撃を緩和させます。
エアバッグには下記の種類があり、衝突の方向や条件などにより作動が異なります。

- **SRS エアバッグ**：シートの前方向エアバッグ
- **サイドエアバッグ**：シートの横方向エアバッグ

SRS エアバッグ

運転席と助手席についています。前方向からの衝突により、SRS エアバッグが膨らんで運転者と助手席の同乗者の頭と胸部への衝撃を緩和します。

SRS：サプリメンタルレストレイントシステム(Supplemental Restraint System)の略で、シートベルトの補助拘束の意味。

■格納場所

運転席側はハンドルの中央、助手席側はダッシュボードに SRS エアバッグが格納されています。どちらも「SRS AIRBAG」と表示されています。

■作動のしくみ

SRS エアバッグが作動するのは、一定以上の衝撃で前方向から衝突したときです。このとき、センサーが衝突による急激な減速を検知し、コントロールユニットのはたらきにより運転席と助手席の SRS エアバッグが膨らみます。

≫エアバッグの種類

⚠警告

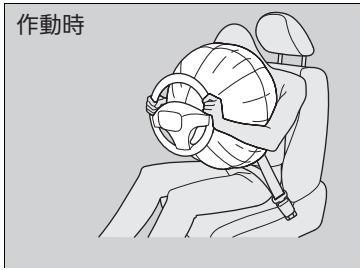
エアバッグ装備車でもシートベルトは必ず使用する。
エアバッグは、衝撃を緩和するためのシステムで、シートベルトの補助拘束具です。エアバッグ装備車であっても、必ず正しくシートベルトを着用してください。シートベルトを着用しないと、衝突時にエアバッグの効果が十分に発揮されず、重大な傷害や死亡などの危険性が高くなります。

⚠注意

エアバッグが膨らんだ直後は、構成部品に触れない。
エアバッグの構成部品が熱くなっているため、やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

エアバッグは非常に速い速度で膨らみます。
エアバッグとの接触により、すり傷、やけど、打撲などを受けることがあります。

■ SRS エアバッグの作動



前方向から衝突すると、シートベルトが乗員の下半身と胴体を拘束し、SRSエアバッグが頭と胸部を保護します。

運転者の視界を妨げたり、ハンドル操作の邪魔にならないように、SRSエアバッグは膨らんだあとすぐにしぼみます。

SRS エアバッグは、次のような場合に作動します。

- 20～30km/h 以上の速度で、きわめて厚い固定されたコンクリートの壁に真正面から衝突したときと同等か、それ以上の衝撃を受けたとき
- 車両の前方左右約 30 度以内の方向から強い衝撃を受けたとき

衝撃を吸収できるもの(車やガードレールのように変形するもの)に衝突した場合、作動するときの車速は高くなります。

次のような場合、車両下部に強い衝撃を受け、SRS エアバッグが作動することがあります。

- 縁石や地面の突起物に衝突したとき
- 深い溝や穴に落ちたとき
- 高いところから落ちたとき

SRS エアバッグの作動

⚠警告

インストルメントパネルに手をついたり頭や胸を近づけた状態で乗車しない。
SRSエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠注意

ハンドルやインストルメントパネル上面に、ステッカーを貼ったり、ものを置いたりしない。
SRSエアバッグが正常に機能しなくなったり、エアバッグが膨らんだときに置いたものが飛んで運転者や同乗者がけがをする原因になります。

エアバッグが膨らむときに、空中に粉が舞うことがあります。
この粉は無害ですが、場合によっては一時的に不快感をおぼえることがあります。
安全を確認後、ただちに車外に出てください。

次ページに続く

次のような場合、SRS エアバッグが作動しないことがあります。
- 電柱、立ち木などへの衝突
- トラックなどへの潜り込み
- 部分的な衝突や斜め方向からの衝突

車体の部位によって衝撃の吸収度合いが異なりますので、損傷状態の大小とSRS エアバッグの作動は必ずしも一致しません。

シートベルトだけで乗員を保護できるような低い速度での衝突や次のような場合、乗員保護の効果がないので作動しません。
- 横方向からの衝突
- 後部からの衝突
- 横転または転覆

事故の状況、形態によっては、SRS エアバッグが作動することがあります。

SRS エアバッグの作動

⚠注意

SRSエアバッグの分解、取り外しはしない。
不適切な取り扱いは故障や誤作動の原因となります。

車体が衝撃を十分に吸収できた場合、システムは作動しません。

サイドエアバッグ

シートの背もたれの外側にあるエアバッグです。側面からの衝突により、エアバッグが膨らみ、運転者と助手席の同乗者の胸部への衝撃を緩和します。

■格納場所



運転席、助手席ともにシートの背もたれ外側に格納されています。
どちらも「SIDE AIRBAG」と表示されています。

■作動のしくみ



サイドエアバッグは、約 30km/h 以上の速度で自車と同等の車が真横から衝突したときと同等か、それ以上の衝撃を受けたときに運転席または助手席のサイドエアバッグが膨らみます。

車両側面に斜めから衝突された場合、サイドエアバッグが作動するときの車速は高くなります。

次ページに続く

サイドエアバッグ

⚠注意

ドアやその周辺にアクセサリーなどを取り付けたり、ものを置いたりしない。
正常に作動しなかったり、作動時にこれらのものが飛ぶことがあります。

サイドエアバッグ収納部に衝撃や無理な力を加えない。

サイドエアバッグは、シートベルトを着用し上体を起こしてシートに深く腰かけているときに保護効果を発揮します。
サイドエアバッグの保護効果を維持するために、シートベルトは正しく着用してください。

サイドエアバッグがシートカバーによっては、正常に機能できなくなります。
シートカバー装着にあたっては Honda 販売店にご相談ください。

■作動条件

次のような場合、車両下部に強い衝撃を受け、サイドエアバッグが作動することがあります。

- 縁石や地面の突起物に衝突したとき
- 深い溝や穴に落ちたとき
- 高いところから落ちたとき

次のような場合、サイドエアバッグが作動しないことがあります。

- 乗員付近以外の側面への衝突

サイドエアバッグは乗員の受ける衝撃の大きさによって作動するようになっていますので、車両の損傷状態の大小とサイドエアバッグの作動は必ずしも一致しません。

低い速度での衝突や次のような場合、乗員保護の効果がないので作動しません。

- 正面衝突
- 後部からの衝突
- 横転または転覆

事故の状況、形態によっては、サイドエアバッグが作動することがあります。

▶サイドエアバッグ

⚠注意

ドアに寄りかからない。
サイドエアバッグの格納部に手や顔を必要以上に近づけない。
サイドエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け傷害を受けるおそれがあります。

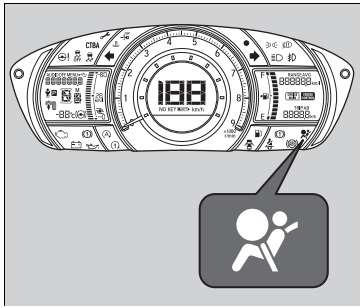
サイドエアバッグの分解、取り外しはしない。
不適切な取り扱いは故障や誤作動の原因となります。

エアバッグが膨らむときに、空中に粉が舞うことがあります。
この粉は無害ですが、場合によっては一時的に不快感をおぼえることがあります。
安全を確認したら、ただちに車外に出てください。

エアバッグシステム警告灯 / 表示灯

エアバッグやシートベルトプリテンショナーの異常などを、警告灯や表示灯で知らせます。

■エアバッグシステム警告灯



■パワーモードを ON モードにしたとき

パワーモードを ON モードにすると、エアバッグシステム警告灯が数秒間点灯し、消灯すれば正常です。

■異常が発生したとき

エアバッグシステムまたはプリテンショナーシステムに異常があるときに点灯します。

エアバッグシステム警告灯

⚠警告

エアバッグシステム警告灯を無視しない。
エアバッグシステム警告灯を無視すると、エアバッグシステム、プリテンショナーシステムが正しく機能せず、重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。エアバッグシステム警告灯が点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

エアバッグシステム警告灯が点灯状態のときは、Honda 販売店で点検を受けてください。
パワーモードを ON モードにしたときにエアバッグシステム警告灯が点灯しない場合も、エアバッグシステムまたはプリテンショナーシステムに異常がある可能性があります。ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

エアバッグのお手入れ

エアバッグシステムは、メンテナンスを必要とせず、部品交換の必要もありません。 ただし、以下の場合は Honda 販売店で点検を受けてください。

■エアバッグが作動し、膨らんだとき

一度作動したエアバッグは、コントロールユニットやその他の関連部品とともに必ず交換する必要があります。
また、シートベルトプリテンショナーも同様に、一度作動した場合は新品と交換する必要があります。

エアバッグのお手入れ

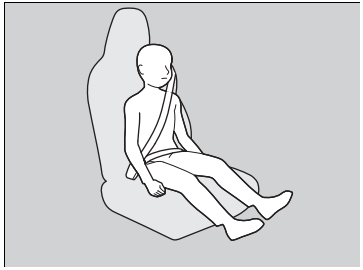
エアバッグ関連部品の再利用はしないでください。

お子さまの安全を守るために

お子さまはリヤシートのある車に乗せてください。

▶ この車にお子さまを乗せることはおすすめしません。SRS エアバッグが膨らむ際、強い衝撃があります。また、お子さまを助手席に乗せると、不意の動作が気になったり、スイッチ類をいたずらしたりするなど運転の妨げになるおそれがあります。

やむをえずお子さまが乗車するときは、下記の注意点を確認し、お子さまの安全を確保してください。



- お子さまにも必ずシートベルトを着用させる
  ▶ お子さまを抱えたり、ひざの上に乗せないでください。衝突したときに支えることができません。 正しい着用方法でお子さまにもシートベルトをしてください。
- 車外に手や顔、ものを出さない
  ▶ 走行中や一時停止時などに、お子さまが車外に手や顔、ものなどを出さないようにしてください。思わぬ障害物により事故のおそれがあります。
- ドア、ウィンドー、シートなどの操作は必ず大人が行う
  ▶ 思わぬけがの原因となりますので、お子さまにはドア、ウィンドー、シートなどの操作をさせないでください。

次ページに続く

お子さまの安全を守るために

⚠警告



シート前方の作動可能なエアバッグで保護されたシートには、後ろ向きチャイルドシートを絶対に取り付けないでください。
お子さまが死亡、または重大な傷害を受けるおそれがあります。

お子さまを助手席に乗せることをおすすめしない理由は下記の通りです。

- お子さまが助手席のシートに正しく乗車できないと、SRSエアバッグが膨らんだときに重大な傷害を負うおそれがある
- お子さまの体の一部がサイドエアバッグの作動範囲に入ると、サイドエアバッグが膨らんだときに重大な傷害を負うおそれがある

- 車を離れるときは、お子さまを連れて出る
  ▶ お子さまだけを車内に残さないでください。特に、炎天下の車内は高温になります。また、お子さまのいたずらにより、車の発進、火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 幼児にはチャイルドシートを使用する
  ▶ やむをえず幼児を乗せるときは、必ずチャイルドシートを使用します。

乳幼児の安全

■乳児のチャイルドシート

この車に設置することはできません。

■幼児のチャイルドシート

助手席にチャイルドシートを設置すると、衝突したときに SRS エアバッグで強い衝撃を受けるおそれがあります。

やむをえずチャイルドシートを設置するときは、この取扱説明書をよく読み、正しく取り付けてください。

乳児のチャイルドシート

⚠警告

後ろ向きのチャイルドシートは助手席に設置しない。
助手席の SRS エアバッグが膨らんだときに、チャイルドシートの背面にエアバッグが当たり、乳児が重大な傷害を負ったり死亡したりするおそれがあります。

幼児のチャイルドシート

⚠警告

助手席に前向きのチャイルドシートを設置しない。
助手席に前向きのチャイルドシートを設置すると、助手席のシートが前に出すぎていたり、衝突したときに幼児の頭が前に投げ出されるとSRSエアバッグで強い衝撃を受けるため、重大な傷害を負ったり死亡したりするおそれがあります。
やむをえず助手席に前向きのチャイルドシートを設置する場合は、助手席のシートをできるだけ後ろに下げて設置してください。

次ページに続く

■チャイルドシートの選びかた

チャイルドシートを購入するときは、シートベルト固定タイプチャイルドシートをお選びください。
シートベルト固定タイプチャイルドシートは、シートベルトを用いて座席に固定します。

■チャイルドシート選択の条件

チャイルドシートが適切な保護効果を発揮するためには、以下の3つの条件を満たしている必要があります。

- チャイルドシートが一覧表に案内されているお子さまに合ったタイプとサイズであること
- チャイルドシートが取り付ける車の座席にあったものであること
- チャイルドシートが安全基準に適合したものであること
  UN-ECE R44 に適合したチャイルドシートをお勧めします。

≫チャイルドシートの選びかた

⚠注意

チャイルドシートが確実に固定されているか確認する。
確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

チャイルドシートに付属の取扱説明書をよく読んでください。

チャイルドシートの種類によりシートベルトの固定に固定金具(ロッキングクリップ)が必要になります。

ご購入、ご使用に際しては Honda 販売店にご相談ください。

■シートベルトで固定するチャイルドシートについて

この車には様々なタイプのチャイルドシートが利用可能ですが、すべてのタイプが適当であるというわけではありません。
次の表を参照して、それぞれの着席位置でどのチャイルドシートが使用できるかを選択してください。

■選択の目安

詳しくはチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

ベルト固定タイプ チャイルドシート 重量区分	前席 助手席
グループ 0 ～ 10kg	X
グループ 0 ～ 13kg	X
グループ I 9kg ～ 18kg	UF
グループ II 15kg ～ 25kg	UF
グループ III 22kg ～ 36kg	UF

記号の説明

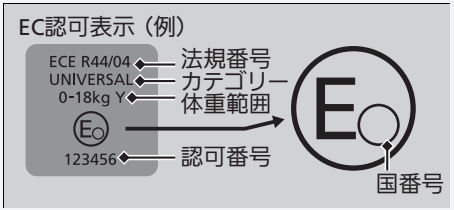
UF　：汎用型(ユニバーサル)チャイルドシートが前向きに取り付け可能です。
X　：チャイルドシートを取り付けできません。

»シートベルトで固定するチャイルドシートについて

チャイルドシートに関する国連の安全基準であるUN-ECE R44 に適合しているチャイルドシートには、シートベルトで固定する機構が付いています。

チャイルドシートをご購入する際は、重量グループに一致したものをお選びください。

UF のチャイルドシートには、UN-ECE R44 認可表示と取扱説明書に UNIVERSAL(汎用)と案内されているものもあります。



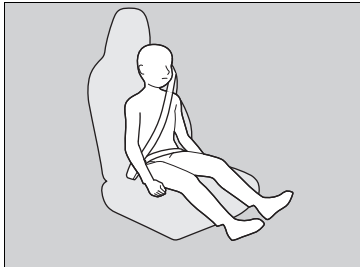
シートの種類や取り付けの向きにより固定金具(ロッキングクリップ)が必要になる場合があります。

詳しくはチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

大きなお子さまの安全

■シートの使用について

幼児用のチャイルドシートの使用条件を超えるお子さまは、お子さまをシートに深くすわらせ、以下の確認項目でひとつでも適合しない場合、ジュニアシートの使用が必要です。



■確認項目

- お子さまのひざがシートの前端で無理なく曲がっているか？
- 肩ベルトがお子さまの首と腕の間にかかっているか？
- 腰ベルトが低い位置にあり、お子さまの太ももに触れているか？
- 乗車中、無理なくすわっていられるか？

■ジュニアシートについて



ジュニアシートを使用する場合、安全のため、お子さまがジュニアシートの使用に適した範囲に入っているか確認してください。

大きなお子さまの安全

⚠警告

三点式シートベルトが正しく着用できないお子さまは助手席に乗せない。

お子さまを助手席に乗せると、SRS エアバッグが膨らんだときに、重大な傷害を負うおそれがあります。

ジュニアシートについて

ジュニアシートの取り付けについては、ジュニアシートに付属の取扱説明書をよく読み、正しく取り付けてください。

ジュニアシートには、座高の高いものと低いものがあります。お子さまが適切にシートベルトを着用できるものを選択してください。

■やむをえず、お子さまを助手席に乗せる場合

正しい姿勢ですわる、走行中にシートベルトを着用するなどの規則をお子さまが守ることができ、お子さまを助手席に乗せても安全と判断した場合、下記の項目を守ってお子さまを乗車させてください。

- この取扱説明書をよく読み、シートベルトに関する指示と安全に関して十分に理解する
- 助手席を一番後ろまで下げる
- 上体を起こし、シートに深く腰かけるように指示する
- お子さまのシートベルトが正しい位置で、しっかり固定されているか確認する

一酸化炭素について

車の排気ガスには一酸化炭素が含まれています。車をきちんと保守していれば、一酸化炭素が車内に入ることはありません。
以下の場合は、排気ガスのもれがないかHonda販売店で点検を受けてください。

■点検が必要な場合

- 排気音に異常を感じたとき
- 車が衝突し、排気システムが損傷した可能性があるとき

一酸化炭素について

⚠警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。
一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。
密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、エンジンをかけたままにしない。
周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。
エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。

ガレージなどの密閉された場所は、一酸化炭素が急に充満するおそれがあります。
ガレージのドアを閉めたままエンジンを始動しないでください。ドアが開いている場合でも、ガレージから車を出す直前にエンジンを始動してください。



計器の見かた

この章では、運転中に使用するスイッチや警告灯・表示灯、
メーター類に関する情報を記載しています。

警告灯と表示灯
警告灯 48
表示灯 54
メーターとインフォメーションディスプレイ
メーター 60
インフォメーションディスプレイ 61

警告灯

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	ブレーキ警告灯(レッド)	• パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯(パーキングブレーキをかけているときは点灯) • パーキングブレーキをかけたときに点灯 • ブレーキフルード量が低下したときに点灯 • ブレーキシステムが異常のときに点灯	• 走行中に点灯したりパーキングブレーキを解除しても点灯するときは、ブレーキフルードを点検し、下限より減っている場合はただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 • ABS 警告灯と同時に点灯した場合も、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 **➲ ブレーキ警告灯(レッド)が点灯した** P.262
	ブレーキシステム警告灯(オレンジ)	• パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 • ブレーキに関係するシステムが異常のときに点灯 • シティブレーキアクティブシステム✤ が異常のとき点灯	• 走行中に点灯したときは、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 • シティブレーキアクティブシステム表示灯と同時に点灯したときは、シティブレーキアクティブシステムが故障して作動しません。Honda 販売店で点検を受けてください。 **➲ シティブレーキアクティブシステム✤** P.190
	油圧警告灯	• パワーモードを ON モードにすると点灯し、エンジン始動で消灯 • エンジン回転中、エンジン内部を潤滑しているオイルの圧力が低下すると点灯	• **走行中に点灯** = ただちに安全な場所に車を停車し、対処してください。 **➲ 油圧警告灯が点灯した** P.261

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	PGM-FI 警告灯	• パワーモードをONモードにすると点灯し、エンジン始動で消灯 エンジンを始動していないときは数十秒後消灯 • エンジンの排気ガス制御システムに異常があると点灯 • エンジン各気筒の失火状態を検知したときに点滅	• **走行中に点灯** =高速走行を避けてただちにHonda販売店で点検を受けてください。 • **走行中に点滅** =枯草などの可燃物のない安全な場所に停車し、10分以上エンジンを止めて冷えるまでお待ちください。 ➡ **PGM-FI 警告灯が点灯 / 点滅した** P.262
	充電警告灯	• パワーモードをONモードにすると点灯し、エンジン始動で消灯 • バッテリーが充電されていないと点灯	• **走行中に点灯** = 電気の消費量を減らすため、エアコンなどを OFF にし、対処してください。 ➡ **充電警告灯が点灯した** P.261
	トランスミッション警告灯✤	• トランスミッションが異常のときに点滅	• 運転中に点滅した場合は、急発進、急加速を避けて、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
	シートベルト非着用警告灯	• 運転席または助手席のシートベルトを着用しないと点灯 • パワーモードを ON モードにしたときや走行中、運転席または助手席のシートベルトを着用していないとブザーが鳴り、ブザーが鳴っている間は警告灯が点滅	• シートベルトを正しく着用するとブザーがやみ、警告灯が消灯します。 • シートベルトを正しく着用していても警告灯が点灯する場合は、センサーの誤検知などの要因が考えられます。 ➡ **シートベルトリマインダー** P.27

✤：**タイプやオプションなどにより、装備が異なります。**

次ページに続く

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	Honda スマートキーシステム警告灯	• パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 • Honda スマートキーシステムが異常のときに点灯	• 下記のような場合、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 • 運転中に点灯した • エンジン始動後も消灯しない • パワーモードが OFF モードのときに数秒間点灯した • パワーモードを OFF モードにしたときに数秒間点灯した
	燃料残量警告灯	• 燃料の残量が少なくなると点灯 点灯するのは、タンクに残っている残量がおよそ 4 リットルになったときです。 • 燃料計に異常があるときは点滅	• 点灯したら早めに給油してください。 • 点滅したときは、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
	ABS(アンチロックブレーキシステム)警告灯	• パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 • ABS が異常のときに点灯	• 常時点灯、あるいは全く点灯しない場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 **ABS(アンチロックブレーキシステム)** P.187
	エアバッグシステム警告灯	• パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 • 下記の異常を検出すると点灯 • エアバッグシステムの異常 • プリテンショナーシステムの異常	• 常時点灯、あるいは全く点灯しない場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	高水温警告灯（レッド）	• パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 • エンジン冷却水の温度が上がると点滅し、さらに上がると点灯	• エンジン冷却水の温度が低いときは、消灯後ブルーで点灯します。 **➡ 低水温表示灯（ブルー）** P.54 • **走行中に点滅** = ゆっくり走行してください。 • **走行中に点灯** = ただちに安全な場所に車を停車し、エンジンを冷やしてください。 **➡ オーバーヒート** P.259
	VSA（ビークルスタビリティアシスト）警告灯	• パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 • VSA が作動しているときは点滅 • ヒルスタートアシスト、発進補助ブレーキ機能✤、ブレーキアシストシステム、VSA システムのいずれかが異常のときに点灯	• 運転中に点灯した場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。なお、点灯の場合でも通常のブレーキ機能としての性能は確保されています。 **➡ VSA（ビークルスタビリティアシスト）** P.183
	VSA OFF 警告灯	• パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 • VSA を OFF にすると点灯	**➡ VSA（ビークルスタビリティアシスト）** P.183
	オートライトコントロール警告灯	• パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 • オートライトコントロールシステム、ロービームヘッドライトシステムが異常のとき点灯	• 運転中に点灯した場合は、ライトの点灯、消灯は手動で行い、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

次ページに続く

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	ドア / フロントフード開閉警告灯	• ドア、フロントフードが閉まっているときは、パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 • ドア、フロントフードが完全に閉まっていないとき点灯	• ドア、フロントフードを完全に閉めると、警告灯が消灯します。
	EPS(電動パワーステアリング)システム警告灯	• パワーモードを ON モードにすると点灯し、エンジン始動で消灯 • EPS システムの機能に異常があると点灯	• 常時点灯、あるいは全く点灯しない場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 **➡ EPS(電動パワーステアリング)システム警告灯が点灯した** P.263
	スターターシステム警告灯	• パワーモードを ON モードにすると点灯し、エンジン始動で消灯 • スターターシステムが異常のときに点灯	• ブレーキを踏んだまま ENGINE START/STOP をエンジンが始動するまで約 15 秒間押し続けてください。消灯しないときや再び点灯した場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
	アイドリングストップシステム警告灯(オレンジ)✤	• パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 • アイドリングストップシステムに異常があるときに点灯	• 点灯したときは、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	セレクトポジション P 移動警告灯✤	• セレクトレバーが P 以外のときに、パワーモードがONモードからアクセサリーモードになると点灯 • アイドリングストップ中に、リヤフードなどを開けると点灯	• パワーモードをOFFモードにしたいときは、セレクトレバーを P にして、ブレーキを踏まずに ENGINE START/STOP を2回押してください。 • エンジンを始動させたいときは、通常のエンジンの始動操作をしてください。 ➡ **エンジンの始動** P.162
	Honda スマートキー電池消耗警告灯	• Honda スマートキーの電池残量が少なくなったときに、ブザーと同時に点灯	➡ **電池交換のしかた** P.230
	Honda スマートキー持ち去り警告灯	• Honda スマートキーを車外に持ち出し、ドアを閉めたときに、警告音と同時に表示	• Honda スマートキーを車内に戻してドアを閉めると消灯します。 ➡ **Honda スマートキー持ち去り警告** P.84

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

表示灯

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	方向指示器 表示灯	• 方向指示器と対応し、左右どちらかが点滅 • 非常点滅表示灯スイッチを押すと、左右同時に点滅	• 点滅しない / 点滅の周期が速いときは、方向指示器の電球が切れています。ただちに電球を交換してください。 ➲ **電球の交換** P.217, 218, 219
	ハイビーム表示灯	• ヘッドライトを上向きにしたときに点灯	—
	ライト点灯 表示灯	• ライトスイッチが OFF 以外のときに点灯（AUTO のときは車幅灯点灯時に点灯）	• ライトを点灯したままパワーモードを OFF モードにすると、運転席のドアを開けたときにライト消し忘れ警告ブザーが鳴ります。
	低水温表示灯 （ブルー）	• エンジン冷却水の温度が低いときに点灯	• 暖機を十分にした状態で、表示灯が点灯したままのときは、温度センサーなどの異常が考えられます。Honda 販売店で点検を受けてください。
	ハンドル操作 表示灯	• ハンドルのロックが解除されていないときに点灯	• ENGINE START/STOP を押しながら、ハンドルを左右に動かします。

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	セキュリティアラームシステム作動表示灯	• ENGINE START/STOP を押したとき、イモビライザーシステムがキーの情報を認識できないと点滅	• ENGINE START/STOP を押したあと、点滅しているときは、エンジンを始動することはできません。 パワーモードをいったん OFF モードにしてから、もう一度 ON モードにしてください。 • 頻繁に表示灯の点滅を繰り返す場合は、システムの異常が考えられますのでHonda 販売店で点検を受けてください。 • ENGINE START/STOP スイッチのそばに、別のキーや金属があるとイモビライザーシステムがキーの情報を読み取れないことがあります。
		• セキュリティアラームシステムがセットされているときに点滅	➡ セキュリティアラームシステム P.76

次ページに続く

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	セレクトポジション表示灯✤	• 現在のポジションを表示	• 外気温が低い場合には、セレクトポジションの表示が遅れます。 ➡ **セレクトレバーの操作** P.170
	シフトインジケーター/ M (7速マニュアルシフトモード)表示灯✤	• SPORT モードで、7速マニュアルシフトモードのとき M 表示灯が点灯 • 7速マニュアルシフトモードのとき、ギヤ位置を表示	➡ **7速マニュアルシフトモードとは** P.171
	クルーズメイン表示灯✤	• CRUISE スイッチを押して、クルーズコントロールを ON にすると点灯	➡ **クルーズコントロール✤** P.180
	クルーズコントロール表示灯✤	• クルーズコントロールで自動定速走行しているときに点灯	➡ **クルーズコントロール✤** P.180
	アイドリングストップ表示灯(グリーン)✤	• アイドリングストップシステムが作動し、アイドリングストップしたときに点灯	➡ **アイドリングストップシステム** P.176
	ブレーキ踏み込み不足表示灯✤	• ブレーキペダルの踏み込みが足りないため、アイドリングストップしないときに点滅	• ブレーキペダルを踏み込んでください。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
CTBA	シティブレーキアクティブシステム表示灯✤	• パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 • 衝突の可能性があるときブザーが断続的に鳴り表示灯が点滅 • システムにより車両が停車したときは、ブザーが鳴り止み、表示灯は 10 数秒点滅した後、消灯	• 減速などして十分な車間距離を確保してください。車間距離が確保されると警報は消えます。 • 衝突のおそれがあると、自動でブレーキがかかります。 ➡ **シティブレーキアクティブシステム✤** P.190
		• CTBA OFF でシステムを停止すると点灯 • CTBA OFF を押してシステムを作動状態にすると消灯	➡ **シティブレーキアクティブシステム✤** P.190
		• フロントガラス上部にあるレーザーセンサー付近に汚れ、氷、霜などの遮蔽物があるとき点滅 • 雨、霧、雪など悪天候のときも点滅することがあります。	• 走行中はウォッシャーとワイパーで汚れなどの遮蔽物を取り除いてください。 • 安全な場所に停車して、レーザーセンサー付近のフロントガラスの汚れなどの遮蔽物をふき取ってください。 ➡ **シティブレーキアクティブシステム✤** P.190 • 遮蔽物が落ちるとシステムは復帰します。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

次ページに続く

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
CTBA	シティブレーキアクティブシステム表示灯✤	• フロントフードに雪などが積もっているときに点滅することがあります。	• 安全な場所に停車してフロントフード上の雪などを取り除いてください。
		• フロントガラス上部にあるレーザーセンサー付近の温度が高くなると点滅することがあります。	• エアコンで室内温度を下げるなどしてフロントガラス上部にあるレーザーセンサー付近の温度を下げてください。 • 温度が下がるとシステムは復帰します。
		• システムに異常があるとブレーキシステム警告灯(オレンジ)と共に点灯	• システムは作動しません。 Honda 販売店で点検を受けてください。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	エンジンオイル メンテナンス 表示灯	• パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 • エンジンオイルの交換時期が近づくと点滅 • エンジンオイルの交換時期が過ぎると点灯	• **約 10 秒間点滅した後に消灯** =表示灯をリセットしてから 4,500km 以上走行したことを示します。 • **消灯しない** =表示灯をリセットしてから 5,000km 以上走行したことを示します。すみやかにエンジンオイルを交換してください。エンジンオイルを交換した後は、表示灯をリセットしてください。 ➲ **表示灯のリセット** P.204 • この表示灯は、走行距離を積算してエンジンオイルの交換時期をお知らせします。前回エンジンオイル交換後、リセットしてからの走行距離が 5,000km 未満であっても、6ヶ月が経過した場合はエンジンオイルを交換してください。 ➲ **ターボ車について** P.203

メーター

メーターには、スピードメーター、燃料計などの種類があります。
パワーモードが ON モードのとき表示されます。

■スピードメーター

走行速度を km/h で表示します。

■燃料計

燃料タンクに残っている燃料の量を表示します。

■タコメーター

1 分間あたりのエンジン回転数を表示します。

»燃料計

アドバイス

燃料計が「E」に近づいたら、早めに給油してください。
燃料がなくなるとエンジンが点火しなくなり、触媒装置を損傷することがあります。

実際の燃料残量と、メーターに表示される量は異なる場合がありますので、ご注意ください。

»タコメーター

アドバイス

エンジン故障の原因となりますので限界回転数以上(レッドゾーン)に入らないよう運転してください。
特に、高速走行時にシフトダウンするときには、注意してください。

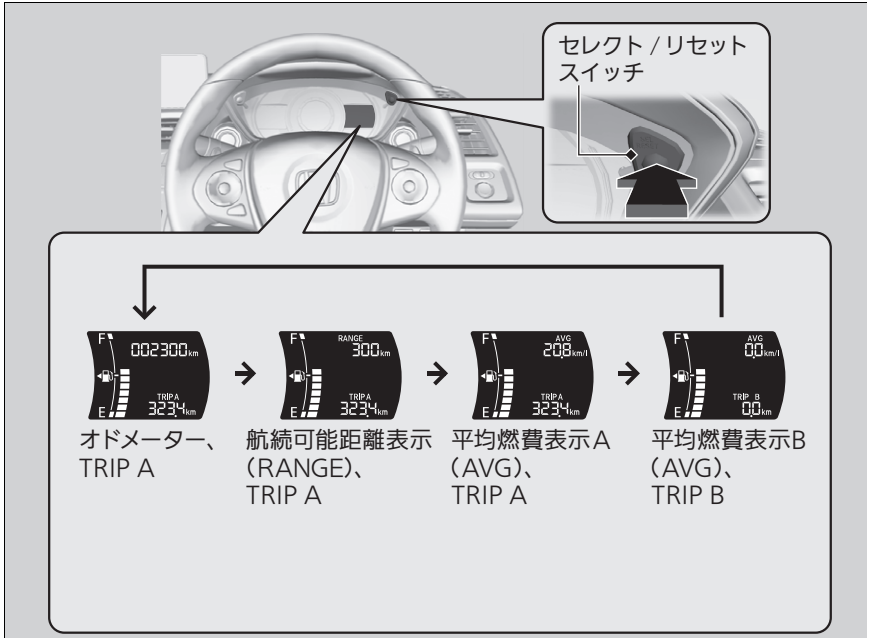
セレクトレバーが R のときや、空ぶかしをしたときは、エンジンの限界回転数より低い回転数でも、トランスミッション保護のため燃料供給が停止されます。

インフォメーションディスプレイ

インフォメーションディスプレイには、オドメーター、トリップメーター、外気温表示などが表示されます。

■表示の切り換えかた

セレクト / リセットスイッチを押すごとに、表示が下記のように切り換わります。



次ページに続く

■オドメーター

走行距離の累計を km で表示します。

■トリップメーター

リセットしてからの走行距離を km で表示します。
トリップ A と、トリップ B があり、それぞれ独立して計測するため 2 つの走行距離を知ることができます。

■トリップメーターをリセットするには

トリップメーターが表示されている状態で、セレクト / リセットスイッチを押し続けてください。トリップメーターが 0.0 にリセットされます。

■外気温表示

外気温を測定し表示します。

■外気温表示を補正するには

外気温とメーターの表示温度に差がある場合、±3℃の範囲で補正することができます。
補正するには、セレクト / リセットスイッチを押し続け、設定したい補正値が表示されたら指を離します。

トリップメーター

トリップ A とトリップ B は、セレクト / リセットスイッチを押して切り換えます。
トリップメーターは走行距離が 9999.9km を超えると、0.0km に戻ります。

外気温表示

温度センサーはフロントバンパー付近に付いています。
速度がおよそ30km/h以下のときは、表示される温度が、路面の熱、エンジンの熱、周囲の車の排気ガスの影響を受けることがあります。
また、温度の読み取り値が安定するまで更新されないため、温度表示の更新に数分かかることがあります。

外気温表示の補正は、温度が安定してから行ってください。
パワーモードを ON にしたとき、外気温が 3℃以下の場合は、外気温表示が数秒点滅します。

■瞬間燃費表示

瞬間燃費をバーグラフに km/l で表示します。

■平均燃費表示(AVG)

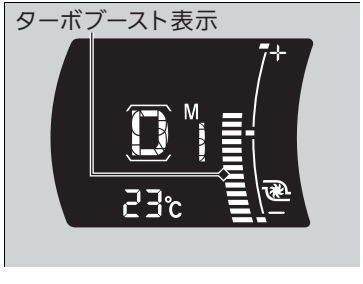
トリップメーターA、B と連動し、それぞれの平均燃費を一定時間ごとに更新して km/l で表示します。
トリップメーターをリセットすると、平均燃費表示も同時にリセットされます。

■航続可能距離表示(RANGE)

燃料残量と平均燃費をもとに推定航続可能距離を km で表示します。

■ターボブースト表示

ターボブースト表示



ターボチャージャーの作動状態をバーグラフで表示します。

SPORT モードスイッチ✤/SELECT モードスイッチ✤ を押すと、瞬間燃費表示がターボブースト表示に切り換わります。

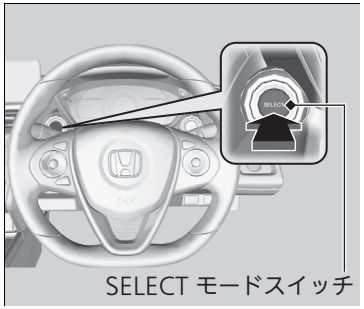
航続可能距離表示(RANGE)

表示される航続可能距離は、実際に航続可能な距離とは異なる場合があります。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

次ページに続く

■ SELECT モードスイッチ(マニュアル車)


SELECT モードスイッチ

パワーモードがアクセサリーまたはON モードのときにスイッチを押すと、SELECT モードが ON になります。

アンビエントメーターが白色から赤色に変化し、瞬間燃費表示がターボブースト表示に切り換わります。

»SELECT モードスイッチ(マニュアル車)

パワーモードを OFF モードにすると SELECT モードは自動的に OFF になります。

各部の操作

この章では、運転に必要な各部の操作方法について記載しています。



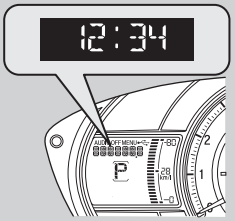
時刻の設定 66
ドアの施錠と解錠
キーの種類と機能 68
Honda スマートキーの微弱電波 70
車外でのドアの施錠 / 解錠 71
車内での施錠 / 解錠 75
衝撃感知ドアロック解除システム 75
セキュリティシステム
イモビライザーシステム 76
セキュリティアラームシステム 76
ウィンドーの開閉 78
ロールトップ 79
ハンドルまわりのスイッチ操作
ENGINE START/STOP スイッチ 82
方向指示器(ウィンカースイッチ) 85
ライトスイッチ 86
ワイパー/ ウォッシャー 87
イルミネーション 88
ハンドルの調節 88
ミラー類の調節 89
シートの調節 90
室内灯 / 室内装備品 92
エアコン
エアコンの吹き出し口 95
オートエアコンの使いかた 96
オートエアコンのセンサー 98

時計の時刻を合わせる

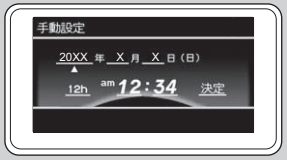
センターディスプレイ(スマートフォン連携ナビ対応オーディオ)装備車

時計はオーディオ装置の画面と、メーターに表示されます。

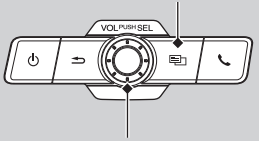
メーター側



オーディオインフォメーション画面側



(設定) スイッチ



VOL/PUSH/SEL スイッチ

1. (設定)スイッチを押す。

2. を回して「**日時設定**」を選択し、を押す。

3. 手順２．と同様の操作で、「**手動設定**」を選択する。

4. を回して調整したい項目を選択し、を押す。

▶年、月、日、時、分、12h/24h 表示を変更できます。を回して調整し、を押して決定します。

5. 最後に「**決定**」を選択し、を押す。

時間設定が完了しました。

≫時計の時刻を合わせる

スマートフォンとの時計同期機能をオンにしている場合、時計設定後に同期機能をオフにするか確認画面が表示されます。

➡ **時計機能の同期** P.143

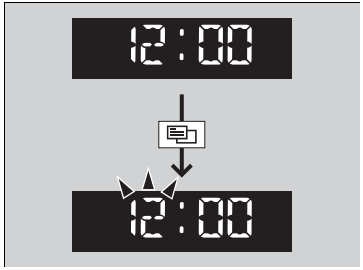
VOL/PUSH/SEL スイッチ

VOL/PUSH/SEL スイッチを押す操作を、本文中では「」と表します。

VOL/PUSH/SEL スイッチを回す操作を、本文中では「」と表します。

iPod 対応 USB プレーヤー/FM・AM チューナー装備車

時計はメーターに表示されます。



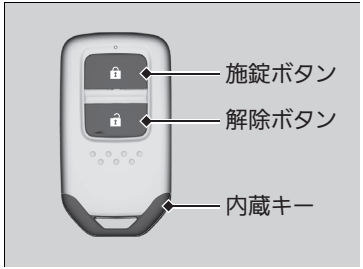


1. スイッチを押して、時計表示にする。
2. スイッチを押す。
   ▶「時」が点滅します。
3. ＋ / － スイッチを押して、時間を合わせる。
4. ▶を押す。
   ▶「分」が点滅します。
5. ＋ / － スイッチを押して、時間を合わせる。
6. スイッチを押す。
   ▶「**CLK**」が表示されます。
7. ◀/▶、＋/－スイッチを押して、「**CLK 12H**」、または「**CLK 24H**」を選択する。
   ▶「12H」または「24H」を選択すると時刻表示が 12 時間または 24 時間に切り換わります。
8. スイッチを押す。

時間設定が完了しました。

キーの種類と機能

この車には、以下のキーが付いています。



エンジンの始動、停止のほかに、すべてのドアの施錠 / 解錠に使用できます。
キーについているボタンで、すべてのドアの施錠 / 解錠の操作ができます。

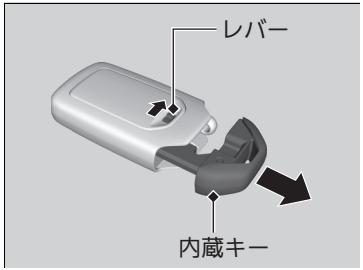
キーの種類と機能

すべてのキーには、イモビライザーシステムがついています。イモビライザーシステムは、車両を盗難から守るためのシステムです。
イモビライザーシステム P.76

キーには、精密な電子部品が組み込まれています。
故障を防ぐため、下記の点をお守りください。
- 直射日光が当たる場所、高温、多湿の場所に置かない
- キーを落としたり、重いものをのせない
- キーに液体をかけない
- 分解をしない
- 火であぶらない
- テレビ、オーディオなど磁気を帯びた機器の近くに置いたりしない

キーの電子部品が故障すると、エンジンの始動やリモート発信が作動しなくなることがあります。
キーが正常に作動しなくなった場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

■Honda スマートキー



Honda スマートキーの電池が切れたときや車のバッテリーがあがったときは、内蔵キーを使用してください。
内蔵キーは、レバーを引きながら取り出します。

収納するときは、「カチッ」と音がするまで差し込みます。

Honda スマートキーの電池の消耗や故障したときのことを考慮して、内蔵キーはHondaスマートキーに収納しておいてください。

Honda スマートキー

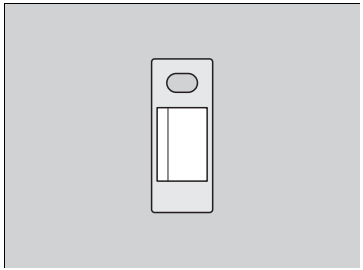
Honda スマートキーは、特定小電力無線設備の技術基準適合証明を受けています。以下のことをお守りください。

- 日本国内でのみ使用する
- 電池交換時以外は分解しない
- 改造しない
- キーの内部にある技術基準適合表示を故意に消去、改ざんしない

分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。

➡ Honda スマートキーの電池が切れたとき
P.253

■キーナンバータグ



キーナンバータグには、キーを購入する際に必要となる番号が記載されています。

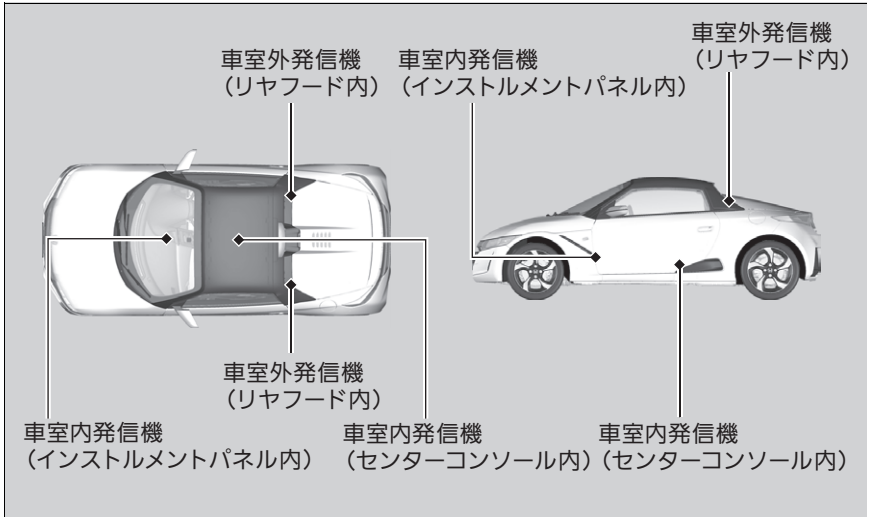
キーナンバータグ

キーナンバータグは、キーとは別に車両以外の場所に大切に保管してください。
キーナンバータグには、キーを購入する際に必要となる番号が記載されています。キーと一緒に保管せず、車両以外の場所に大切に保管してください。キーを紛失したときや、追加購入したいときは、Honda 販売店に依頼してください。

Honda スマートキーの微弱電波

Honda スマートキーを使用してドアの施錠 / 解錠操作をするときやエンジンをかけるとき、Honda スマートキーとの電子照合を行うために車両から電波が発信されます。
そのため、次のような場合正常に作動しなかったり、不安定な動作となったりすることがあります。

- 近くに強い電波を発する設備があるとき
- 携帯電話や無線機などの通信機器やノートパソコンと一緒に Honda スマートキーを携帯しているとき
- Honda スマートキーが金属物に触れていたり覆われていたりするとき



▶Honda スマートキーの微弱電波

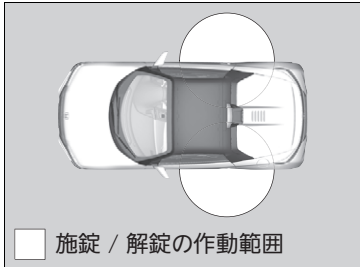
⚠注意

植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器を使用しているかたは、車両に搭載されている発信機から 22cm 以内に近づかない。
Honda スマートキーシステムで発信されている電波が、機器の作動に影響を与える可能性があります。医療用電子機器を使用しているかたは、医師や医療用機器製造者に影響を確認してからご使用ください。

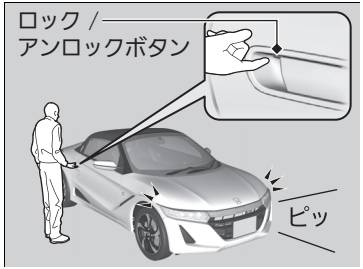
Honda スマートキーは車両との通信のために常時受信動作をしているため、常に電池を消耗しています。電池寿命は、使用状況により異なりますが約 2 年間です。
また、強い電波を受信し続けると電池を著しく消耗することがあります。テレビやパソコンなどの電化製品の近くには置かないでください。

車外でのドアの施錠 / 解錠

■ Honda スマートキーシステムでの施錠 / 解錠



Honda スマートキーを携帯し、ロック / アンロックボタンを操作することでドアの施錠や解錠を操作します。
ドアの施錠 / 解錠が作動するのは、運転席ドアハンドル、助手席ドアハンドルから周囲約 80cm 以内です。



■施錠するには

運転席ドア、または助手席ドアのロック / アンロックボタンを押します。

▶「ピッ」というアンサーバック音が鳴り非常点滅表示灯が1回点滅し、すべてのドアが施錠されます。

車外でのドアの施錠 / 解錠

パワーモードがOFFモード以外のときはキーレスエントリーシステムおよび Honda スマートキーシステムによる施錠 / 解錠はできません。

Honda スマートキーシステムでの施錠 / 解錠

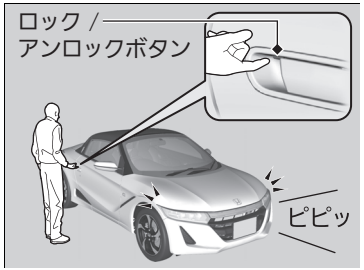
30 秒以内にドアを開けてください。

Honda スマートキーシステムで解錠操作をした場合、30 秒以内にドアを開けないと、再び自動的に施錠されます。

- Honda スマートキーは運転者が携帯し、車内に残したまま降車しないでください。
- ロック / アンロックボタンを押した直後にドアハンドルを引くと、ドアが開かないことがあります。ボタンをもう一度押し直して、解錠されていることを確認してからドアハンドルを引いてください。
- ドアハンドルより約80cm以内の距離でも、Honda スマートキーが地面の近くや高い位置にあるときは作動しないことがあります。
- ドアやドアガラスに近づきすぎていると作動しないことがあります。

フロントフードが開いている状態でロック / アンロックボタンを押すと、「ピピピピピピッ」とブザーが鳴り、施錠することができません。

次ページに続く



■解錠するには

運転席ドア、または助手席ドアのロック / アンロックボタンを押します。

▶「ピピッ」というアンサーバック音が鳴り非常点滅表示灯が 2 回点滅し、すべてのドアが解錠されます。

Honda スマートキーシステムでの施錠 / 解錠

カスタマイズ機能について

施錠 / 解錠時に鳴るアンサーバックブザーの設定は、変更することができます。
カスタマイズ機能の詳細は Honda 販売店にご相談ください。

カスタマイズ機能	選択できる設定内容
アンサーバック ブザー音量	大※、小
アンサーバック ブザー作動	作動※、非作動

※：工場出荷時の設定

■キーレスエントリーシステムでの施錠 / 解錠



■施錠

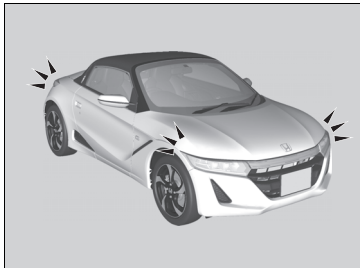
施錠ボタンを押します。

▶ 非常点滅表示灯が1回点滅し、すべてのドアが施錠されます。

■解錠

解錠ボタンを押します。

▶ 非常点滅表示灯が2回点滅し、すべてのドアが解錠されます。



キーレスエントリーシステムでの施錠 / 解錠

30 秒以内にドアを開けてください。

キーレスエントリーシステムで解錠操作をした場合、30 秒以内にドアを開けないと、再び自動的に施錠されます。

解錠ボタンを押すと、室内灯が点灯します。

室内灯のスイッチがドアと連動する位置にあるとき、解錠ボタンを押すと室内灯が点灯します。約 30 秒点灯し、徐々に暗くなります。30 秒以内にキーレスエントリーシステムで施錠すると、室内灯はただちに消灯します。

➔ **室内灯** P.92

キーレスエントリーシステムは微弱電波を使用しているため、周囲の状況により作動範囲が変化することがあります。

ドアが開いているときは、キーレスエントリーシステムで施錠できません。

作動距離が不安定になった場合は、電池の消耗が考えられます。

ボタンを押したときにインジケーターが点灯しない場合は、電池切れです。

➔ **電池交換のしかた** P.230

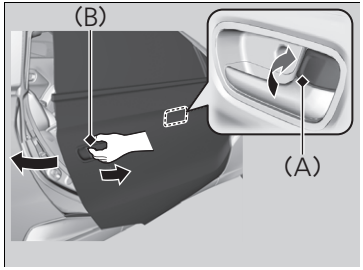
次ページに続く

■キーを差し込んでの施錠 / 解錠



キーを確実に差し込んで回します。
内蔵キーを取り出して操作してください。

■キーを使わないでの施錠



■運転席のドアの施錠

ノブ(A)を押し込み、外側のドアハンドル(B)を引いたままドアを閉めます。

■運転席以外のドアの施錠

ノブを押し込み、ドアを閉めます。

■キー閉じ込み防止装置

Honda スマートキーが車内の作動範囲内に置いてあると、施錠できません。

»キーを差し込んでの施錠 / 解錠

運転席ドアでのキー操作

運転席ドアにキーを差し込んで施錠 / 解錠すると、ほかのすべてのドアも同時に施錠 / 解錠されます。

セキュリティーシステムがセットされているとき、内蔵キーで解錠するとセキュリティーシステムが作動します。

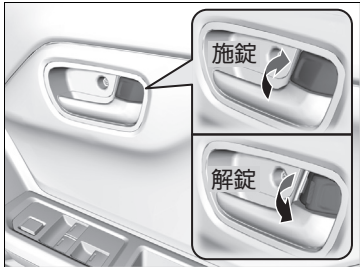
»キーを使わないでの施錠

運転席ドアで施錠すると、助手席ドアも同時に施錠されます。

キー閉じ込み防止のため、キーを持っていることを確認してから施錠しましょう。

車内での施錠 / 解錠

■ノブでの施錠 / 解錠



■施錠するには
ノブを押し込みます。

■解錠するには
ノブを引き出します。

ノブでの施錠 / 解錠

運転席ドアのノブで施錠 / 解錠すると、助手席ドアも同時に施錠 / 解錠されます。

衝撃感知ドアロック解除システム

車両に衝撃が加わったときに、自動的にすべてのドアを解錠するシステムです。
作動するのは以下の場合です。

- 正面からの衝撃：SRS エアバッグが作動したとき
- 側面からの衝撃：サイドエアバッグが作動したとき
- 後面からの衝撃：衝撃が大きいとき

いずれの場合も、安全性を考慮して衝撃を受けてから約 10 秒後に解錠します。

衝撃感知ドアロック解除システム

衝撃の加わりかたや大きさによっては解錠しない場合があります。

イモビライザーシステム

イモビライザーシステムとは、キーに信号を発信する電子部品が組み込まれてあり、あらかじめ登録されたキーでないとエンジンの始動ができないようにしたシステムです。

イモビライザーシステムでは、車両とキーの電子照合を行うときに微弱な電波を使用します。ENGINE START/STOPを押すときは、下記の点に注意してください。

- ENGINE START/STOP ボタンの近くに強い電波を発するものを近づけない
- キーを金属に触れさせたり、覆ったりしない
- ほかの車両のイモビライザーシステムのキーを近づけない
- 磁気を帯びたキーホルダーなどをキーと一緒に取り付けない

イモビライザーシステム

システムの改造や追加をしないでください。
システムが故障するおそれがあります。

セキュリティアラームシステム

セキュリティアラームシステムは、キーレスエントリーシステムまたは、Honda スマートキーシステムを使わずにドア、フロントフード、リヤフードを開けると、警報装置が作動するシステムです。

■作動すると
ホーンが断続的に鳴り、非常点滅表示灯がすべて点滅します。

■停止させるには
キーレスエントリーシステムまたは、Honda スマートキーシステムで解錠するか、パワーモードをONモードにしてください。システムが停止し、ホーンと点滅も停止します。

セキュリティアラームシステム

システムの改造や追加をしないでください。
システムが故障するおそれがあります。

警報装置はセキュリティアラームシステムを停止させるまで、約５分間作動します。
ホーンおよび非常点滅表示灯は、1 回の作動につき約 30 秒間作動し、その警報作動が 10 回行われます。
状況によっては、5 分以上作動する場合があります。

■セットするには

セキュリティアラームシステムは、以下の条件が整うと自動的にセットされます。

- パワーモードが OFF モードになっている
- フロントフード、リヤフードが閉まっている
- キーレスエントリーシステムまたは、Honda スマートキーシステムで車外からすべてのドアが施錠されている

■セットされると

メーター内にある作動表示灯が点滅し、約 15 秒後に点滅間隔が長くなります。

■セットを解除するには

キーレスエントリーシステムまたは、Honda スマートキーシステムで解錠するか、パワーモードをONモードにすると解除されます。同時に作動表示灯が消灯します。

セキュリティアラームシステム

車内に人が乗っているときやウィンドーが開いているときでも、セキュリティアラームシステムは作動します。

警報装置の思わぬ作動を防ぐために、人が乗っていたりウィンドーが開いているときには、セキュリティアラームシステムをセットしないでください。

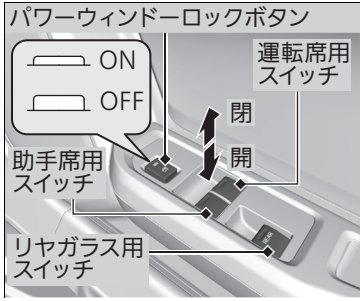
セキュリティアラームシステムをセットした後にバッテリーがあがり、バッテリーの充電、交換をすると、警報装置が作動することがあります。

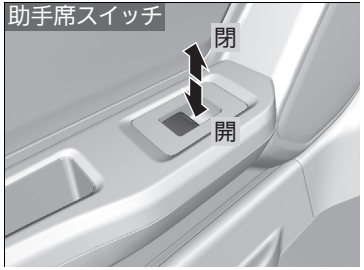
そのときは、キーレスエントリーシステムまたは、Honda スマートキーシステムでドアを解錠し、セキュリティアラームシステムを解除してください。

セキュリティーシステムがセットされているとき、内蔵キーで解錠するとセキュリティーシステムが作動します。

パワーウィンドーの開閉

パワーモードをONモードにしたときに、パワーウィンドーの開閉操作を行うことができます。開閉はそれぞれのドアにあるスイッチで行います。運転席のスイッチでは、すべてのウィンドーの開閉操作を行うことができます。
運転席以外のウィンドーの開閉は、運転席のパワーウィンドーロックボタンをOFF にしてから行います。
パワーウィンドーロックボタンを OFF にすると、スイッチにある表示灯が消灯します。
パワーウィンドーロックボタンを ON(表示灯点灯)にしておくと、運転席以外のウィンドーは作動しません。お子さまを乗せているときなどは、パワーウィンドーロックボタンを ON にしておいてください。





開けるとき：スイッチを押す
閉めるとき：スイッチを引き上げる
希望の位置で手を離すことで、窓の開閉を調節します。

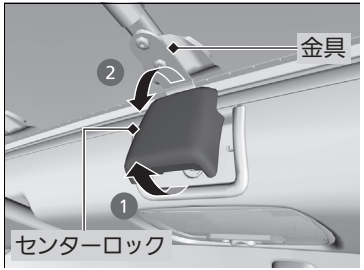
▶パワーウィンドーの開閉

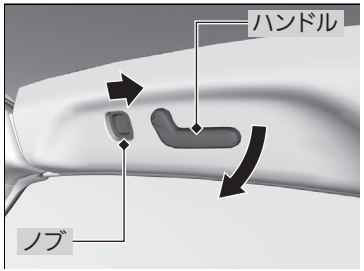
⚠警告

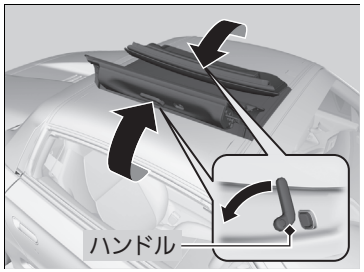
パワーウィンドーを閉めるときは、同乗者が窓から手や顔などを出していないことを確認する。
手や顔などをパワーウィンドーにはさむと、重大な傷害を負うおそれがあります。特にお子さまには気をつけてください。

お子さまだけを車内に残さない。必ず Honda スマートキーを携帯しドアをロックしてお子さまと一緒に車外に出てください。

■ロールトップの取り外し







1. ドアを開ける、もしくはドアガラスを全開にする。
2. センターロックの下側を手前に引いてロックを解除する。
3. センターロックの上側をロールトップの金具から外す。

4. ノブを解除方向にスライドさせた状態で、左右のハンドルを下げる。

5. 左右から中央に向かって、ロールトップを折りたたむ。
▶ このとき左右のハンドルはロック位置に戻してください。

次ページに続く

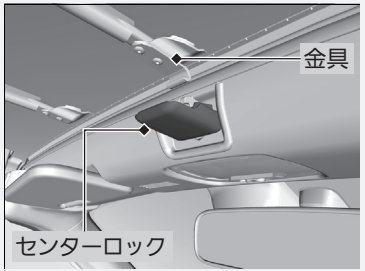
▧ロールトップの取り外し

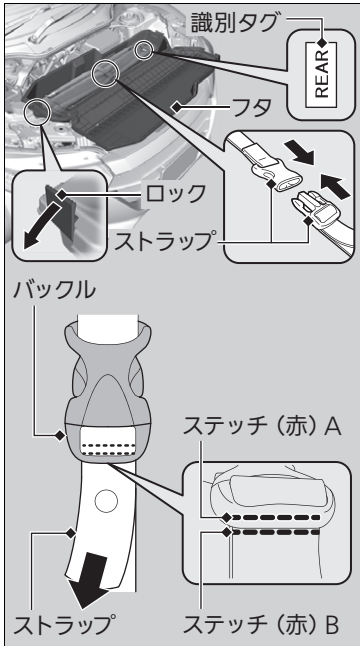
⚠注意

走行中や停車中に開口部から頭や手、ものなどを出さない。
障害物や急ブレーキなどで思わぬ事故につながるおそれがあります。

ロールトップの脱着は、必ず車両を安全な場所に停車させてからおこなってください。

ロールトップを取り外す前にセンターロックが解除されているか確認してください。





6. フロントフードを開ける。

フロントフード（ボンネット）を開ける
P.213

7. ユーティリティボックスの左右にあるロックを解除して、フタを開ける。

8. 車両正面からみてロールトップの識別タグが右側にくるように収納する。

9. ストラップで緩みがないようにロールトップを固定する。

▶ ステッチ（赤）A がバックルに隠れ、ステッチ（赤）B がバックル端部で見えるようにストラップを締めてください。

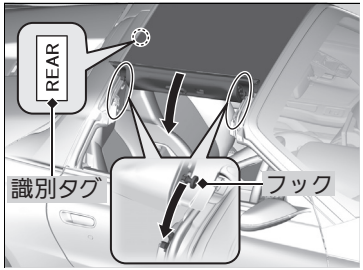
10. ユーティリティボックスのフタを閉じてロックする。

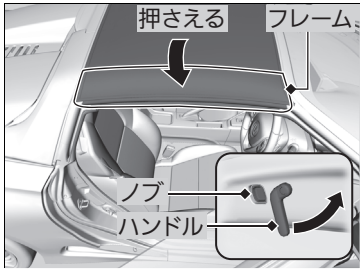
ロールトップの取り外し

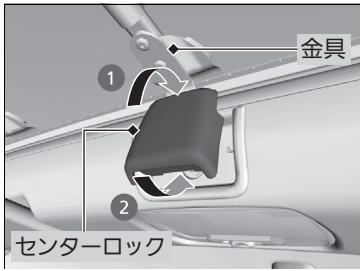
ユーティリティボックスに荷物などを収納するときは、次の内容をまもって使用してください。

- フタは左右のロックで確実に閉める。
- エンジン始動中はボックス内の温度が高くなるので、熱に弱いものは入れない。
- ボックス内に水が浸入するおそれがあるので、水に濡れると困るものは直接入れない。
- 走行中の振動等によって、荷物が傷ついたり、破損するおそれがあるので、壊れやすいものはボックスに収納しない。
- ボックスの最大積載量 10kg を超える量の荷物を入れない。

■ロールトップの取り付け







1. ドアを開けるもしくはドアガラスを全開にする。
2. ロールトップを車体の中央にのせる。
▶ このとき左右のハンドルは解除位置にしてください。
▶ 識別タグが、車体の後ろ側になるようにのせてください。
3. ロールトップを、左右が均等になるように広げていき、ロールトップのフックを車体側の溝に取り付ける。
4. 左右のフレームの中央を下側に押さえながら、「カチッ」と音がするまで、ハンドルを引き上げてロックする。
▶ ノブの赤い印が見えないのを確認してください。
▶ フレームの押さえが不十分だと、正しい位置に機構が収まらず、車体側に傷がつくことがあります。
5. センターロックの上側をロールトップの金具に引っかける。
6. センターロックの下側を前方に押してロックを固定する。
7. ロールトップが完全に車体に固定されていることを確認する。

▧ロールトップの取り付け

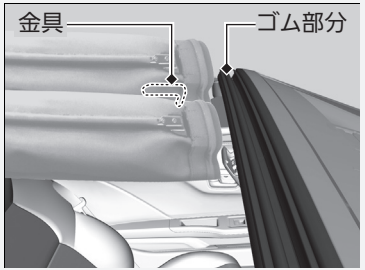
⚠警告

ロールトップは必ず左右のロックで固定する。
固定されていないと風にあおられるなどしてロールトップが外れ、死亡または重大な傷害を負うおそれがあります。

ロールトップは必ずセンターロックで固定してください。固定されていないと、雨や風が車内に侵入するおそれがあります。

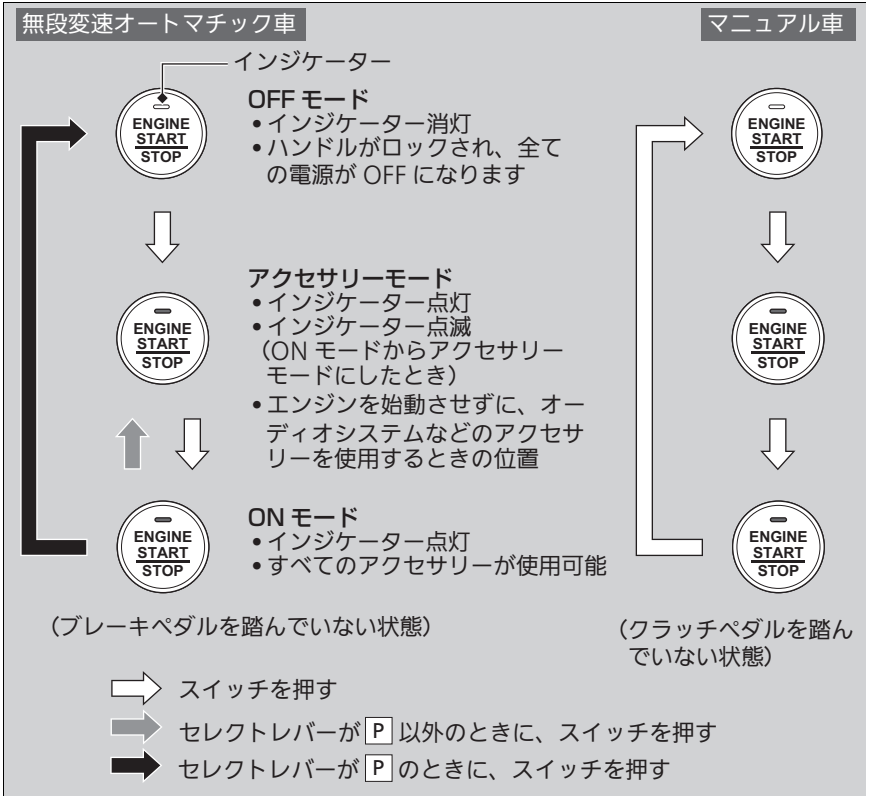
アドバイス

ロールトップ取り付けの際は、ロールトップの金具で、ゴム部分を傷つけないようにしてください。



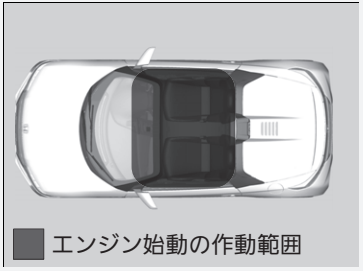
ENGINE START/STOP スイッチ

■パワーモードの切り換えかた



ENGINE START/STOP スイッチ

Honda スマートキーが車内にある場合エンジンを始動できます。エンジン始動の機能が作動する範囲は、インストルメントパネル上、グローブボックスなどの各種小物入れを除く車内です。



Honda スマートキーが車外にあっても、ドアやドアガラスに近づきすぎていると、エンジンの始動ができることがあります。

ON モード：
エンジンが始動しているときは、インジケーターが消灯します。

ENGINE START/STOP のパワーモードが OFF モードからアクセサリーモードに切り換わらないときは、ハンドルロックを解除します。
ハンドルを左右に回しながら、
ENGINE START/STOP を押してください。
ハンドルロックが解除されます。

■パワーモードオートオフ機能

セレクトレバーが P (無段変速オートマチック車)でパワーモードがアクセサリーモードのときに 30 分～ 60 分経過すると、バッテリー保護のため自動的にパワーモードが OFF モードになります。
このときはハンドルはロックされません。またキーレスエントリーシステムおよび Honda スマートキーシステムによる施錠 / 解錠ができなくなります。
ENGINE START/STOP を押してパワーモードを再度 OFF モードに切り換えてください。

■パワーモード警告ブザー

次の状態で車を離れようとして運転席ドアを開けた場合、警告ブザーが鳴ります。

- パワーモードがアクセサリーモードのとき

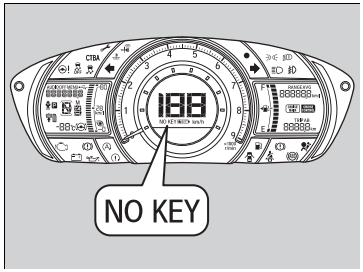
»ENGINE START/STOP スイッチ

Honda スマートキーの電池が消耗したときは、ブザーとともにインフォメーションディスプレイに警告が表示されます。

➔Honda スマートキーの電池が切れたとき
P.253

次ページに続く

■ Honda スマートキー持ち去り警告



警告ブザーには、車内警告ブザー(ピーッピーッピーッピーッピーッピーッ)と車外警告ブザー(ピピピピピピ)の 2 種類があります。警告状態が続くときは、Honda スマートキーの携帯位置を変更してください。

■パワーモードが ON モードのとき

Honda スマートキーを車外に持ち出しドアを閉めると、メーター内に警告を表示するとともに、車内警告ブザーと車外警告ブザーが鳴ります。

■パワーモードがアクセサリーモードのとき

Honda スマートキーを車外に持ち出しドアを閉めると、車外警告ブザーが鳴ります。

»Honda スマートキー持ち去り警告

エンジン始動の作動範囲内に Honda スマートキーを戻してドアを閉めると、警告が解除されます。

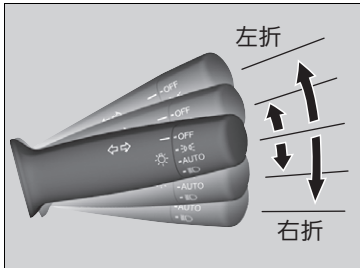
Hondaスマートキーを、インストルメントパネル、グローブボックスなどに置いた場合、電波状態により警告ブザーが鳴ることがあります。

Honda スマートキーを持ち出した状態で、パワーモードをOFFモードにすると、パワーモードの操作ができなくなります。
パワーモードを操作するときは、Hondaスマートキーを持っていることを確認してください。

窓からの受け渡しでは、Hondaスマートキー持ち去り警告は作動しません。

Hondaスマートキーがエンジン始動の作動範囲内にあっても、周囲の環境や電波状態によりHondaスマートキー持ち去り警告が行われることがあります。
故障ではありませんので、Hondaスマートキーを持っていることを確認してください。

方向指示器(ウィンカースイッチ)



パワーモードがONモードのときに使用できます。

■ワンタッチターンシグナル

レバーを軽く押し下げ / 押し上げて離すと、方向指示器と方向指示器表示灯が３回点滅します。

ライトスイッチ



スイッチを回すとパワーモードの位置に関係なく、点灯 / 消灯します。

■ハイビーム

「カチッ」と音がするまでレバーを前方に押します。

■ロービーム

ハイビームのときは、レバーを手前に引きます。

■追越合図(パッシング)

レバーを手前に引き、離します。

■ヘッドライトオートオフ機能

パワーモードをOFFモードにして、Hondaスマートキーですべてのドアを施錠すると、ヘッドライト、車幅灯、尾灯、番号灯やインストルメントパネルの照明が消灯します。

▶運転席ドアを開けると再び点灯し、ライト消し忘れ警告ブザーが鳴ります。

ライトスイッチを AUTO にしているときはパワーモードをOFFモードにすると消灯します。

ライトスイッチ

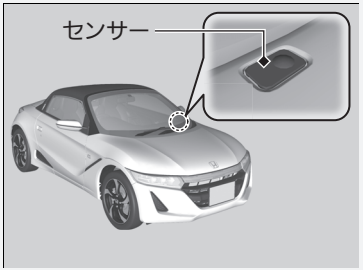
ライトを点灯したまま OFF モードにすると、運転席のドアを開けたときにライト消し忘れ警告ブザーが鳴ります。

ライト類が点灯すると、メーター内の表示灯が点灯します。

表示灯 P.54

エンジンが停止しているときにライト類を点灯したままにしていると、バッテリーあがりの原因となります。

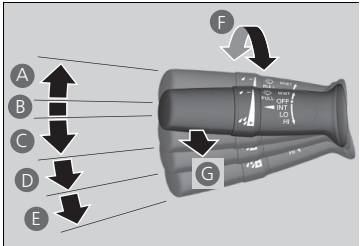
照度感知部は、図の位置にあります。感知部の上にものを置かないでください。



ワイパー/ ウォッシャー

パワーモードが ON モードのときに使用できます。

■フロントワイパー/ ウォッシャー



Ⓐ MIST：（レバーを操作している間作動）
Ⓑ OFF：停止
Ⓒ INT：間欠（雨量が少ないとき）
Ⓓ LO：低速（普通の雨量のとき）
Ⓔ HI：高速（雨量が多いとき）
Ⓕ 間欠時間の調節
Ⓖ ウォッシャー

■MIST

レバーを押し上げている間、作動します。
霧や小雨のときに使用します。

■ワイパースイッチ(OFF、INT、LO、HI)

雨量により適切な位置を選択して使用します。

■間欠時間の調節

リングを回して、ワイパーの間欠時間を調節します。



間欠間隔が長い

間欠間隔が短い

■ウォッシャースイッチ

レバーを手前に引くと、ウォッシャー液が噴射します。
レバーを 1 秒以上引くとワイパーが作動します。レバーを離すと数回ワイパーが作動して止まります。

ワイパー/ ウォッシャー

⚠注意

寒冷時はフロントガラスが暖まるまでウォッシャー液を噴射させない。
ウォッシャー液が凍りついて視界の妨げとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

ウォッシャー液が出ないときは、スイッチを切ってください。
ポンプ故障の原因となります。

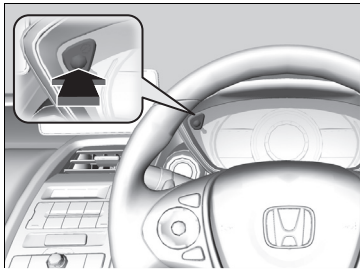
寒冷時、凍結によりワイパーブレードがガラスに張りつくことがあります。
ワイパー故障の原因となりますので、デフロスターでフロントガラスを暖めてから、ワイパーを作動させてください。

アドバイス

ワイパーを乾拭きさせないでください。
ガラスが傷付いたりブレードラバーを傷めたりします。

間欠作動中は、車速が速くなると間隔が停止時より数秒短くなります。また、発進時にワイパーが 1 回作動します。
間欠時間を短いほうにいっぱいに回っている状態で車速が速くなると、ワイパーが間欠から低速作動に切り換わります。

イルミネーション

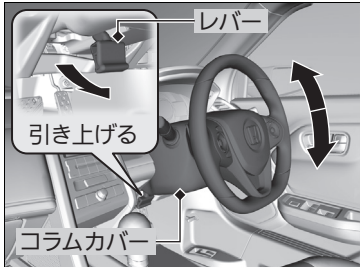


パワーモードがONモードで、ライトスイッチをOFF以外にすると、インストルメントパネル照明が減光します。

▶ イルミネーションスイッチを押すか、ライトスイッチを OFF にすると元の明るさに戻ります。

ハンドルの調節

適切な運転姿勢で無理なくハンドルを握れるように、ハンドルの位置を調節することができます。



1. ハンドル位置調節レバーを引き上げる。

▶ ハンドル位置調節レバーは、コラムカバーの下にあります。

2. ハンドルの位置を調節する。

▶ 調節した位置で、メーターや表示灯が見えることを確認してください。

3. ハンドル位置調節レバーを押し下げ、ハンドルを固定する。

»ハンドルの調節

⚠注意

走行中にハンドル位置を調節しない。
走行中に調節すると、ハンドル位置が動き、正確なハンドル操作ができないことがあり、衝突して重大な傷害を負うおそれがあります。ハンドルの調節は、必ず停車中に行ってください。

位置調節後、ハンドルに上下前後方向の力を加え、ハンドルがしっかり固定されていることを確認してください。

ミラー類の調節

ルームミラー

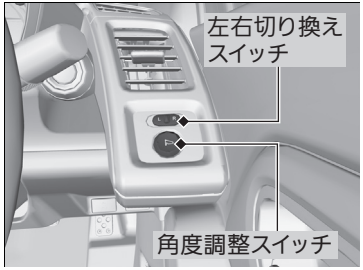


ルームミラーの角度は、正しい運転姿勢ですわった位置でミラーを調節してください。

■防眩ミラー

ルームミラーは夜間走行時、後続車のヘッドライトの反射を弱くするための切り換えができます。

ドアミラー



ドアミラーの操作は、パワーモードが ON モードのときに行います。

■角度調節

左右切り換えスイッチ：右か左を選択するスイッチです。角度調節後、中央の位置に戻します。

角度調節スイッチ：上下左右に鏡面を動かすスイッチです。

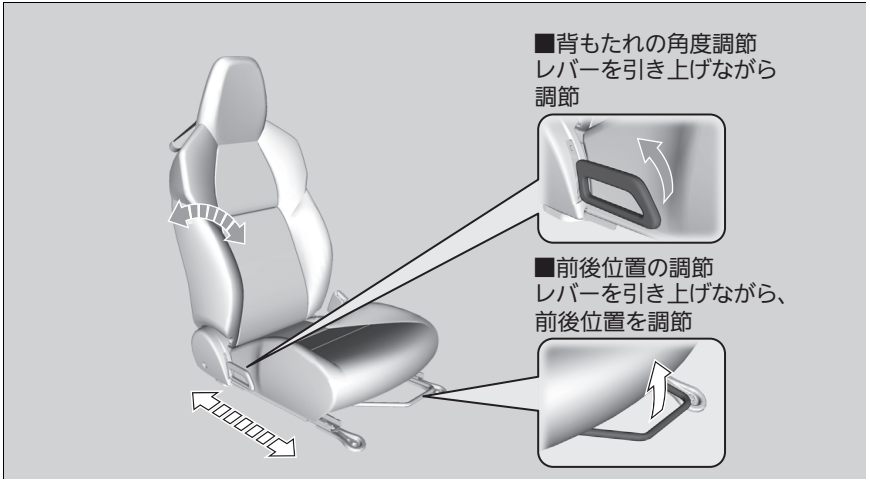
ミラー類の調節

ミラー類の調節は、走行前に行ってください。

シート

運転者は、正しい運転姿勢がとれるようにシートを調節します。
正しい運転姿勢とは、シートに深く腰かけた状態で、背もたれから背を離すことなくペダルを十分に踏み込め、ハンドル操作が楽にできる姿勢をいいます。

■シートの動かしかた



▶シートの動かしかた

⚠注意

走行中にシートの調節はしない。
走行中に調節するとシートが必要以上に動くことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。調節は走行前に行い、確実に固定されていることを確認してください。

シートを操作するときは、手や足などをはさまないように十分注意する。

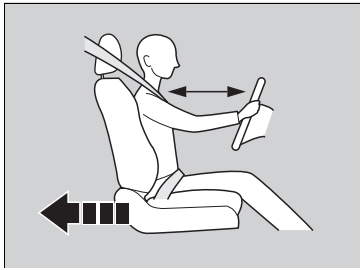
シートの下にものを置かない。
ものがはさまってシートが固定されず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

シートは、エアバッグからなるべく離れた位置に調節してください。

同乗者もシートに深く腰かけ、背もたれから背を離さないようにしてください。

シートに純正以外のシートカバーを取り付けないでください。

■シートの調節

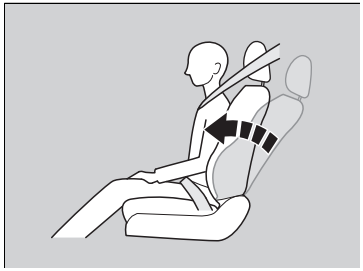


■シート位置の調節

運転者とハンドルとの間に十分な距離をとれるように、シートをできるだけ後ろに下げます。

助手席の同乗者のシートも同様に、ダッシュボードのSRSエアバッグからできるだけ離れた位置までシートを下げます。

シートの位置を調節したら、シートを前後に揺すり、固定されていることを確認します。



■背もたれ角度の調節

シートに深く腰かけ、楽な姿勢ですわれるように背もたれを起こし調節します。

助手席の同乗者のシートも同様に、楽な姿勢ですわれるように背もたれ角度を調節します。

シートの調節

⚠警告

SRS エアバッグからできるだけ離れた位置までシートを下げる。

ハンドルやダッシュボードに近づきすぎると、フロントエアバッグが膨らむ際に重大な傷害を受けたり、死亡したりするおそれがあります。

背もたれを必要以上に倒さない。

背もたれを必要以上に倒すと、衝突したときに重大な傷害を受けたり、死亡したりするおそれがあります。

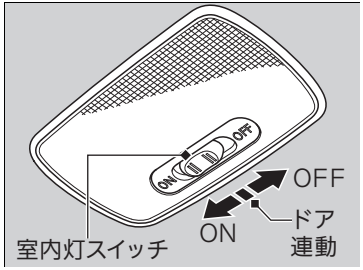
⚠注意

背もたれと背中の間にクッションなどを入れない。

正しい運転姿勢がとれません。また、シートベルトなどの効果が十分に発揮されません。

室内灯

■室内灯スイッチ



■ON
ドアの開閉に関係なく点灯。

■ドア連動
以下のときに室内灯が点灯。
- いずれかのドアを開けたとき
- 運転席ドアを解錠したとき
- パワーモードを OFF モードにしたとき

■OFF
ドアの開閉に関係なく室内灯が消灯。

≫室内灯

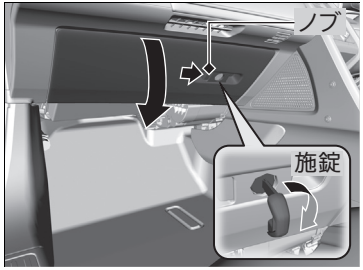
ドア連動で室内灯が点灯している場合は、ドアを閉めると約 30 秒後に消灯します。
以下の場合も 30 秒後に消灯します。
- 運転席ドアを解錠してドアを開けなかったとき
- パワーモードを OFF モードにしてドアを開けなかったとき

また、以下の操作を行うと室内灯はすぐに消灯します。
- 運転席ドアを施錠したとき
- パワーモードがOFFモード以外の状態でドアを閉めたとき
- パワーモードを ON モードにしたとき

パワーモードが OFF モードのときにいずれかのドアを開けたままにすると、約 15 分後に消灯します。

室内装備品

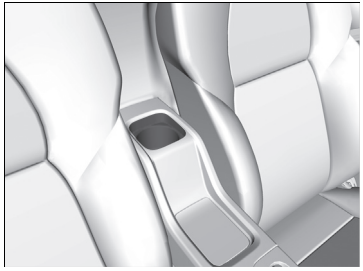
■グローブボックス



ノブを押すと開きます。

内蔵キーで施錠、解錠できます。

■ドリンクホルダー



グローブボックス

⚠警告

走行中は必ずグローブボックスを閉める。
グローブボックスが開いていると、衝突したときに同乗者が重大な傷害を負うおそれがあります。

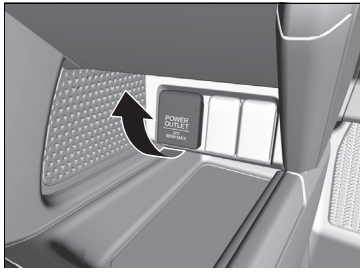
ドリンクホルダー

⚠注意

飲みものなどを電装品にこぼさないように注意する。
スイッチなどの電装品に飲みものがかかると故障の原因となったり車両火災につながったりするおそれがあります。

次ページに続く

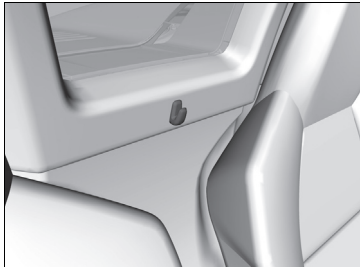
■アクセサリーソケット



パワーモードがアクセサリーモードまたはON モードのときに使用できます。

カバーを開けて使います。

■コンビニフック



軽い荷物をかけておくのに便利です。

アクセサリーソケット

シガレットライターは差し込まないでください。
発熱するおそれがあります。

消費電力 180W(15A)以下のアクセサリーに、直流 12V の電源を供給します。

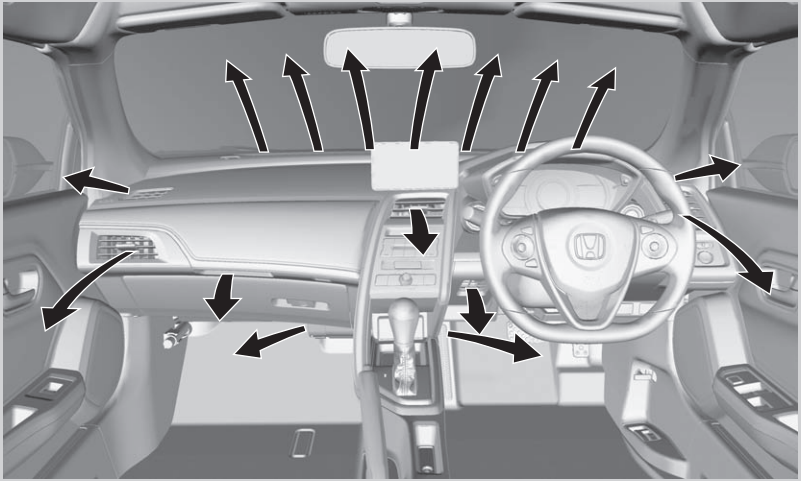
バッテリーあがりを防ぐため、エンジンがかかっている状態でご使用ください。

コンビニフック

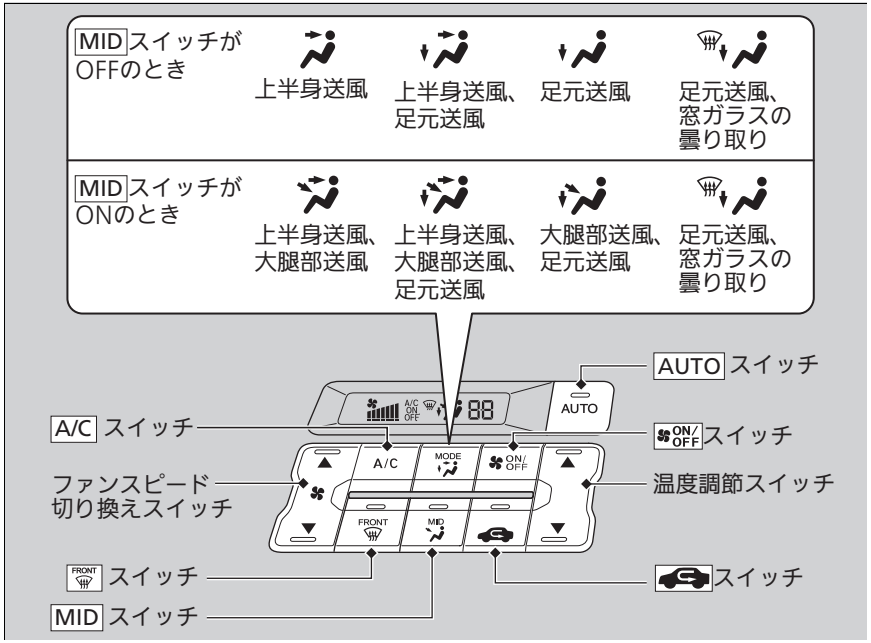
アドバイス

コンビニフックが破損するおそれがありますので、重いものや大きいものをかけないでください。

エアコンの吹き出し口



オートエアコンの使いかた



エンジンを始動してから使用します。

1. AUTO を押す。

2. 温度調節スイッチで温度を調節する。

3. 停止するときは、ON/OFFを押す。

▶オートエアコンの使いかた

オート(AUTO)で使用中いずれかのスイッチを押すと、押したスイッチの機能が優先されます。
このとき「AUTO」の表示は消灯しますが、押したスイッチ以外の機能は自動制御されます。

アイドリングストップ装備車
アイドリングストップ中は送風に切り換わります。

外気温が低いときは、冷風の吹き出しを防ぐため、AUTO を押してもすぐにファンが回転しないことがあります。

炎天下に駐車していたときは、窓を開けて熱気を追い出しながら、冷房を開始してください。

設定温度表示で「Lo」は最大冷房を、「Hi」は最大暖房を示します。

ON/OFFを押すたびにONやOFFに切り換わります。ON すると OFF する前の状態に戻ります。

急な上り坂などでは、走行性能を優先するため、エアコンが作動しないことがあります。

MID スイッチを押すと、大腿部送風が行われます。ロールトップを取り外して運転しているときに役立ちます。

■内気 / 外気の切り換え

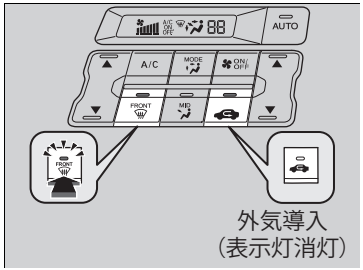
状況に合わせて を押して、内気 / 外気を切り換えます。

- 内気(表示灯点灯):トンネルや渋滞などで、汚れた空気を車内に入れたくない場合
- 外気(表示灯消灯):換気を行う場合

■除湿暖房

暖房中に A/C を押すと、除湿暖房となります。

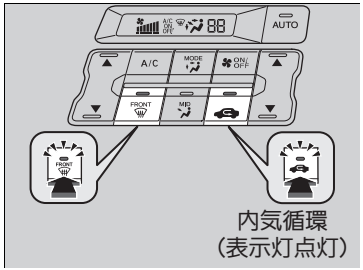
■前面・側面ガラスの曇り止め(デフロスター)の使いかた



外気導入
(表示灯消灯)

を押すとエアコンが作動し、自動的に外気導入に切り換わります。

をもう一度押すと曇り止めが停止し、前の状態に戻ります。



内気循環
(表示灯点灯)

■急速に霜を取りたいとき

1. を押す。
2. を押す。

» 前面・側面ガラスの曇り止め(デフロスター)の使いかた

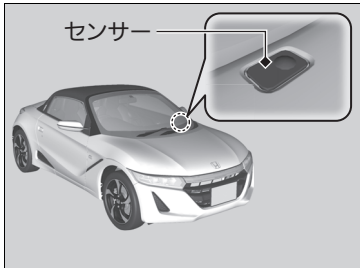
設定温度を最大冷房付近にしないでください。
冷風が前面ガラスに当たると、ガラスの外側が曇ることがあります。

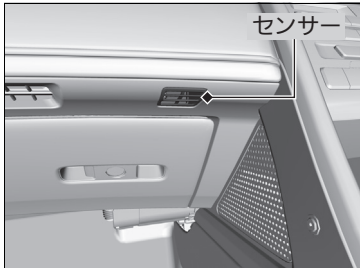
側面ガラスが曇ったときは、吹き出し風が側面ガラスに当たるよう、側面吹き出し口を調節してください。

霜が取れたら、ただちに外気導入に切り換えてください。
内気循環で使い続けると車内の湿気で窓ガラスが曇り、視界の妨げになります。

アイドリングストップ装備車
アイドリングストップ中に を押すと、エンジンが自動的に再始動します。

オートエアコンのセンサー





オートエアコンには、センサーが付いています。センサーの上にものを置いたり、水をかけたりしないでください。



オーディオ

この章では、ラジオなどの操作方法について記載しています。

オーディオ装置 100
取り扱いについて 100
USB/HDMI®✤ ジャック 101
AUX ジャック(外部入力端子)✤ 102
オーディオリモートコントロールスイッチ 103
iPod対応USBプレーヤー/FM・AMチューナー✤ 105
基本操作 105
音質、バランス、車速連動の音量調整...106
ラジオの使いかた 107
iPod の使いかた 110
USB デバイスの使いかた 112
工場出荷状態に戻す 114
センターディスプレイ(スマートフォン連携ナビ対応オーディオ)✤ 115
基本操作 115
画面の切り換え 117
画面の設定 118
音質、バランス、車速連動の音量調整.. 119
ラジオの使いかた 123
iPod の使いかた 127
USB デバイスの使いかた 130
Bluetooth オーディオの使いかた 133
ビデオ機器などの接続 135
工場出荷状態に戻す 137
エラーメッセージ 138
補足情報 140
スマートフォン連携✤ 141
internavi POCKET の使いかた 141
ハンズフリーテレフォン✤ 147
基本操作 147

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

取り扱いについて

- 運転中の音量は車外の音が聞こえる程度の音量でお使いください。車外の音が聞こえない状態では安全の妨げとなります。
- 運転中のオーディオ操作は、安全に支障がないようにしてください。
- 車内や車の近くで携帯電話や無線機を使うと、オーディオに雑音が入ることがあります。
- ラジオの受信は、車の走行にともない受信状態が刻々と変わったり、障害物や電車、信号機などの影響により最良な受信状態を維持することが困難な場合があります。

取り扱いについて

iPod、iPhone は、米国およびその他の国々で登録された Apple, Inc. の登録商標です。

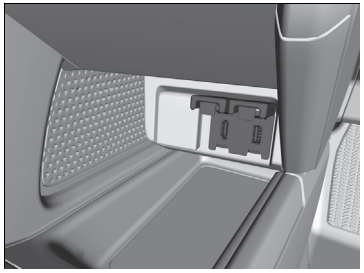
Bluetooth ワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. の所有であり、本田技研工業株式会社のマーク使用は許可を受けています。その他のトレードマークおよびトレードネームは、各所有権者が所有のものです。

HDMI®, HDMI® ロゴおよび High Definition Multimedia Interface は、米国およびその他の国々における HDMI Licensing、LLC の商標または登録商標です。

HIGH-DEFINITION MULTIMEDIA INTERFACE

携帯電話の置き場所によっては Bluetooth 電波や、携帯電話内蔵の GPS の感度が悪くなる場合があります。

USB/HDMI®✤ ジャック



カバーを開け、iPod や iPhone の USB ケーブルやUSBデバイス、スマートフォンのUSB接続コードをUSBジャックに接続します。また、HDMI® 接続コードを HDMI® ジャックに接続します。

USB/HDMI®✤ ジャック

USB デバイスや iPod や iPhone の USB ケーブル、HDMI® などの接続コードは別売りです。Honda 販売店へご確認ください。

USB デバイスや iPod、iPhone を車内に放置しないでください。

USB デバイスの種類によっては、ご利用になれない場合やご利用いただける機能に制限がある場合があります。

USB 延長コードを使用すると、動作しなくなる場合があります。

ハードディスクやカードリーダー、メモリーリーダーは機器およびデータが破損することがあるため、使用しないでください。
誤って接続した場合はパワーモードを OFF モードにしてから取り外してください。

データ破損のおそれがあるため、ファイルのバックアップをおすすめします。

iPod やiPhoneはパワーモードがアクセサリーモードまたは ON モードのとき USB 接続コードに接続することで充電が可能です。その場合、充電時間が通常より長くなることがあります。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

AUX ジャック(外部入力端子)*

市販のポータブルオーディオなどを、AUX ジャックに接続して聴くことができます。



ポータブルオーディオなどのヘッドホン端子から、市販の接続コード(抵抗なし)を使って、AUX ジャックに接続します。

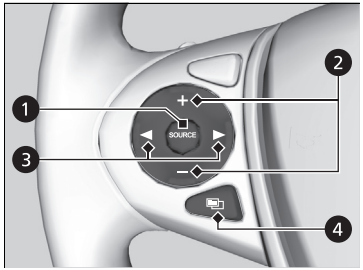
AUX ジャック(外部入力端子)*

AUX ジャック側は、ステレオミニプラグを使用してください。

*：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

オーディオリモートコントロールスイッチ

運転中にオーディオの操作をするためのスイッチです。



❶ SOURCE スイッチ

再生、視聴することができるソースの順に切り換えることができます。

iPod 対応 USB プレーヤー/FM・AM チューナー装備車

▶長押しすると、オーディオモードが OFF になり、もう一度押すと ON になります。

❷ ＋ / － (音量調節)スイッチ

＋ / － で音量を調節します。

❸ ◀/▶スイッチ

ラジオを聴いているとき

- **▶を押す：**プリセットされている次の放送局を選局します。
- **◀を押す：**プリセットされている前の放送局を選局します。
- **◀/▶を長く押す：**自動選局になり放送局を受信すると止まります。

iPod、USB デバイス、Bluetooth オーディオ❖を聴いているとき

- **▶を押す：**スキップ(次の曲の頭出し)します。
- **◀を押す：**リプレイ(再生中や前の曲の頭出し)します。
- **◀/▶を長く押す：**早送り / 早戻しします。(iPod のみ)
  MP3/WMA の場合、フォルダーの選択ができます。(USB デバイスのみ)
  グループの選択ができます。(Bluetooth オーディオ❖のみ)

❖：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

次ページに続く

❹ スイッチ

センターディスプレイ（スマートフォン連携ナビ対応オーディオ）装備車

ラジオを聴いているとき

- 「**オートセレクト**」：AM6 局、FM12 局を自動的に登録します。
- 「**チューン**」：受信周波数の調整ができます。
- 「**スキャン**」：受信可能な放送局を約 10 秒間ずつ放送します。

iPod、USB デバイス、Bluetooth オーディオを聴いているとき

- 「**早戻し／早送り**」：再生しているファイルの早戻し、早送りができます。
- 「**プレイモード**」：プレイモードを切り換えます。
- 「**通常再生**」：通常再生モードに切り換えます。

iPod 対応 USB プレーヤー/FM・AM チューナー装備車

ラジオを聴いているとき

- 「**TUNE**」：受信周波数の調整ができます。
- 「**SCAN**」：受信可能な放送局を約 10 秒間ずつ放送します。
- 「**ASEL**」：AM6 局、FM12 局を自動的に登録します。

iPod、USB デバイスを聴いているとき

- 「**REV/CUE**」：再生しているファイルの早戻し、早送りができます。
- 「**RAM**」または「**SHF**」：プレイモードを切り換えます。
- 「**SCAN**」（USB デバイスのみ）：ファイルのスキャン再生を行います。

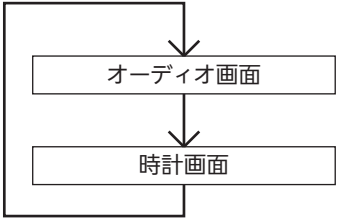
基本操作

オーディオ装置はパワーモードがアクセサリーモードまたはONモードのときに使用できます。
オーディオの操作は、オーディオリモートコントロールスイッチで行います。
オーディオリモートコントロールスイッチ P.103

画面の切り換え



ステアリングの スイッチを押すごとに、表示が下記のように切り換わります。



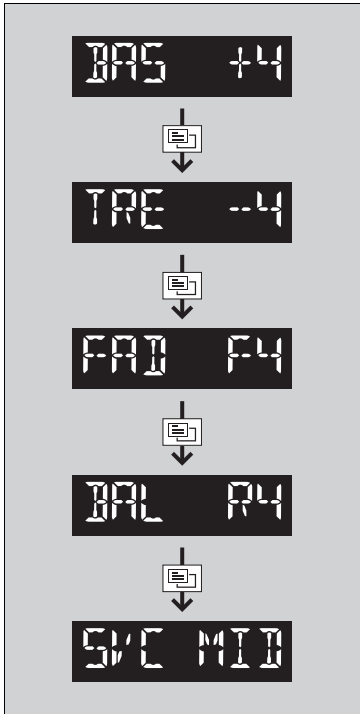
基本操作

USB デバイスまたは iPod 、iPhone が接続されている場合、 SOURCE を押すとUSB/iPodを選択できます。

SOURCE スイッチを長押しすると、オーディオモードが OFF になり、もう一度押すと ON になります。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

音質、バランス、車速連動の音量調整



1. ☰を押し、調整したい項目を選択する。
2. SOURCE を押す。
3. ◀/▶、 − / ＋ を押して、調整する。
4. 調整終了後、 SOURCE を押して決定する。
5. ☰を押して通常画面に戻る。

音質、バランス、車速連動の音量調整

以下の設定項目があります。

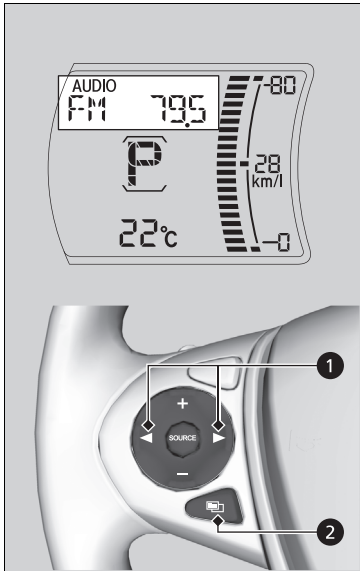
- 「BAS」: 低音
- 「TRE」: 高音
- 「FAD」: 前後
- 「BAL」: 左右
- 「SVC」: 車速連動音量

車速連動音量は、車の速度に応じて音量を自動調整する機能です。

- 「HIGH」: 車速に応じた音量変化を大きくするとき
- 「MID」: 工場出荷時の設定
- 「LOW」: 車速に応じた音量変化を小さくするとき
- 「--」: 機能を解除するとき

ラジオの使いかた

聴きたいバンド(AM/FM)になるまで SOURCE を押し、その後◀/▶で選局します。



❶ ◀/▶スイッチ

- ◀または▶を押すたびにプリセットされている放送局を選局します。
- 長押しすると、自動的に電波を探し(スキャン)、放送局を受信すると止まります。

❷ スイッチ

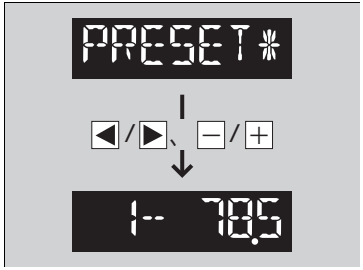
放送局を登録(プリセット、オートセレクト)したり、音質の設定をするときに押します。

次ページに続く

■放送局の登録

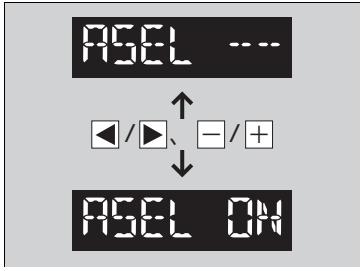
AM6 局、FM12 局を登録できます。

■手動で放送局を登録する(プリセット)



1. ☰を押し、「**PRESET**」を選択する。
2. SOURCE を押す。
3. ◀/▶、−/+ を押して、登録したい番号(AM:1 ～ 6、FM:1 ～ 12)を選択する。
4. SOURCE を押す。
   ▶ 周波数の表示が点滅します。
5. ◀/▶、−/+ を押して、周波数を調整する。
   ▶ ◀/▶、−/+ を長押しすると、連続して周波数がアップ、ダウンします。
6. SOURCE を押して決定する。

■自動で放送局を登録する(オートセレクト)



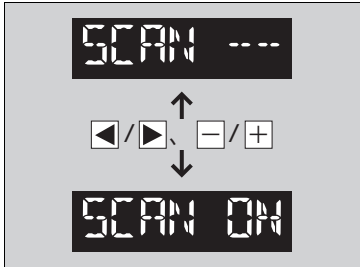
1. ☰を押し、「**ASEL -- --**」を選択する。
2. SOURCE を押す。
3. ◀/▶、−/+ を押し、「**ASEL ON**」を選択する。
   ▶ 周波数の低い順から、AM6 局、FM12 局を自動的に登録します。
4. ☰を押して通常画面に戻る。

»自動で放送局を登録する(オートセレクト)

オートセレクトした放送局を、個別に変更することもできます。(プリセット)

オートセレクトを解除する場合は、「**ASEL – –**」を選択してください。

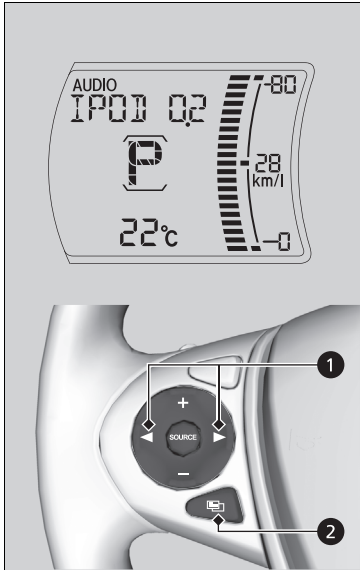
■放送局を探して受信する（スキャン）



1. ☰を押し、「**SCAN -- --**」を選択する。
2. SOURCE を押す。
3. ◀/▶、 −/+ を押し、「**SCAN ON**」を選択する。
   ▶ 受信可能な放送局を約 10 秒間ずつ放送します。
4. 解除するときは、☰または SOURCE を押す。

iPod の使いかた

iPod や iPhone の音楽を再生することができます。iPod や iPhone と USB ケーブルで車両の USB ジャックに接続します。その後、iPod モードになるまで SOURCE を押します。 ➡USB/HDMI®* ジャック P.101



❶ ◀/▶スイッチ

- 押すとスキップ / リプレイします。
  リプレイ(再生中の曲または前の曲の頭だし)、スキップ(次の曲の頭だし)になります。
- 長押しすると早送り / 巻き戻しをします。

❷ スイッチ

プレイモードの切り換えや、音質の設定をするときに押します。

iPod の使いかた

iPod と iPhone の対応モデルについて
➡ **iPodとiPhoneの対応モデルについて** P.140

何か問題が起きた場合は、エラーメッセージが表示されます。
➡ **エラーメッセージ** P.138

iPod や iPhone を接続しても認識されない場合は、接続し直してください。

iPod や iPhone の音楽再生以外の機能は、本システムでは対応していません。

*：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

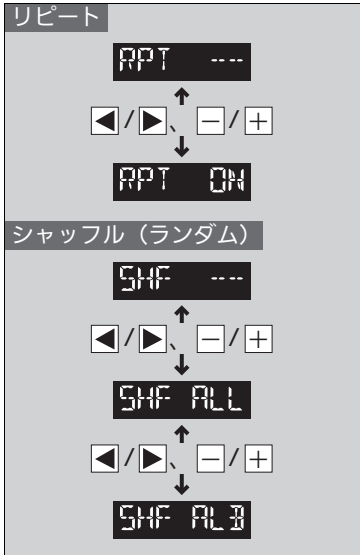
■ iPod を止める(停止)

他のソースに切り換えると停止します。

▶ iPod や iPhone を USB ケーブルから取り外しても停止します。

■プレイモードの選択

再生中の曲を繰り返し聴くとき(リピート)、曲をシャッフル(ランダム)に再生するときのモードを切り換えることができます。



1. 🗏を押し、以下項目を選択する。
   ▶リピートの場合 :「**RPT -- --**」
   ▶シャッフル(ランダム)の場合 :「**SHF – –**」
2. SOURCE を押す。
3. ◀/▶、 − / + を押し、以下項目を選択する。
   ▶リピートの場合 :「**RPT ON**」
   ▶シャッフル(ランダム)の場合 :「**SHF ALL**」または、「**SHF ALB**」
   ▶解除するときは、手順 2. で選択した項目を再度選択します。
4. 🗏を押して通常画面に戻る。

iPod を止める(停止)

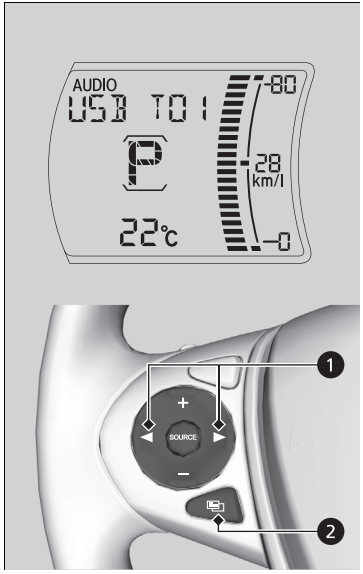
iPod や iPhone の取り外しはいつでもできます。

プレイモードの選択

- 「**RPT ON**」(リピート) : 再生中の曲を繰り返し再生します。
- 「**SHF ALL**」(全曲シャッフル) : 全ての曲をシャッフル(ランダム)再生します。
- 「**SHF ALB**」(アルバムシャッフル) : 選択しているアルバム内の全ての曲をシャッフル(ランダム)再生します。

USB デバイスの使いかた

USB フラッシュメモリーデバイスに保存されている MP3 や WMA 音楽ファイルを再生することができます。USBデバイスをUSB ジャックに接続し、USBデバイスモードになるまで SOURCE を押します。 ➡USB/HDMI®* ジャック P.101



❶ ◀/▶スイッチ

- 押すとスキップ / リプレイします。
  リプレイ(再生中の曲または前の曲の頭だし)、スキップ(次の曲の頭だし)になります。
- 長押しすると早送り / 巻き戻しをします。

❷ スイッチ

プレイモードの切り換えや、音質の設定をするときに押します。

■ USB デバイスを止める(停止)

他のソースに切り換えると停止します。

▶ USB デバイスを取り外しても停止します。

≫USB デバイスの使いかた

何か問題が起きた場合は、エラーメッセージが表示されます。

➡ エラーメッセージ P.138

DRM により著作権が保護されたWMA 形式のファイルは再生することができません。

画面に「ERROR 4」という表示が出て、次のファイルに進みます。

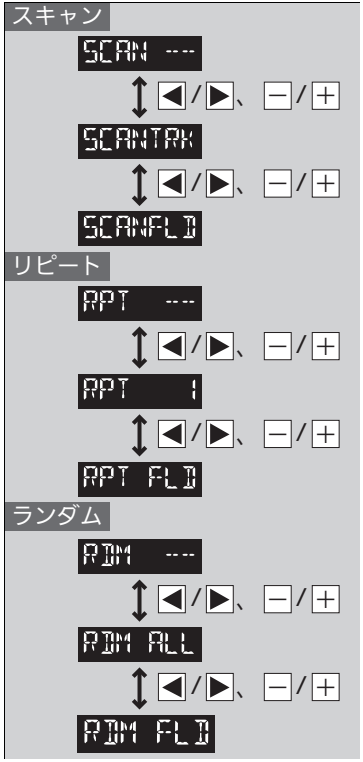
≫USB デバイスを止める(停止)

USB デバイスの取り外しはいつでもできます。

✤ : タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■プレイモードの選択

聴きたい曲を探すとき(スキャン)、再生中の曲を繰り返し聴くとき(リピート)、曲をランダムに再生するときのモードを切り換えることができます。



1. ☰を押し、以下項目を選択する。
   - ▶スキャンの場合:「**SCAN -- --**」
   - ▶リピートの場合:「**RPT -- --**」
   - ▶ランダムの場合:「**RDM -- --**」
2. SOURCE を押す。
3. ◀/▶、 − / + を押し、以下項目を選択する。
   - ▶スキャンの場合:「**SCANTRK**」または「**SCANFLD**」
   - ▶リピートの場合:「**RPT 1**」または「**RPT FLD**」
   - ▶ランダムの場合:「**RDM ALL**」または「**RDM FLD**」
   - ▶解除するときは、手順 2. で選択した項目を再度選択します。
4. ☰を押して通常画面に戻る。

»プレイモードの選択

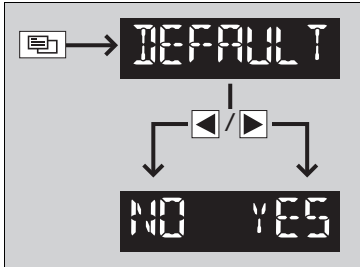
- 「**SCANTRK**」(ファイルスキャン):再生中のフォルダにあるすべての曲を、約 10 秒ずつ再生します。
- 「**SCANFLD**」(フォルダスキャン):全フォルダの最初の曲を、約 10 秒ずつ再生します。

- 「**RPT 1**」(1 曲リピート):再生中の曲を繰り返して再生します。
- 「**RPT FLD**」(フォルダリピート):再生中のフォルダにある曲を繰り返し再生します。

- 「**RDM ALL**」(全曲ランダム):USB デバイス内のすべての曲をランダムに再生します。
- 「**RPT FLD**」(フォルダランダム):再生中のフォルダにある曲をランダムに再生します。

工場出荷状態に戻す

各設定などを初期化することができます。



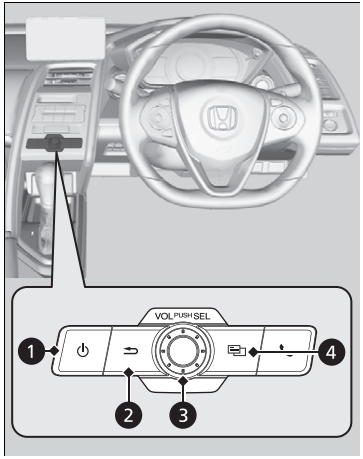
1. [MENU]を長押しする。
   ▶「**DEFAULT**」が点滅して表示されます。
2. [◀]/[▶]を押し、「**YES**」を選択する。
   ▶ 選択している項目が点滅します。
3. [SOURCE] を押して決定する。
   ▶「**WAIT**」が約 2 秒間表示されます。表示されている間に[MENU]を押すと工場出荷状態に戻す操作がキャンセルされます。

工場出荷状態に戻す

お車を手放す際は、工場出荷状態に戻すことをお勧めします。

基本操作

オーディオ装置はパワーモードがアクセサリーモードまたはONモードのときに使用できます。



❶ ⏻スイッチ
オーディオの電源を ON/OFF することが出来ます。

❷ ⮌スイッチ
前の画面に戻ったり、操作を解除するときなどに押します。

❸ VOL/PUSH/SELスイッチ
項目を選択するときに回し、決定をするときに押します。

❹ ⮓(設定)スイッチ
「**設定**」画面を開くときに押します。オートセレクトや音質調整、プレイモード、日時調整などの設定が行えます。

▶ オーディオのソースによってメニュー項目が切り換わります。

基本操作

安全上の配慮から、走行中の各種設定機能は限定されます。走行中に操作できない項目は画面上薄い色で表示されます。

VOL/PUSH/SEL スイッチ
VOL/PUSH/SEL スイッチを押す操作を、本文中では「⏻」と表します。
VOL/PUSH/SEL スイッチを回す操作を、本文中では「↻」と表します。

SOURCE を1度押して、↻を回しても各ソースの選択ができます。

ステアリングのスイッチでも各ソースの簡易的な操作ができます。

➔ **オーディオリモートコントロールスイッチ**
P.103

✤：**タイプやオプションなどにより、装備が異なります。**

次ページに続く

■操作の制限



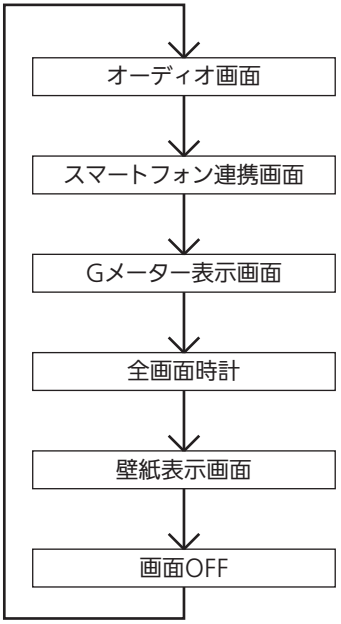
安全上の配慮から、走行中の各種設定機能は限定されます。走行中に操作できない項目は画面上に薄い色で表示されます。

▶ 操作の途中で車が動き出すと確認画面が表示され、それまでの操作がキャンセルされます。

画面の切り換え



1. を押す。
▶「**画面切替え**」画面が表示されます。
2. 表示したい画面を選択する。



»画面の切り換え

以下の場合は、自動的に画面が切り換わります。
- 壁紙を設定しているとき
- スマートフォンアプリと連携しているとき
- ハンズフリーテレフォンを使用しているとき

スマートフォンアプリと連携しているときにオーディオの曲リスト画面を表示する場合、を押してオーディオ画面に切り換えてください。

画面の設定

画面の明るさを変更することができます。

■画面の明るさの調整

画面の明るさを昼間（車幅灯消灯時）と夜間（車幅灯点灯時）にわけて、別々に調整できます。



1. (設定)を押す。
2. 「**画面明るさ調整**」を選択し、を押して決定する。
3. を回して調整する。
   ▶ 明るさが最大 / 中央 / 最小になると電子音が鳴ります。
4. 調整終了後、を押して決定する。

≫画面の設定

オーディオの電源が OFF のときにも調整できます。

設定をしない場合、を押すと、「**設定**」画面に戻ります。

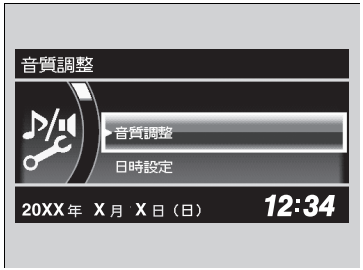
≫画面の明るさの調整

ヘッドライトが点灯しているときと消灯しているときでは、画面の明るさは異なります。
ライトスイッチが OFF 以外のとき（ライトスイッチを AUTO にしているときは、車幅灯やヘッドライトが点灯しているとき）、まぶしさを軽減するために画面が暗くなります。

調整終了後は、ライトスイッチの位置に関係なく、調整を終了したときの画面（昼間 / 夜間）が表示されます。その後、ライトスイッチを操作すると、通常のライトスイッチに連動した表示に戻ります。

インストルメントパネルの照明を明るくすると、明るさを「**暗**」に調整しても、画面は暗くなりません。
➡ **イルミネーション** P.88

音質、バランス、車速連動の音量調整



1. (設定)を押す。
2. 「**音質調整**」を選択する。
3. 調整したい項目を選択する。
   ▶「**低音**」「**高音**」「**前後**」「**左右**」「**車速連動音量**」の調整ができます。
4. を回して調整する。
   ▶「**低音**」「**高音**」「**前後**」「**左右**」で目盛りが両端/中央になると電子音が鳴ります。
5. 調整終了後、を押して決定する。
6. を押して通常画面に戻る。

音質、バランス、車速連動の音量調整

車速連動音量は、車の速度に応じて音量を自動調整する機能です。

- 「HIGH」：車速に応じた音量変化を大きくするとき
- 「MID」：工場出荷時の設定
- 「LOW」：車速に応じた音量変化を小さくするとき
- 「OFF」：機能を解除するとき

壁紙の設定

お気に入りの画像ファイルを登録して画面に表示することができます。

■画像ファイルの登録

USB デバイスに保存された画像ファイルを、計 5 枚まで登録することができます。





1. 画像ファイルが保存された USB デバイスを、USB ジャックに接続する。
➡ **USB/HDMI®* ジャック** P.101
2. (設定)を押す。
3.「**壁紙設定**」を選択する。
4.「**画像読込み**」を選択する。
5. 登録したい画像を選択する。
▶ プレビュー画面が表示されます。
6. を押す。
▶ 確認画面が表示され、を押します。
7. 登録したい画像(画像 1 ～ 5)を選択して、を押して決定する。
▶ すでに登録されている場所を選択すると、確認画面が表示されます。「**はい**」を選択し、を押すと決定します。
▶ 設定が完了すると、完了画面が表示されます。

壁紙の設定

- 画像ファイルは USB デバイスのルートフォルダに保存してください。それ以外のフォルダに保存されている画像ファイルは読み込むことができません。
- 画像ファイルのフォーマットは、BMP (bmp) か JPEG (jpg/jpeg) のみ登録することができます。
- 画像ファイルの 1 枚あたりの最大容量は 2MB までです。
- 画像ファイルの最大画像サイズは 2076X1088ピクセルまでです。また画像サイズが 519X272 ピクセル以下の場合、画面中央に配置され周囲が黒くなります。画像サイズの比率が画面サイズの比率に収まらない場合、画像を変形して表示します。
- USB デバイスに保存されている画像ファイルは、255番目まで認識可能です。256番目以降のファイルはリストに表示されません。
- ファイル名が半角 64 文字以上の場合は、リスト上に表示されません。

画像ファイルの登録

設定をしない場合、を押すと、「**壁紙設定**」画面に戻ります。

*：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■画像ファイルの表示／削除

登録した画像ファイルを画面に表示したり、削除します。



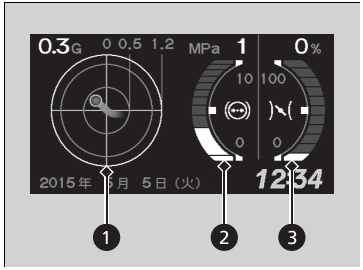
1. (設定)を押す。
2. 「**壁紙設定**」を選択する。
3. 「**画像選択**」を選択する。
   ▶削除する場合は、「**画像削除**」を選択します。
4. 表示したい画像を選択し、を押して決定する。
5. 削除するときは、削除したい画像を選択する。
   ▶「**はい**」を選択し、を押して決定する。

»画像ファイルの表示／削除

設定をしない場合、を押すと、「**壁紙設定**」画面に戻ります。

G メーター表示画面

Gメーター表示画面に切り換えると、現在の車両の状態を視覚的に表示し、確認することができます。



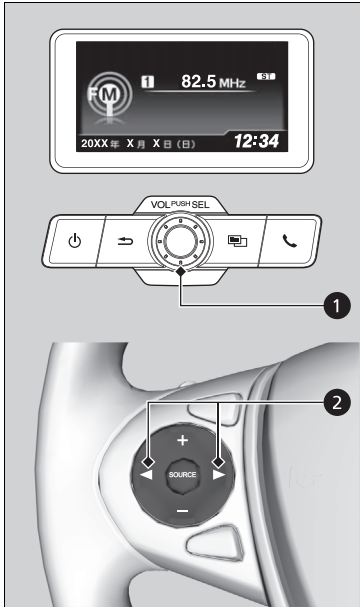
❶ G メーター
車両にかかっている力の向きを表示します。

❷ ブレーキ圧表示
ブレーキペダルの踏み具合に連動して、目盛りが増減します。

❸ アクセル開度表示
アクセルペダルの踏み具合に連動して、目盛りが増減します。

ラジオの使いかた

聴きたいバンド（AM/FM）になるまで SOURCE を押し、その後◀/▶で選局します。



❶ VOL/PUSH/SEL スイッチ

ラジオを聴いているときは、を回して「**プリセットリスト**」画面からあらかじめ登録してある放送局を選局できます。

❷ ◀/▶スイッチ

◀または▶を押すたびにプリセットされている放送局を選局します。

◀または▶を長押しすると自動的に電波を探し（スキャン）、放送を受信すると止まります。

»ラジオの使いかた

FM ステレオ放送が感度よく受信できたときは、画面に「ST」と表示されます。

AM 放送はステレオ受信できません。

次ページに続く

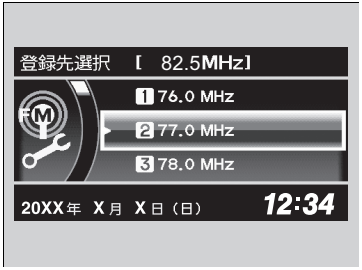
■放送局の登録

AM6 局、FM12 局を登録できます。

■手動で放送局を登録する（プリセット）



1. (設定)を押す。
2. 「**チューン／プリセット登録**」を選択する。
3. を回して、登録したい放送局を選局する。
4. を長押しする。



5. 登録したい番号（AM：1 ～ 6、FM：1 ～ 12）を選択し、を押して決定する。
   ▶ 確認画面が表示されます。続けて登録したい場合、「**はい**」を選択し、手順3～5を繰り返します。「**いいえ**」を選択すると通常画面に戻ります。

■自動で放送局を登録する（オートセレクト）



1. 設定を押す。
2. 「**オートセレクト[実行]**」を選択する。
   ▶ 周波数の低い順から、AM6局、FM12局を自動的に登録します。
3. 解除するときは、「**オートセレクト[解除]**」を選択する。
   ▶ オートセレクトを解除すると、登録した放送局（周波数）はオートセレクトをする前の状態に戻ります。

■放送局を探して受信する（スキャン）



1. 設定を押す。
2. 「**スキャン**」を選択する。
   ▶ 受信可能な放送局を約10秒間ずつ放送します。
3. 聴きたい放送局を受信したら、 を押す。

≫自動で放送局を登録する（オートセレクト）

「設定」画面を表示させなくても、放送局を登録できます。

ラジオを聴いているときに を「ピッ」と音が鳴るまで押すと、「**登録先選択**」画面が表示され、放送局を登録することができます。

オートセレクトした放送局を、個別に変更することもできます。（プリセット）

次ページに続く

■交通情報の受信



SOURCE を押して、交通情報に切り換えます。

また、周波数(1620kHz/1629kHz)を切り換えることができます。

1. を押す。
▶「**交通情報局**」画面が表示されます。

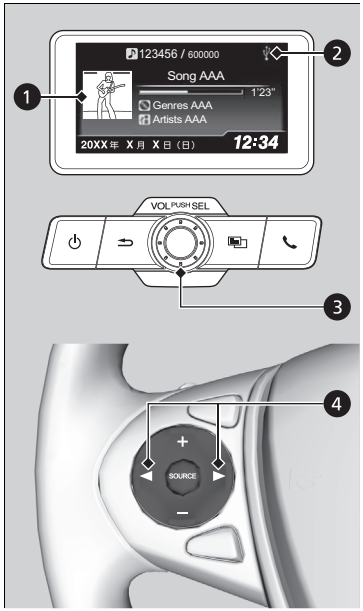
2. 周波数を選択する。

≫交通情報の受信

あらかじめセットされている受信周波数を変えることはできません。

iPod の使いかた

iPod や iPhone の音楽を再生することができます。iPod や iPhone と USB ケーブルで車両の USB ジャックに接続します。その後、iPod モードになるまで SOURCE を押します。 ➔USB/HDMI®* ジャック P.101



❶ アートワーク
ジャケット情報のデータが含まれる曲を再生すると表示されます。

❷ USB インジケーター
iPod や iPhone を接続すると画面に USB インジケーターが表示されます。

❸ VOL/PUSH/SEL スイッチ
iPod や iPhone を聴いているときは、☎を回して「**ソング**」画面から選曲できます。

❹ ◀/▶スイッチ
- 早送り / 早戻し
  ◀または▶を押し続けます。
- スキップ / リプレイ
  ◀または▶を押します。

リプレイ（再生中の曲または前の曲の頭だし）、スキップ（次の曲の頭だし）になります。

iPod の使いかた

何か問題が起きた場合は、エラーメッセージが表示されます。
➔ **エラーメッセージ** P.138

iPodやiPhoneを接続しても認識されない場合は、iPodやiPhoneを接続し直してください。

iPod や iPhone の音楽再生以外の機能は、本システムでは対応していません。
➔ **iPodとiPhoneの対応モデルについて** P.140

次ページに続く

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

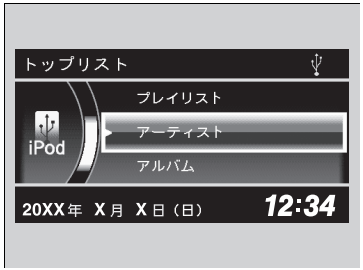
■ iPod を止める（停止）

他のソースに切り換えると停止します。

▶ iPod や iPhone を USB ケーブルから取り外しても停止します。

■ iPod のルートメニューから曲を選択する

「**プレイリスト**」「**アーティスト**」「**アルバム**」「**曲**」から聴きたい曲を選択することができます。



1. (設定)を押す。
2. 「**楽曲検索**」を選択する。
3. お好みの項目を選択し、決定する。
4. ファイルを選択する。

iPod を止める（停止）

iPod や iPhone の取り外しはいつでもできます。

■プレイモードの使い方

再生中の曲を繰り返し聴くとき(リピート)、曲順をシャッフル(ランダム)再生するときにモードを切り換えることができます。



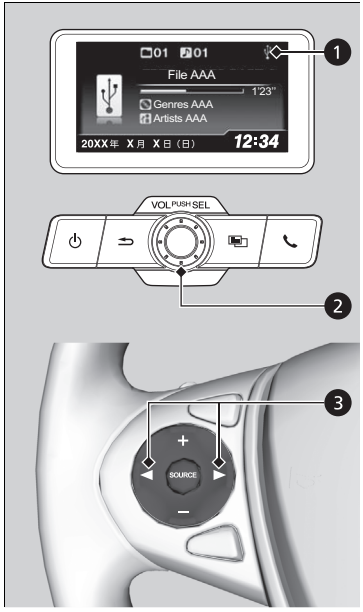
1. (設定)を押す。
2. 「**プレイモード**」を選択する。
3. お好みのモードを選択する。
4. 解除するときは、「**プレイモード**」で「**通常再生**」または「**リピート解除**」/「**シャッフル解除**」を選択する。

プレイモードの使い方

- 「**1曲リピート**」：再生中の曲を繰り返し再生します。
- 「**シャッフル**」：全ての曲をシャッフル(ランダム)再生します。
- 「**アルバムシャッフル**」：選択しているアルバム内の全ての曲をシャッフル(ランダム)再生します。

USB デバイスの使いかた

USB フラッシュメモリーデバイスに保存されている MP3 や WMA 音楽ファイルを再生することができます。USBデバイスをUSB ジャックに接続し、USBデバイスモードになるまで SOURCE を押します。 ➔USB/HDMI®* ジャック P.101



❶ USB インジケーター

USB デバイスを接続すると画面に USB インジケーターが表示されます。

❷ VOL/PUSH/SEL スイッチ

USB デバイスを聴いているときは、を回して「**トラックリスト**」画面から選曲できます。

❸ ◀/▶スイッチ

- 早送り / 早戻し
  ◀または▶を押し続けます。
- スキップ / リプレイ
  ◀または▶を押します。

リプレイ（再生中の曲または前の曲の頭だし）、スキップ（次の曲の頭だし）になります。

USB デバイスの使いかた

何か問題が起きた場合は、エラーメッセージが表示されます。

➔ **エラーメッセージ** P.138

DRM により著作権が保護されたWMA 形式のファイルは再生することができません。

画面に「**再生できないデータです**」という表示が出て、次のファイルに進みます。

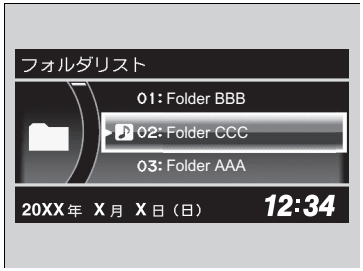
*：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■ USB デバイスを止める（停止）

他のソースに切り換えると停止します。

▶ USB デバイスを取り外しても停止します。

■フォルダリストによる選曲



1. を押す。

2. 聴きたいフォルダーを選択する。

3. 聴きたい曲を選択する。

»USB デバイスを止める（停止）

USB デバイスの取り外しはいつでもできます。

次ページに続く

■プレイモードの使い方

聴きたい曲を探すとき(スキャン)、再生中の曲を繰り返し聴くとき(リピート)、曲順をランダムに再生するときにモードを切り換えることができます。



1. (設定)を押す。
2. 「**プレイモード**」を選択する。
3. お好みのモードを選択する。
4. スキャン選択時は、聴きたい曲が再生されたら、を押す。
5. 解除するときは、「**プレイモード**」で「**通常再生**」を選択する。

▶プレイモードの使い方

スキャン

- 「**ファイルスキャン**」：再生中のフォルダー内の各ファイルの始めを約 10 秒間つぎつぎに再生します。
- 「**フォルダスキャン**」：各フォルダーの先頭のファイルの始めを約 10 秒間つぎつぎに再生します。

リピート

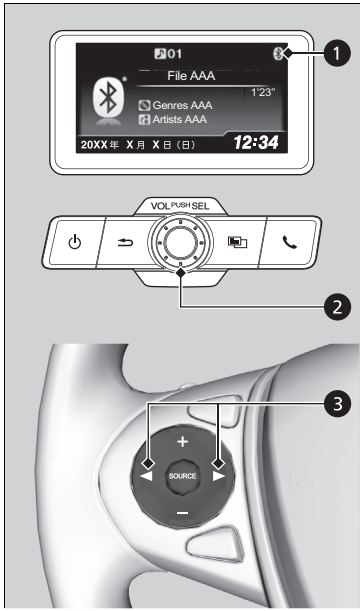
- 「**1曲リピート**」：再生中の曲を繰り返し再生します。
- 「**フォルダリピート**」：選択しているフォルダー内のすべての曲を繰り返し再生します。

ランダム

- 「**全曲ランダム**」：すべての曲をランダムに再生します。
- 「**フォルダランダム**」：選択しているフォルダー内の全ての曲をランダムに再生します。

Bluetooth オーディオの使いかた

携帯電話の中の音楽ファイルを、Bluetooth 機能を使って再生することができます。携帯電話を Bluetooth 接続し、Bluetooth オーディオモードになるまで SOURCE を押します。 ➔ハンズフリーテレフォン* P.147



❶ Bluetooth インジケーター

携帯電話を Bluetooth 接続すると画面にBluetoothインジケーターが表示されます。

❷ VOL/PUSH/SEL スイッチ

Bluetoothオーディオを聴いているときは、回を回して「**リスト**」画面から選曲できます。また「**リスト**」画面を表示できないときは、 実行 を押すたびに「**曲名**」と「**デバイス名**」が切り換わります。

❸ ◀/▶スイッチ

- 早送り / 早戻し
  ◀または▶を押し続けます。
- スキップ / リプレイ
  ◀または▶を押します。

リプレイ(再生中の曲または前の曲の頭だし)、スキップ(次の曲の頭だし)になります。

Bluetooth オーディオの使いかた

1 台以上の携帯電話が登録されていると、再生するまでに遅れが生じることがあります。

携帯電話の種類によっては、ご利用になれない場合やご利用いただける機能に制限がある場合があります。詳細はご使用される携帯電話付属の取扱説明書をご覧ください。

次ページに続く

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■ Bluetooth オーディオを止める（停止）

他のソースに切り換えると停止します。

▶ Bluetooth 接続を解除しても、停止します。

➡ **Bluetooth 接続を解除する** P.150

■再生 / 一時停止

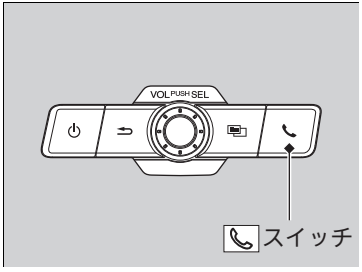


1. (設定)を押す。
2. 「**再生 / 一時停止**」を選択し、を押して決定する。
   ▶を押すたびに、再生と一時停止が切り換わります。

»再生 / 一時停止

再生中に iPod や iPhone のケーブルを抜き差しした場合、一時停止となります。再開する場合は、「**設定**」画面から「**再生 / 一時停止**」を選択してください。

■再生中に電話がかかってきたとき



再生中に電話がかかってきた場合、Bluetoothオーディオが一時停止し、電話を受けることができます。電話を切ると再び再生が始まります。

➡ **ハンズフリーテレフォン*** P.147

»再生中に電話がかかってきたとき

Bluetooth オーディオが一時停止中に電話がかかってきた場合でも、電話を切ると再生が始まります。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

ビデオ機器などの接続

HDMI® ジャックにビデオ機器やスマートフォンなどを接続することができます。ビデオ機器やスマートフォンなどをHDMI® 接続コードでHDMI® ジャックに接続します。その後、HDMI モードになるまで SOURCE を押します。

➡ USB/HDMI®* ジャック P.101



パーキングブレーキがかかっているときに、映像を表示します。

ビデオ機器などの接続

ビデオ機器などを接続する場合は市販のHDMI® コードが必要になります。ビデオ機器などのご使用については、各機器の取扱説明書をご覧ください。

HDMI モードに切り換えて数秒が経過すると、画面下部の時計表示が自動的に消えます。

ビデオをご覧になるときは、停車禁止区域以外の安全な場所に停車してください。

映像は安全上の配慮から、停車してパーキングブレーキをかけているときだけ見ることができます。停車していてもパーキングブレーキをかけていないときなどは、映像は映らず、音声だけが聞こえます。

次ページに続く

＊：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■ HDMI モード画面の設定

画面表示サイズの設定ができます。



1. ⎘(設定)を押す。
2. 「**画面ワイド切替え**」を選択し、◎を押して決定する。
3. ノーマルまたはワイド、ズームを選択し、◎を押して決定する。

ノーマル：
映像がよこ４：たて３の比率で表示され、両端が黒く表示されます。

ワイド：
元映像がよこ４：たて３の比率の場合、左右方向に引き伸ばした映像が表示されます。

ズーム：
映像を上下左右方向均等に拡大した映像が表示されます。

HDMI モード画面の設定

画質の調整、表示方法の設定は安全上の配慮から、停車してパーキングブレーキをかけているときだけ行うことができます。

工場出荷状態に戻す

各設定などを初期化することができます。



1. (設定)を押す。
2. 「**工場出荷状態に戻す**」を選択し、を押して決定する。
   ▶ 確認画面が表示されます。
3. 「**はい**」を選択し、を押して決定する。
   ▶ 設定が完了すると、完了画面が表示されます。

工場出荷状態に戻す

お車を手放す際は、工場出荷状態に戻すことをお勧めします。

エラーメッセージ

画面にエラーメッセージが表示された場合は、下表にしたがって点検してください。

■ iPod/USB デバイス

画面	原因	対処のしかた
曲情報が存在しません※1 ERROR 3※2	再生可能なファイルが存在しない	iPod や iPhone または USB デバイスに対応しているフォーマットの音楽ファイルを記録してください
再生できないデータです※1 ERROR 4※2	ファイルが壊れている、対応していないファイル形式で記録されている、著作権が保護されたWMAファイルの再生	読み取りができないファイルがあります 自動的に次の読み取り可能なファイルを再生します
USB 機器と通信できません 接続をご確認ください※1 ERROR 5※2	認証または通信エラー	再度接続しなおしてください
再生できない USB 機器です 取扱説明書をご確認ください※1 ERROR 2、ERROR 6※2	未対応の iPod や iPhone 接続または USB デバイスのエラー、超過電流異常、マイコン異常など	• iPodやiPhoneまたはUSBデバイスを取り外し、対応している iPod や iPhone または USB デバイスを接続してください • 接続されている iPod や iPhone または USB デバイスを取り外し、パワーモードを OFF モードにしたあと、アクセサリーモードまたは ON モードにします このエラーが出た iPod や iPhone または USB デバイスを再び接続しないでください

※1 ： センターディスプレイ（スマートフォン連携ナビ対応オーディオ）装備車
※2 ： iPod 対応 USB プレーヤー/FM・AM チューナー装備車

センターディスプレイ（スマートフォン連携ナビ対応オーディオ）

■ビデオ機器など

画面	原因	対処のしかた
対応していない HDMI 機器です	未対応の HDMI® 機器の接続	対応している HDMI® 機器を接続してください

■その他

画面	原因	対処のしかた
液晶パネルの熱保護の為 ディスプレイの輝度を落とします 車内の温度が下がれば自動復帰します	液晶パネルが高温（70℃以上）になった為、保護機能が働いた	窓を開け、エアコンを使用して車内の温度を下げてください
液晶パネルの熱保護の為 ディスプレイの電源を OFF します 車内の温度が下がれば 画面は自動復帰します	液晶パネルが高温（80℃以上）になった為、保護機能が働いた	窓を開け、エアコンを使用して車内の温度を下げてください

■ iPod と iPhone の対応モデルについて

モデル名
iPod nano（第 1 世代～第 7 世代）
iPod classic 160GB（2009 年発売モデル）
iPod classic 120GB（2008 年発売モデル）
iPod classic 80GB/160GB（2007 年発売モデル）
iPod（第 5 世代）
iPod touch（第 1 世代～第 5 世代）
iPhone 3G/iPhone 3GS/iPhone 4/iPhone 4s/iPhone 5/iPhone 5s/iPhone 5c

■使用できる USB デバイス

- 256MB 以上の推奨される USB デバイスを使用してください。
- セキュリティロック機能を持つ USB デバイス は、本システムでご利用になれない場合があります。
- 一部のソフトウェアのファイルは、オーディオの再生やテキストデータの表示ができない場合があります。
- MP3/WMA のバージョンによっては、再生できない場合があります。

▶iPod と iPhone の対応モデルについて

ソフトウェアバージョンによっては、使用できない可能性があります。

インターナビが提供するナビアプリ、internavi POCKET をインストールしたスマートフォンと接続すると、オーディオインフォメーション画面に表示し操作することができます。

➔ **USB/HDMI®✤ ジャック** P.101
➔ **スマートフォンを接続する** P.142

internavi POCKET の使いかた



❶ VOL/PUSH/SEL **スイッチ**

- 地図表示中に右に回すと拡大し、左に回すと縮小します。
- 「**メニュー**」画画を表示するときに押します。

»internavi POCKET の使いかた

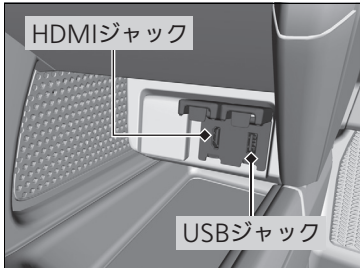
internavi POCKET のインストールや操作方法、使用できるスマートフォンの機種、OS のバージョン等については、インターナビのホームページでご確認ください。
http://www.honda.co.jp/internavi/pocket/

携帯電話の置き場所によっては Bluetooth 電波や、携帯電話内蔵の GPS の感度が悪くなる場合があります。

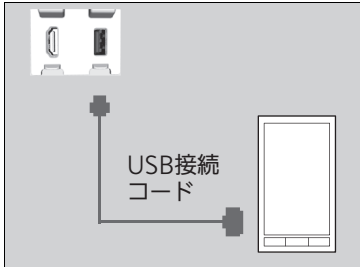
次ページに続く

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■スマートフォンを接続する



1. カバーを開ける。

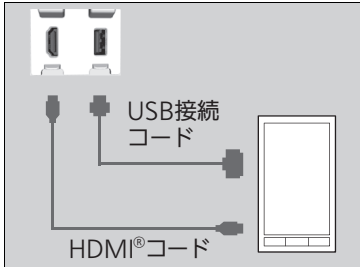


Android 端末 /iPhone

2. スマートフォンまたは iPhone の USB 接続コードを USB ジャックに接続する。

▶「**USB 接続**」を選択します。

➡ **接続方式の設定** P.143



Android 端末(HDMI 端子あり)

2. スマートフォンの USB 接続コードを USB ジャックに接続し、HDMI® 接続コードを HDMI® ジャックに接続する。

▶「**USB と HDMI 接続**」を選択します。

➡ **接続方式の設定** P.143

≫スマートフォンを接続する

HDMI® コードで接続する場合は、市販のコードをご使用ください。

iPod 接続コードは別売りです。Honda 販売店へご確認ください。

携帯電話の接続・操作方法や推奨の HDMI® コードの仕様については、携帯電話の取扱説明書をご覧ください。

スマートフォンは、パワーモードがアクセサリーモードまたは ON モードのとき USB 接続コードに接続することで充電が可能です。その場合、負荷状態によっては充電できない場合があります。

スマートフォンやアプリの ON/OFF は、スマートフォン側で操作してください。

HDMI 端子がある Android 端末を接続する場合は、USB 接続に加え、HDMI も接続することをお勧めします。接続すると高速描画で高解像度になります。



■接続方式の設定

スマートフォンの接続方法を設定します。

1. (設定)を押す。
2. 「**スマートフォン連携設定**」を選択する。
3. 「**接続方式設定**」を選択し、を押して決定する。
4. 接続方式を選択し、を押して決定する。



■時計機能の同期

オーディオ装置の時計機能をスマートフォンと同期させます。

1. (設定)を押す。
2. 「**スマートフォン連携設定**」を選択する。
3. 「**アプリ連携自動補正**」を選択し、を押して決定する。
4. 「**オン**」を選択し、を押して決定する。
   ▶ 同期させたくない場合、「**オフ**」を選択します。

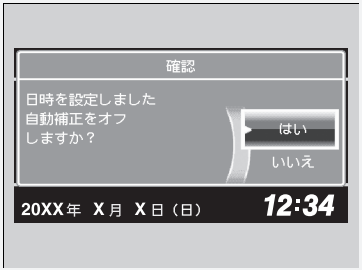
スマートフォンを接続する

「**USB と HDMI 接続**」を選択した場合、「**USB 接続**」を選択した場合より高速描画で高解像度になります。

時計機能の同期

初期設定は「**オン**」になっています。

「**オン**」に設定している場合、手動で日時を変更すると下のような確認画面が表示されます。手動で変更した日時を表示させたい場合、「**はい**」を選択します。（アプリ連携自動補正は「**オフ**」になります。）



次ページに続く



■割込み音量の設定

internavi POCKET の割込み音声案内の音量を設定します。

1. (設定)を押す。
2. 「**スマートフォン連携設定**」を選択する。
3. 「**割込み音量設定**」を選択し、を押して決定する。
4. 音量を選択し、を押して決定する。

▶▶割込み音量の設定

初期設定は「**中**」になっています。

「**割込み音量設定**」画面はinternavi POCKETと連携しているときに表示されます。

■ internavi POCKET を表示する



1. スマートフォンでinternavi POCKETを起動し、目的地を設定する。
▶ 目的地設定などは、インターナビのホームページ(http://www.honda.co.jp/internavi/pocket/)をご覧ください。

2. スマートフォンを接続する。
スマートフォンを接続する P.142
▶ 目的地設定をしている場合、確認画面が表示され、「**はい**」を選択するとナビ案内を開始します。「**いいえ**」を選択すると、地図表示のみとなります。
▶ 接続中はスマートフォンを操作できません。

■internavi POCKET を終了する

スマートフォンでinternavi POCKETを終了します。
▶ 接続が終了します。

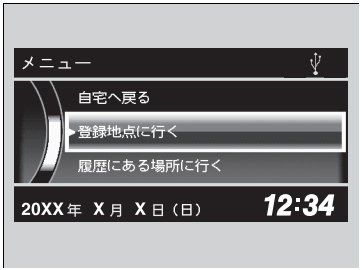
»internavi POCKET を表示する

目的地設定をしない場合、地図表示のみとなります。

スマートフォンアプリと連携時：
- 接続コードを抜くと、アプリ連携機能が停止します。再度コードを接続し、アプリを再起動してください。
- オーディオの曲リスト画面を表示する場合、を押してオーディオ画面に切り換えてください。
- 電話がかかってきた場合、ハンズフリー画面が表示されます。

「**USB と HDMI 接続**」を選択している場合、確認画面の「**はい / いいえ**」を一定時間以上選択しないままにすると、連携が終了します。

次ページに続く



■internavi POCKET メニュー

スマートフォンが接続されているときに、を押すと「**メニュー**」画面が表示されます。

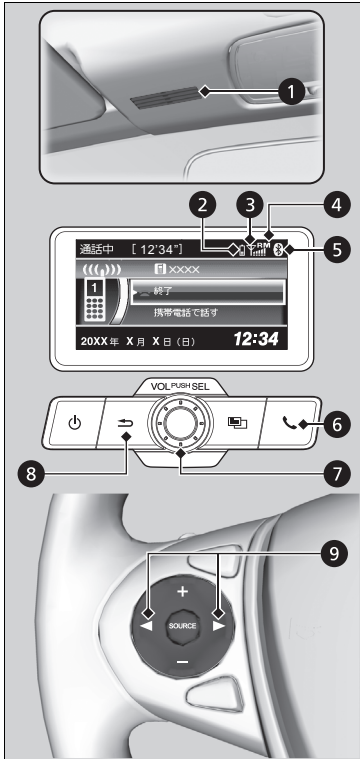
スマートフォン連携中に操作可能なinternavi POCKET のメニュー項目をオーディオ装置側で操作できます。

項目の選択方法

- 項目の選択：を回します。
- 項目の決定：を押します。
- 前の画面に戻る：を押します。

基本操作

お手持ちの携帯電話を Bluetooth 接続すると、携帯電話を操作することなく電話の発信着信ができます。



❶ マイク

❷ 携帯電話の電池残量表示

❸ 受信レベル状態表示

❹ ローミング状態表示

❺ Bluetooth インジケーター

携帯電話を Bluetooth 接続すると画面にBluetoothインジケーターが表示されます。

❻ スイッチ

電話に出たり、電話を切るときに押します。「**電話設定**」画面を表示するときに押します。

❼ VOL/PUSH/SEL スイッチ

項目を選択するときに回し、決定をするときに押します。

❽ スイッチ

前の画面に戻ったり、操作を解除するときなどに押します。

❾ ＋ / − (音量調節)スイッチ

＋ / − で音量を調節します。

⩙基本操作

使用できる携帯電話やスマートフォンの機種についてはインターナビのホームページでご確認ください。
http://www.honda.co.jp/internavi/

パワーモードがアクセサリーモードまたはON モードのときに使用できます。

Bluetooth 接続でハンズフリーテレフォンでの通話を行うためには、携帯電話を本システムに登録する必要があります。

ハンズフリー電話同士の通話、騒音の大きい環境下での通話など、使用条件によっては通話しづらい場合があります。また、話しかたによっては相手先に声が伝わりにくい場合や、相手の声がきこえにくい場合があります。

通話時は、大きめの声ではっきりとお話しください。

通話中は窓を閉めてください。

オーディオ再生中に電話がかかってきた場合、オーディオが一時停止します。呼び出しが終了すると再び再生が始まります。

スマートフォンアプリと連携しているときに電話がかかってきた場合、ハンズフリー画面が表示されます。

次ページに続く

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■携帯電話を登録する



■初めて登録するとき

1. を押す。

2. 「**はい**」を選択する。

▶ 携帯電話をサーチ状態にしておいてください。

3. を押す。

4. 携帯電話の機種名が表示されたら、選択してを押す。

▶ 表示されない場合、「**携帯電話から検索**」を選択して携帯電話から検索してください。

5. 画面に表示されたパスキーを携帯電話に入力する。

▶ 携帯電話の Bluetooth のバージョンによってはパスキーの入力は不要です。

▶ 携帯電話の登録および Bluetooth 接続が完了します。

携帯電話を登録する

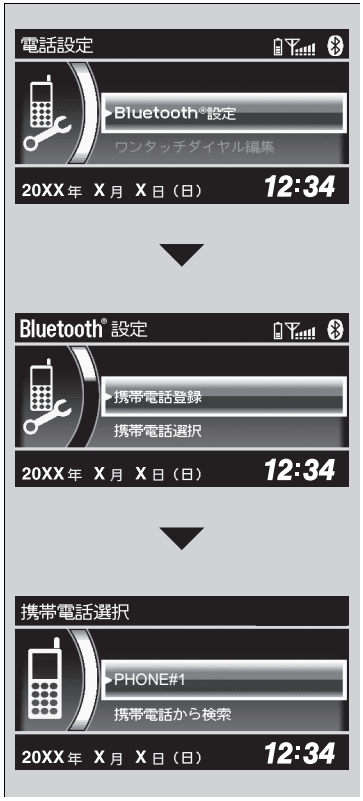
Bluetooth接続で使用する携帯電話は、6台まで登録できます。

携帯電話を登録するときのポイント

- 携帯電話の収納場所、距離によっては、通信速度が低下する場合があります。できるだけ通信状態の良い場所に置くことをお勧めします。
- 走行中は登録の操作はできません。
- 接続中は、携帯電話の電池の消耗が早まることがあります。
- 携帯電話がサーチ状態になっていない場合、または本システムに認識されずに3分が経過した場合は、本システムは接続待機の状態に戻ります。

この操作は最初の 1 回だけです。以降は登録した Bluetooth 携帯電話を車内に持ち込むだけで接続できるようになります。

携帯電話側で操作が必要な場合は、お使いの携帯電話の取扱説明書をご覧ください。



■別の携帯電話を登録する

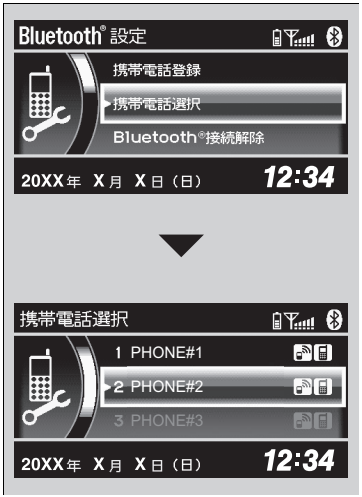
1. 📞を押す。
2. 「**電話設定**」を選択する。
3. 「**Bluetooth 設定**」を選択する。
4. 「**携帯電話登録**」を選択する。
   ▶ 別の携帯電話が Bluetooth 接続されている場合、確認画面が表示されます。「**はい**」を選択して接続解除すると手順6に進みます。
   ▶ 携帯電話をサーチ状態にしておいてください。
5. 🙂を押す。
6. 携帯電話が表示されたら、選択して🙂を押す。
   ▶ 表示されない場合、「**携帯電話から検索**」を選択して携帯電話から検索してください。
7. 画面に表示されたパスキーを携帯電話に入力する。
   ▶ 携帯電話の Bluetooth のバージョンによってはパスキーの入力は不要です。
   ▶ 携帯電話の登録および Bluetooth 接続が完了します。

別の携帯電話を登録する

「**Bluetooth 設定**」画面は、「**設定**」画面からも選択できます。

携帯電話側で操作が必要な場合は、お使いの携帯電話の取扱説明書をご覧ください。

次ページに続く





■別の電話機へ変更する（複数の携帯電話を登録している場合）

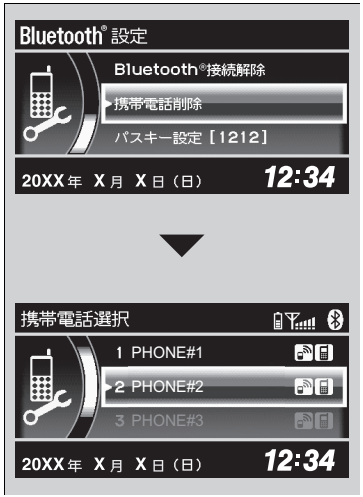
1. [📞]を押す。
2. 「**電話設定**」を選択する。
3. 「**Bluetooth 設定**」を選択する。
4. 「**携帯電話選択**」を選択する。
5. 使用したい携帯電話を選択する。
   - ▶ 接続する携帯電話の選択が完了します。Bluetooth 接続が完了するまでは時間がかかることがあります。
   - ▶ 別の携帯電話が Bluetooth 接続されている場合、確認画面が表示されます。「**はい**」を選択して接続解除すると別の電話機を選択できます。

■Bluetooth 接続を解除する

1. [📞]を押す。
2. 「**電話設定**」を選択する。
3. 「**Bluetooth 設定**」を選択する。
4. 「**Bluetooth 接続解除**」を選択する。
5. 「**はい**」を選択する。

≫別の電話機へ変更する（複数の携帯電話を登録している場合）

登録した携帯電話のリストの右側に、下のようなマークが表示されます。
[📱]：Bluetooth 接続可能な携帯電話です。
[📶]：Bluetooth オーディオが使用可能な携帯電話です。



■登録した電話を消去する

1. を押す。
2.「**電話設定**」を選択する。
3.「**Bluetooth 設定**」を選択する。
4.「**携帯電話削除**」を選択する。
5. 消去したい携帯電話を選択する。
▶ 消去したい携帯電話が Bluetooth 接続されている場合、確認画面が表示されます。「**はい**」を選択して接続解除すると手順 6 に進みます。
6.「**はい**」を選択する。

次ページに続く



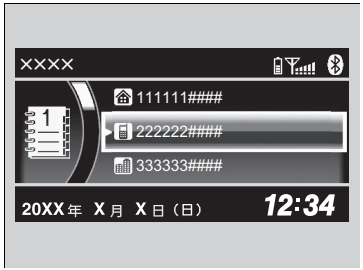
■パスキーを変更する

1. 📞を押す。
2. 「**電話設定**」を選択する。
3. 「**Bluetooth 設定**」を選択する。
4. 「**パスキー設定**」を選択する。
5. 数字を選択し、◎を押して新しいパスキーを入力する。
   ▶ ←で数字を消去できます。
6. 最後に↵を選択し、◎を押す。

パスキーを変更する

パスキーは、変更するまで初期設定の「**0000**」のままです。

■電話帳および発信着信履歴データの自動読み込み



携帯電話を登録すると、携帯電話に登録されている電話帳と発信着信履歴のデータが自動で読み込まれます。

▩電話帳および発信着信履歴データの自動読み込み

電話帳の自動読み込みは、PBAPプロファイルに対応している携帯電話のみとなります。対応状況については携帯電話の取扱説明書をご確認ください。

電話帳データは最大 1,000 件まで表示できます。
発信着信履歴は発信、着信あわせて最大 15 件まで表示できます。

携帯電話で下のような番号種別アイコンを登録している場合、そのアイコンも自動で読み込まれます。



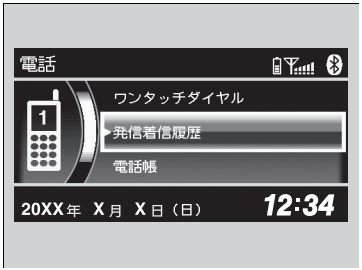
携帯電話の種類によって、番号種別アイコンが表示されない場合があります。

電話帳のデータは携帯電話が接続されるときに更新されます。

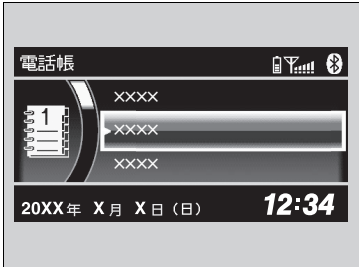
発信着信履歴のデータは携帯電話が接続されるか通話が終了したときに更新されます。

次ページに続く

■電話をかける



電話帳、発信着信履歴、ワンタッチダイヤルから電話をかけることができます。



■電話帳からかける

1. 📞を押す。
2. 「**電話帳**」を選択する。
3. 名前の頭文字（50 音順）を選択する。
4. 名前を選択する。
5. 電話番号を選択し、◎を押して決定する。
   ▶ 自動で発信が始まります。

»電話をかける

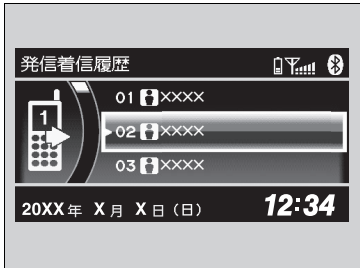
電話がつながると、相手の声はスピーカーから聞こえます。

»電話帳からかける

走行中は電話帳からかけることはできません。

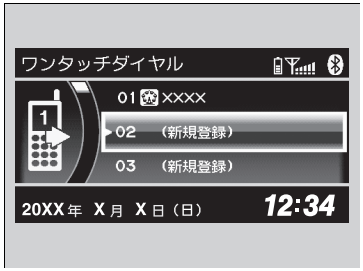
電話帳にふりがなが設定されていない場合、「**その他**」に登録されます。

携帯電話によっては、名前、苗字の順に表示される場合があります。



■発信着信履歴からかける

1. 📞を押す。
2. 「**発信着信履歴**」を選択する。
3. 電話をかける相手を選択し、OKを押して決定する。
   ▶ 自動で発信が始まります。



■ワンタッチダイヤルからかける

1. 📞を押す。
2. 「**ワンタッチダイヤル**」を選択する。
3. 電話をかける相手を選択し、OKを押して決定する。
   ▶ 自動で発信が始まります。

発信着信履歴からかける

履歴は携帯電話が接続されているときに表示されます。

画面の左側のアイコンは、発信着信履歴の種類を表しています。

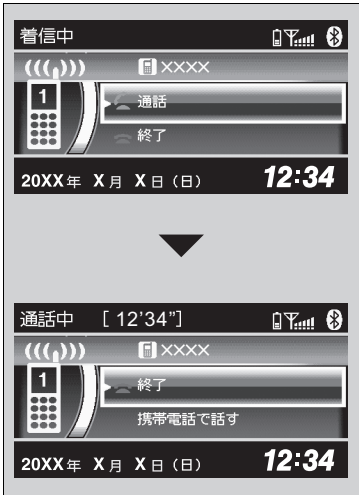
アイコン	発信着信履歴の種類
	発信履歴
	着信履歴
	不在着信履歴

ワンタッチダイヤルからかける

走行中は、リストの 01 ～ 03 のみ選択できます。

次ページに続く

■電話をうける



電話がかかってくると着信音が鳴り、着信画面を表示します。

着信画面

- 電話に出る：「**通話**」を選択するか、[📞]を押す。
- 着信拒否をする：「**終了**」を選択する。

通話中画面

- 携帯電話に転送する：「**携帯電話で話す**」を選択する。
  ▶ハンズフリーに戻したい場合、[📞]を押すと確認画面が表示されます。「**はい**」を選択すると、再びハンズフリーに戻すことができます。
- 電話を切る：「**終了**」を選択するか、[📞]を押す。

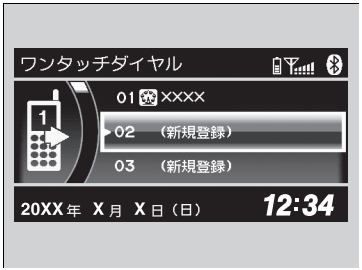
»電話をうける

電話がつながると、相手の声はスピーカーから聞こえます。

電話帳に登録されている電話からの着信には、登録されている名称が表示されます。

発信者番号通知サービスの利用状況によって、かけてきた相手の電話番号や名前は表示されない場合があります。

■ワンタッチダイヤル



■ワンタッチダイヤルの登録

ワンタッチダイヤルを最大 15 件まで登録できます。

1. を押す。
2. 「**ワンタッチダイヤル**」を選択する。
3. 「**（新規登録）**」を選択する。
4. 登録方法を選択する。
5. 項目を選択し、を押して決定する。



■ワンタッチダイヤルの変更 / 削除

1. を押す。
2. 「**電話設定**」を選択する。
3. 「**ワンタッチダイヤル編集**」を選択する。
4. 変更 / 削除したい項目を選択する。
5. 「**ワンタッチダイヤル変更**」/ 「**ワンタッチダイヤル削除**」を選択する。

変更する場合

6. 変更方法を選択する。
7. 項目を選択し、を押して決定する。

削除する場合

6. 「**はい**」を選択し、を押して決定する。

ワンタッチダイヤル

「**電話**」→「**電話設定**」→「**ワンタッチダイヤル編集**」画面からも選択できます。

「**電話番号を入力**」画面では、電話番号を入力したあと下のような番号種別アイコンを選択できます。



ワンタッチダイヤルの変更 / 削除

登録方法や変更方法は以下より選択できます。

- 「**電話帳から選択**」：自動で読み込まれた電話帳から選択します。
- 「**発信着信履歴から選択**」：発信着信履歴から選択します。
- 「**電話番号を入力**」：電話番号を直接入力して登録します。

運転

この章では、運転操作、給油、アクセサリーなどについて記載しています。



運転の前に..... 159
運転操作
エンジンの始動..... 162
走行時の注意点..... 165
無段変速オートマチックについて..... 168
シフト操作.....169, 173
無段変速オートマチック車
SPORT モードスイッチ 175
無段変速オートマチック車
アイドリングストップシステム..... 176
クルーズコントロール✤..... 180
VSA（ビークルスタビリティアシスト）... 183
アジャイルハンドリングアシストシステム..... 184
ブレーキ操作
ブレーキシステム 185
ABS（アンチロックブレーキシステム）... 187
電子制御ブレーキアシスト 188
エマージェンシーストップシグナル .. 189
シティブレーキアクティブシステム✤.... 190
駐停車操作
駐車する..... 197
リヤカメラシステム✤ 199
給油
指定燃料について 200
給油のしかた 200
ターボ車について
取り扱い..... 203
エンジンオイルメンテナンス表示灯 204
アクセサリーと改造 206

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

運転の準備

運転を始める前に下記の項目を確認してください。

■車外での確認項目

- 窓やミラーの視界、灯火器類の光をさえぎるものがないか？
  ▶霜、雪、氷が付着している場合は取り除きます。
  ▶ロールトップに雪が積もっている場合は、走行時に滑り落ちて視界をさえぎる可能性があるため取り除きます。
  氷結しているときは、氷が溶けてから取り除いてください。
  ▶足回りに氷塊が付着している場合は、部品を損傷しないよう注意しながら取り除きます。
- フロントフードは完全に閉まっているか？
  ▶走行中にフロントフードが開くと、視界がさえぎられて危険です。
- タイヤは正常か？
  ▶空気圧、亀裂、損傷や異常な摩耗がないか確認します。
  ➡ **タイヤの点検と整備** P.225
- 車の周囲に子供はいないか？
  車の周囲に障害物はないか？
  ▶運転席から見えない死角や、バックミラーでは確認できない死角がありますので、乗車する前に確認します。

≫車外での確認項目

アドバイス

ドアが凍結しているときは、無理にはがさずお湯をかけて溶かしてください。
無理にはがすと、ドアまわりのゴムがはがれます。お湯をかけた後は、凍結防止のため、水分をよく拭き取ってください。
このとき、沸騰した湯は使わないでください。ロールトップクロスにかかると、ロールトップクロスを痛める場合があります。

ドアのキー穴部には、お湯をかけないでください。
凍結すると、キーが差し込めなくなります。

エンジンルーム内に可燃物の置き忘れや、燃えやすいものがないか確認してください。
車両を長期間使用しなかった場合や、メンテナンスの後は、特に注意してください。火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。

次ページに続く

■車内での確認項目

- フロアマットがペダルに引っかかっていないか？
- フロアマットが固定されているか？
- フロアマットを重ねていないか？
  ▶ ブレーキやアクセルの操作が確実にできないおそれがあり危険です。
- シートの足元にものを置いていないか？
- 積み込んだ荷物が適切に固定されているか？
  ▶ 不適切な荷物の積み込みは、タイヤに負担をかけたり走行中のバランスを維持できず危険です。
- 荷物はシートの高さを越えていないか？
  ▶ 後方視界を妨げたり急ブレーキのときに荷物が飛び出したりするおそれがあり危険です。
- 動物を乗せるときは、動きまわらないようにしているか？
  ▶ 運転の妨げになったり、急ブレーキのときなどに思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- シート位置などが適切に調節されているか？
  ▶ 不適切なシート位置での走行は危険です。
  ➔ **シートの調節** P.90
- ルームミラー、ドアミラー、ハンドルは適切に調節したか？
  ▶ 正しい運転姿勢ですわり、それぞれ適切な位置に調節します。
  ➔ **ミラー類の調節** P.89
  ➔ **ハンドルの調節** P.88

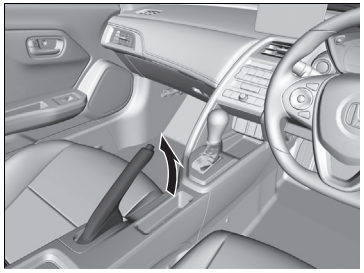
≫車内での確認項目

運転者は、携帯電話を走行中に使用しないでください。
運転者が運転中にハンズフリー以外の携帯電話を使用することは、法律で禁止されています。 運転中の使用により周囲の状況に対する注意が不十分になると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

車に合ったフロアマットをお使いください。

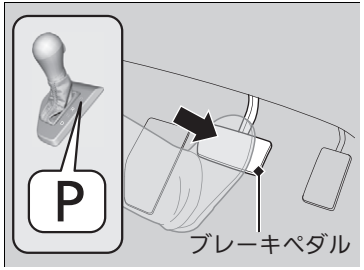
- すべての乗員がシートベルトを締めているか？
  ▶ すべての乗員は必ずシートベルトを着用します。
  ➔ **シートベルトの着用** P.29
- ドアが確実に閉まっているか？
  ▶ 走行前にすべてのドアが完全に閉まり、正しく施錠されていることを確認します。
  ➔ **車内での施錠 / 解錠** P.75
- ロールトップが確実に固定されているか？
  ▶ 走行前にロールトップが正しく固定されていることを確認します。
  ➔ **ロールトップの取り付け** P.81
- エンジンを始動したとき、メーターに異常を示す警告灯などが点灯していないか？
  ▶ 異常を示す警告灯の異常を解決してから走行します。
  ➔ **警告灯** P.48

エンジンの始動



共通操作

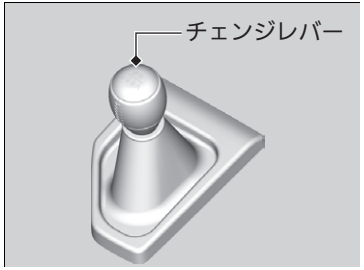
1. パーキングブレーキをかける。



無段変速オートマチック車

2. セレクトレバーが P であることを確認し、右足でブレーキペダルを踏む。

▶ N でも始動できますが、安全のため駆動輪が固定される P で行ってください。



マニュアル車

2. チェンジレバーが N（ニュートラル）であることを確認し、右足でブレーキペダル、左足でクラッチペダルを踏む。

▶ 思わぬ事故を防ぐため、クラッチペダルをいっぱいに踏み込まないとスターターが回らないようになっています。

≫エンジンの始動

⚠警告

バッテリー液が不足しているときは、エンジンを始動しない。

バッテリーが破裂するおそれがあります。

⚠注意

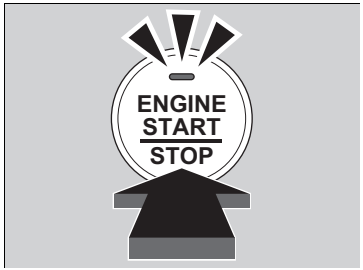
エンジンを始動するときは、ブレーキペダルをしっかりと踏む。

寒いときのエンジンの始動は、すべての電気アクセサリーを OFF にしてから行います。

寒いときのエンジンの始動は、バッテリーの消耗を防ぐためライト類、エアコンなどの電気アクセサリーをすべて OFF にしてから行ってください。

ENGINE START/STOP はエンジンが始動するまで押し続ける必要はありません。

- エンジンがかからない場合は、10秒以上待ってから再始動してください。



3. アクセルペダルを踏まずに、
ENGINE START/STOP を押す。

■エンジンの停止

車が完全に停止しているとき、エンジンを切ることができます。

1. セレクトレバーを P にする(無段変速オートマチック車)。

2. ENGINE START/STOP を押す。

エンジンの始動

車を盗難から守るため、イモビライザーシステムのキーを採用しています。
そのため、あらかじめ登録されたキーでないとエンジンの始動ができません。
➡ **イモビライザーシステム** P.76

Honda スマートキーの電池が切れたときは、キーで ENGINE START/STOP に触れてください。
➡ **Honda スマートキーの電池が切れたとき** P.253

排気音が変わったり、車内でガソリンや排気ガスのにおいが消えないときは、排気系や燃料系の異常が考えられます。
Honda 販売店で点検を受けてください。

次ページに続く

■発進時の操作

無段変速オートマチック車

1. 右足でブレーキペダルを踏んだまま、セレクトレバーを D にする。
▶ 後退する場合は R にします。
2. パーキングブレーキを解除する。
▶ ブレーキ警告灯が消灯したことを確認してください。
➡ **パーキングブレーキ** P.185
3. ブレーキペダルを徐々に離し、アクセルペダルをゆっくりと踏んで発進する。

■ヒルスタートアシストシステム

急な坂道からの発進をするときに、ブレーキペダルから足を離した後、ブレーキ力を約1 秒間保持することで車両の後退を緩和し、発進を容易にするシステムです。

発進時の操作

⚠注意

アクセルペダルを踏んだまま、セレクトレバーを操作しない。
急発進して思わぬ事故の原因となります。

坂道での発進時は、必ずパーキングブレーキを併用してください。
車が後退しないよう、パーキングブレーキをかけたまま、先にブレーキペダルを離してアクセルペダルに踏みかえてから、パーキングブレーキを解除してください。

ヒルスタートアシストシステム

緩やかな坂道ではシステムが作動しないことがあります。

走行時の注意点

■霧が出たときは

霧が出たときは視界が悪くなります。昼間でもヘッドライトを下向きで点灯し、中央線、ガードレール、前走車のテールランプなどを目安にして、速度を落として走行してください。

■風が強いときは

風が強く車が横に流されるようなときは、ハンドルをしっかり握り、速度を徐々に落として進路を立て直します。
トンネルの出口、橋、土手の上、山を削った切り通しの走行時や大型トラックの追い越し時などには、特に横風の影響を受けやすいため、十分に注意してください。

走行時の注意点

走行中はエンジンを停止しないでください。
下記のような状態になり危険です。
- ブレーキの倍力装置が作動しないため、ブレーキの効きが悪くなる
- パワーステアリングのパワー装置が作動しないためハンドル操作が重くなる

走行中はセレクトレバーを N にしないでください。
エンジンブレーキが全く効かず、思わぬ事故の原因となります。

車を移動するときは、必ずエンジンを始動してください。
下り坂を利用しての移動などは、思わぬ事故の原因となります。

1,000km走行するまでは、エンジンや駆動系の保護のため急発進、急加速を避け、控えめな運転をしてください。

次ページに続く

■雨が降っているときは

雨天時は路面が滑りやすくなっているため、急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け通常より注意深く運転してください。
わだちなどの水のたまりやすい場所ではハイドロプレーニング現象を起こしやすくなります。

冠水路などの深い水たまりは走行しないでください。エンジンや駆動系の破損、電装品の故障につながるおそれがあります。

雨が降っているときは

ハイドロプレーニング現象に注意してください。
ハイドロプレーニング現象とは、路面が水でおおわれているところを高速で走行したときに、タイヤと路面の間に水の膜ができ、タイヤが浮いてハンドルやブレーキが効かなくなる状態のことをいいます。

■その他の注意点

走行中、床下に強い衝撃を受けたときは、思わぬ事故につながるおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してブレーキフルードや燃料の漏れ、各部に損傷がないかを確認してください。

≫その他の注意点

⚠注意

シフトダウンする際の車速には、十分注意する。

滑りやすい路面では、急激なエンジンブレーキがタイヤのスリップを招くことがあります。

アドバイス

停車中や極低速のときハンドル操作を繰り返したり、ハンドルに力をかけ保持するなどして EPS(電動パワーステアリング)システムの温度が上昇すると、システム保護のためパワー装置のはたらきを制限するので、ハンドル操作が徐々に重くなります。

システムの温度が下がると復帰しますが、システム保護がはたらくような使いかたを断続的に繰り返すと、システム破損の原因となります。

アドバイス

下記のような場合には、フロントバンパーなどを損傷するおそれがあります。

- 車止めのある場所への駐車
- 路肩に沿っての駐車
- 平坦路から上り坂・下り坂および上り坂・下り坂から平坦路への乗り入れ
- 路肩等段差のある場所への乗り降り
- 凹凸やわだちのある道路の走行
- くぼみ(穴)のある個所の通過

無段変速オートマチックについて

■クリープ現象

エンジンがかかっているとき、セレクトレバーが P N 以外に入っていると動力がつながった状態になり、クリープ現象によりアクセルペダルを踏まなくても、車がゆっくり動き出します。

■キックダウン

セレクトレバーが D で走行中にアクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、自動的に変速比が変わりエンジンの回転数が上がって、力強い加速を得ることができます。

クリープ現象

エンジン回転が上がるとクリープ現象が強くなります。
エンジン回転が上がったときは、ブレーキペダルをしっかりと踏んでください。

上り坂での停車時、クリープ現象による前進の力よりも、後退しようとする力のほうが大きくなり、車が後退する場合があります。
ブレーキペダルを踏み、パーキングブレーキをかけてください。

キックダウン

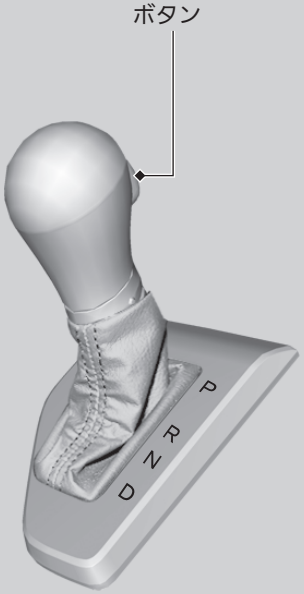
上り坂などでアクセルペダルを踏み込んだとき、キックダウンにより急にエンジン回転が上がり、速度が出すぎてしまうことがあります。
アクセルペダルは慎重に操作してください。滑りやすい路面やカーブでは、特に注意が必要です。

シフト操作

無段変速オートマチック車

走行状態に応じてセレクトレバーで切り換えます。

■セレクトポジションの名称とはたらき



P パーキング
駐車またはエンジンの始動

R リバース
車を後退

N ニュートラル
アイドリング状態

D ドライブ
・通常走行
・7速マニュアルシフトモードにするとき

シフト操作

セレクトレバーが P 以外のときは、パワーモードが OFF モードになりません。

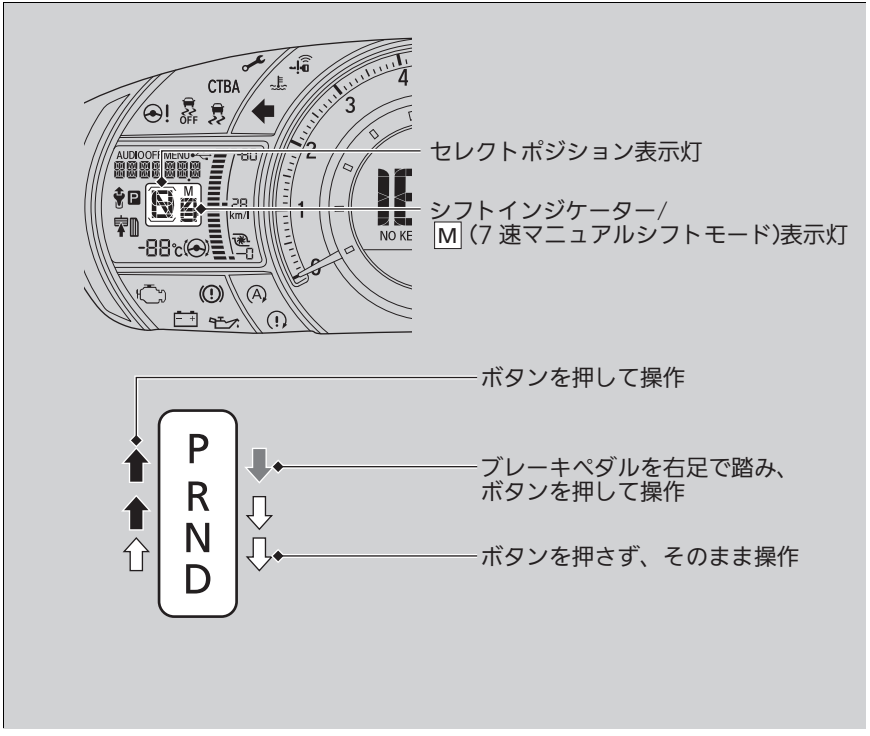
R のポジションのときは、チャイム音が鳴り運転者にセレクトレバーが R に入っていることを知らせます。

N のポジションのときでも、エンジンが冷えているときはトランスミッションフルードの粘性により、車がわずかに動き出すことがあります。
ブレーキペダルをしっかりと踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

次ページに続く

■セレクトレバーの操作

セレクトポジションは、メーター部にあるセレクトポジション表示灯と連動し、現在のポジションを表示灯の点灯で表示します。



▶▶セレクトレバーの操作

アドバイス

前進から後退、後退から前進するときは車を完全に止め、ブレーキペダルを踏んだままセレクトレバーを操作してください。

車が完全に止まっていない状態でレバーを操作すると、トランスミッションを破損するおそれがあります。

車を発進させるときは、思い違いによる事故を防ぐためにセレクトポジション表示灯でもセレクトレバーの位置を確認してください。

走行中にセレクトポジション表示灯が点滅しているときは、トランスミッションに異常があります。

急加速を避け、Honda 販売店で点検を受けてください。

セレクトレバーボタンを押したままブレーキペダルを踏んだ場合、セレクトレバーの操作ができないことがあります。

先にブレーキペダルを踏んでください。

外気温が非常に低い(マイナス 30 度以下)とき、セレクトポジションの表示の切り替わりが少し遅れることがあります。走行前は必ずセレクトポジションを確認してください。

■ 7 速マニュアルシフトモードとは

ハンドルにあるシフトスイッチで、ハンドルから手を離さずに手動で1～7速まで変速することができます。走行中にシフトスイッチを引くと、7 速マニュアルシフトモードへ切り換わります。エンジンブレーキが必要なときも、使用してください。

■セレクトポジションが D で、SPORT モードスイッチが OFF のとき

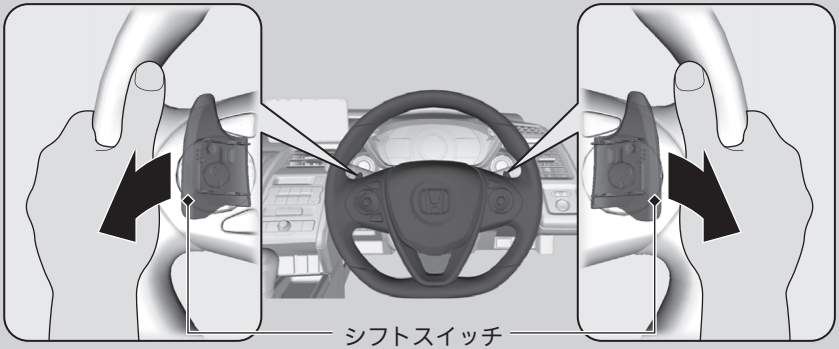
一時的に7速マニュアルシフトモードとなり、シフトインジケーターが点灯します。
一定速走行や加速の状態になると、7 速マニュアルシフトモードは自動的に解除されます。また、 + のシフトスイッチ(右側)を数秒間引き続けることでも解除することができます。
カーブの手前など、一時的に減速したいときに便利です。

■セレクトポジションが D で、SPORT モードスイッチが ON のとき

7 速マニュアルシフトモードとなり、 M 表示灯とシフトインジケーターが点灯します。シフトスイッチを操作せずに車速が下がると、順次低速段に自動的にシフトダウンし、停止すると1速にシフトダウンします。
車速が上がりエンジン回転数が限界回転数(レッドゾーン)に近づくと、自動的に1段シフトアップします。
発進は 1 速でのみ行うことができます。
モードを解除する場合は、SPORT モードスイッチを押すか + のシフトスイッチ(右側)を数秒間引き続けてください。7 速マニュアルシフトモードが解除され、 M 表示灯とシフトインジケーターが消灯します。

次ページに続く

■ 7 速マニュアルシフトモードの操作



7 速マニュアルシフトモードの操作

シフトスイッチを操作したとき、操作後のエンジン回転数が許容範囲外になる場合は、変速せず表示灯が点滅します。

エンジン保護する為に、自動的にシフトアップやシフトダウンすることがあります。

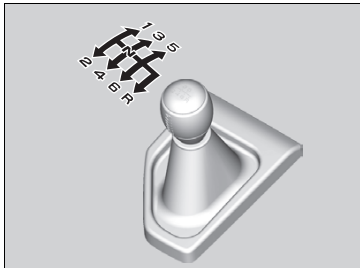
滑りやすい路面でシフトスイッチを操作したときに、タイヤがロックするような場合、7 速マニュアルシフトモードから通常走行に戻る場合があります。

シフト操作

マニュアル車

■チェンジレバーの操作

変速するときは、クラッチペダルをいっぱいに踏み込んで、チェンジレバーを確実に操作します。



»チェンジレバーの操作

アドバイス

車が完全に止まらないうちは R に入れないでください。

トランスミッション破損の原因となります。

誤操作を防ぐため、一定車速以上では、 R へ直接チェンジレバーを切り換えることはできません。

停車しても R に入らないときは、一度 N (ニュートラル)へ戻し、 1 、 2 側へ倒してから R にいれてください。

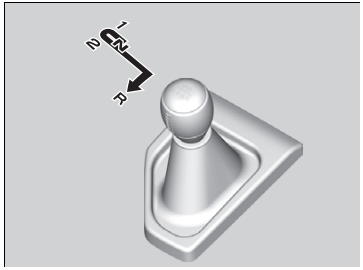
シフトダウンする際は、タコメーターレッドゾーンに入らないように適切な車速で操作してください。

エンジンの回転をあやまってタコメーターのレッドゾーン(限界回転数)以上で運転した場合、エンジン保護装置により燃料供給が停止されます。そのとき、軽い衝撃を感じることがありますが、異常ではありません。

次ページに続く

R に入らないとき

一度 N (ニュートラル)に戻し、 1 、 2 側へ倒してから R に入れても入らない場合は下記の操作をしてください。



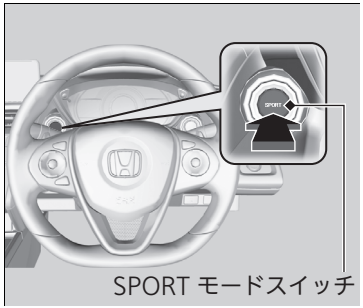
1. パーキングブレーキをかけてパワーモードをアクセサリーモードまたは OFF モードにする。
2. クラッチペダルを踏み込んで、チェンジレバーを R にする。
3. クラッチペダルを踏み込んだまま、エンジンを始動する。

R に入らないとき

この操作を毎回しないと R に入らない場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

無段変速オートマチック車

SPORT モードスイッチ



SPORT モードスイッチ

パワーモードがON モードのときにスイッチを押すと、SPORT モードが ON になります。

高い応答性能により、力強く伸びのある走行を可能にしているモードです。山間部などの坂道や郊外での走行に適しています。

アンビエントメーターが白色から赤色に変化し、瞬間燃費表示がターボブースト表示に切り換わります。

➔ **ターボブースト表示** P.63

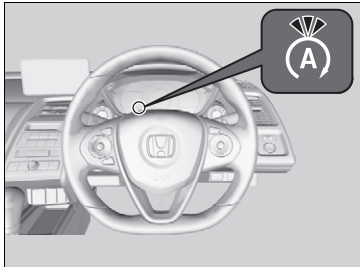
SPORT モードスイッチ

パワーモードをアクセサリーモードまたはOFF モードにするとSPORT モードは自動的にOFF になります。

無段変速オートマチック車

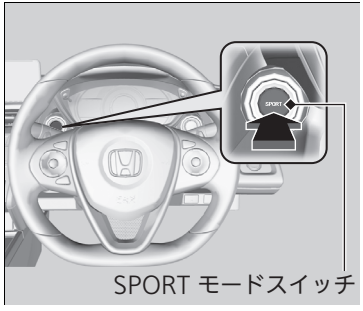
アイドリングストップシステム

燃費向上やアイドリング騒音低減のために、停車する直前もしくは停車時にアイドリングストップしたり、エンジンが自動的に再始動するシステムです。アイドリングストップ中は、表示灯が点灯します。



表示灯が点灯しているときに運転席ドアを開けるとブザーが鳴り、アイドリングストップしていることを知らせます。

■アイドリングストップシステムの ON/OFF



SPORT モードスイッチ

アイドリングストップシステムをOFFにするには、SPORT モードスイッチを押してください。

SPORT モードになり、アイドリングストップシステムが OFF になります。

▶ アンビエントメーターが赤色になります。

前回の走行時にOFFにした場合でも、再度エンジンを始動させると自動的に ON になります。

アイドリングストップシステム

アイドリングストップシステム装備車に適合したバッテリーを使用しています。
指定されたバッテリー以外を使用すると、バッテリーの早期劣化やアイドリングストップが作動しにくくなる可能性があります。
交換時は指定されたバッテリーを使用してください。
詳しくは Honda 販売店にご相談ください。
➔ **仕様** P.275

アイドリングストップシステムの ON/OFF

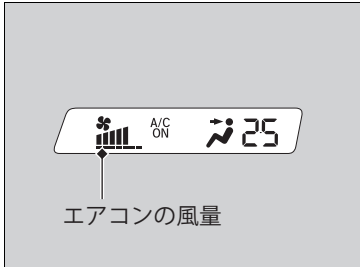
アイドリングストップ中に SPORT モードスイッチを押すと、エンジンが再始動します。

■アイドリングストップをする

停車する直前もしくは停車時にブレーキペダルを踏んでいるとアイドリングストップします。

■アイドリングストップしない条件

- 運転者がシートベルトを着用していないとき
- エンジン冷却水の水温が低いとき、または高いとき
- トランスミッションフルードの油温が低いとき、または高いとき
- エンジン始動後、5km/h に達しないまま停車したとき
- 急な坂道で停車したとき
  ▶ 坂道を走行しているとき
- セレクトレバーを D 以外にしているとき
- フロントフードまたはリヤフードが開いているとき
  ▶ フロントフードとリヤフードを閉めてからエンジンを再始動してください。
- SPORT モードスイッチが ON のとき
- バッテリーの充電量が少ないとき
- バッテリーの内部温度が 5 ℃以下のとき



- 外気温が−20℃以下または40℃以上でエアコンを使用しているとき
- エアコン風量が多いとき
- エアコンの設定温度がHiまたはLoでエアコンを使用しているとき
- FRONT が ON のとき

アイドリングストップをする

アイドリングストップ中は、リヤフードを開けないでください。
リヤフードを開けると、エンジンが自動で再始動しません。
リヤフードを開けたときは、セレクトレバーを P にして、ENGINE START/STOP でエンジンを再始動させてください。
➔ **エンジンの始動** P.162

アイドリングストップ中に、
ENGINE START/STOP を押すとアクセサリーモードになり自動で再始動しません。
通常のエンジンの始動操作をしてください。
➔ **エンジンの始動** P.162

次ページに続く

■アイドリングストップしないことがある条件

- 急ブレーキをかけて停止したとき
- ハンドルを動かしているとき
- エアコン風量が多いとき
- 標高が高いとき
- 低車速で、加減速が繰り返されるとき
- エアコンを使用中で設定温度と車内の温度差が大きいとき

シティブレーキアクティブシステム装備車

- シティブレーキアクティブシステムが作動したとき

■エンジンが自動的に再始動する

ブレーキペダルを離すとエンジンが自動的に再始動します。

■ブレーキペダルを離さずに、エンジンが自動的に再始動する条件

- SPORT モードスイッチを押したとき
- ハンドルを動かしたとき
- セレクトレバーを R にしたとき、または N から D に操作したとき
- 坂道で停車中に、ブレーキをゆるめて車が動いたとき
- ブレーキを繰り返し踏み込んだりゆるめたりしたとき
- バッテリーの放電量が多いとき
- アクセルペダルを踏んだとき
- 運転者がシートベルトを外したとき
- FRONT を押したとき
- エアコン使用中で設定温度と車内の温度差が大きくなったとき

■発進補助ブレーキ機能

アイドリングストップからの発進はブレーキペダルから足を離しても一時的にブレーキ力を保持し、坂道で車を下がりにくくします。

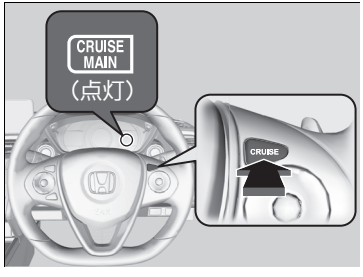
エンジンが自動的に再始動する

アイドリングストップからエンジンが再始動すると、使用している電子機器によっては、電源が一時的にオフになることがあります。

ブレーキペダルの踏み込み方がゆるいときに、停車直前に減速時アイドリングストップから再始動することがありますが再びブレーキペダルを踏み込むとアイドリングストップすることがあります。

クルーズコントロール*

高速道路のような加速 / 減速操作の少ない自動車道などで、定速運転をするときアクセルペダルを踏まなくても車速を一定に保つための装置です。



ハンドルの CRUISE スイッチを押すとメーターの CRUISE MAIN が点灯し、クルーズコントロールが ON になります。

■使用できるシフトポジション：

D（無段変速オートマチック車）

■使用できる車速：

約 30 ～ 100km/h の範囲の希望値

≫クルーズコントロール*

⚠警告

下記のような道路で、クルーズコントロールを使用しない。

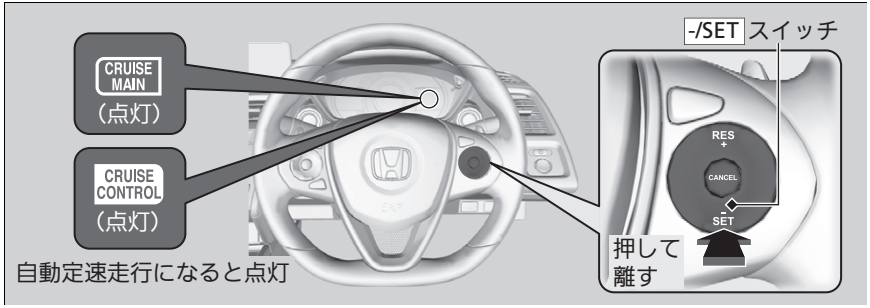
道路状況によっては、思わぬ事故につながります。

- **混んでいて、車間距離が十分にとれない道路**
  道路状況に合った速度で走行できません。
- **急な下り坂のある道路**
  エンジンブレーキが十分効かず、セットした速度を超えてしまうことがあります。
- **凍結や積雪などで滑りやすい道路**
  タイヤが空転し、車のコントロールを失うおそれがあります。

パワーモードをアクセサリーモードまたは OFF モードにするとクルーズコントロールは自動的に OFF になります。

*：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

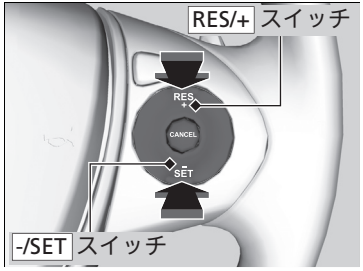
■車速をセットするには



希望の車速になったらペダルから足を離し、 -/SET を押します。
-/SET を離すと、離したときの車速にセットされ自動定速走行になります。同時に、**CRUISE CONTROL** 表示灯が点灯します。

■車速を調節するには

手元の RES/+ と -/SET の操作で車速を上げ / 下げすることができます。



RES/+ スイッチ
- 1 回押すごとに約 1.5km/h ずつ車速が上がる
- 押し続けると車速が上がり、手を離したときの車速に固定

-/SET スイッチ
- 1 回押すごとに約 1.5km/h ずつ車速が下がる
- 押し続けると車速が下がり、手を離したときの車速に固定

次ページに続く

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

≫クルーズコントロール*

上り坂や下り坂では、条件により一定速度を保てない場合があります。

マニュアル車

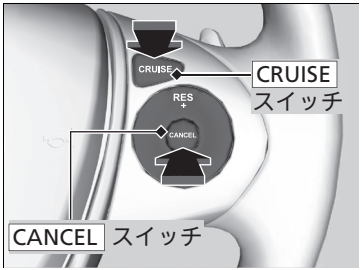
エンジン回転数が下がったときは、シフトダウンをしてください。
クラッチペダルを踏んでから5秒以内にシフトチェンジすれば、設定した車速を維持できます。

≫車速をセットするには

自動定速走行をしないとき

安全のため CRUISE を押してOFFにしてください。
パワーモードをアクセサリーモードまたは OFF モードにすると、 CRUISE は自動的に OFF になります。

■解除するには



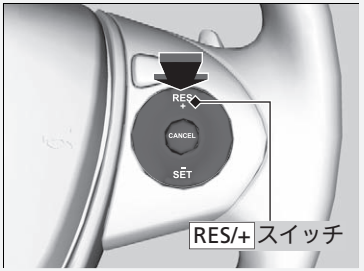
次の操作をすると、自動定速走行が解除されます。同時に、**CRUISE CONTROL** 表示灯が消灯します。

- CANCEL を押す
- CRUISE を押す
- ブレーキペダルを踏む

≫解除するには

解除前の設定車速を復帰させる

自動定速走行を解除したあとでも、30km/h以上の車速で走行中に RES/+ を押すことで、解除前の設定車速の自動定速走行に戻すことができます。



ただし、下記の場合は復帰できません。

- 解除後、車速が 30km/h 未満になったとき
- CRUISE で OFF 操作をしたとき

以下の場合は、自動的にクルーズコントロールが解除されます。

- 車速が 25km/h 以下になったとき

マニュアル車

- 5 秒間以上クラッチペダルを踏み続けたとき
- チェンジレバーを N (ニュートラル)にしたとき

VSA(ビークルスタビリティアシスト)

VSA とは、ABS 機能、TCS 機能および横滑り抑制機能を総合的に制御し、急激な車両の挙動変化を抑制しようとする装置です。

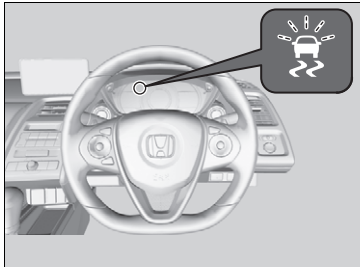
■ABS(アンチロックブレーキシステム)機能 P.187

■TCS(トラクションコントロールシステム)機能
滑りやすい路面などでの駆動輪の無駄な空転を防止し、駆動力、操舵能力を確保しようとする機能です。

■横滑り抑制機能
急激なハンドル操作や滑りやすい路面などでの旋回時に、車輪の横滑りなどを抑制することで車両の安定性を確保しようとする機能です。

さらに、緊急制動時に運転者のブレーキ操作を補助する電子制御ブレーキアシストも装着しています。
電子制御ブレーキアシスト P.188

■ VSA の作動と警告灯



TCS 機能または横滑り抑制機能作動中は、VSA 警告灯が点滅します。

次ページに続く

VSA(ビークルスタビリティアシスト)

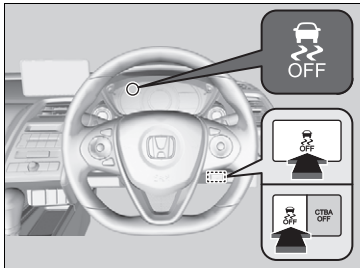
VSA が作動した状態でも車両の安定性の確保には限界がありますので、無理な運転はしないでください。
- カーブ手前では十分に速度を落とす
- 雪道、凍結路を走行するときは、スノータイヤを装着し控えめな速度で運転する

新雪やぬかるみから脱出したいときに、VSA OFF でVSA をOFFにするとエンジントルク抑制機能が停止し、駆動輪が回転しやすくなるので効果的な場合があります。
この際、TCS機能がOFFになるため、走行には十分に気をつけてください。

種類やサイズの異なるタイヤが混在していると、VSAが正常に機能しないことがあります。
タイヤは必ず、同一指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。

VSA 警告灯が運転中に点灯するときはシステムの異常が考えられます。
通常の運転には支障はありませんが、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

■ VSA の ON と OFF



VSA 機能を部分的に停止(OFF)状態にするには、を「ピッ」とブザーが鳴るまで押してください。
TCS機能が制限され、低速で駆動輪が回転しやすくなります。
再度使用(ON)するには、を「ピッ」とブザーが鳴るまで押します。

アジャイルハンドリングアシストシステム

運転者のハンドル操作に応じて、4 輪それぞれに軽いブレーキをかけることで、車両の動きを滑らかにし、安定感のあるコーナリングを可能とするシステムです。

VSA(ビークルスタビリティアシスト)

前回の走行時にOFFにした場合でも、再度エンジンを始動させると自動的に ON になります。

エンジン始動直後や走行中、システムチェックのためフロントコンパートメントからモーター音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

アジャイルハンドリングアシストシステム

システム作動中に、フロントコンパートメントから音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

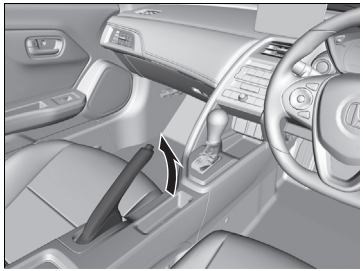
アジャイルハンドリングアシストシステムはすべての走行条件で安定性を向上させるシステムではありません。
安全のために、カーブ走行時は状況に応じた適正な速度で、十分に車間距離をとって走行してください。

走行中に VSA 警告灯が点灯したままのときは、アジャイルハンドリングアシストシステムが作動しません。

ブレーキシステム

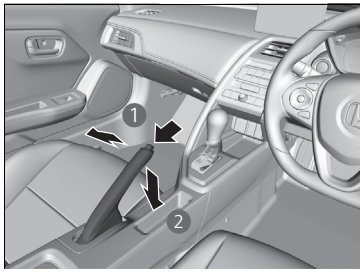
■パーキングブレーキ

主に停車中や駐車時に使用するブレーキです。パーキングブレーキレバーにより操作します。



■パーキングブレーキをかける

ボタンを押さずにレバーをいっぱいに引きます。



■パーキングブレーキを解除する

1. レバーを軽く引き上げながら、ボタンを押す。
2. ボタンを押したまま、レバーを下まで完全に下ろす。

パーキングブレーキ

アドバイス

パーキングブレーキをかけたまま走行すると、リヤブレーキと車軸が損傷するおそれがあります。

パーキングブレーキは完全に解除した状態で、走行してください。

パーキングブレーキが完全に解除されていない状態で走行すると、パーキングブレーキ戻し忘れ警告ブザーが鳴ります。

完全に解除すると、ブザーは止まります。
停車したときも、ブザーは止まります。

駐車するときは、車が動き出さないように必ずパーキングブレーキをかけてください。

次ページに続く

■フットブレーキ

車の減速や停止をするためのメインのブレーキです。ブレーキペダルで操作します。
緊急制動時により大きな制動力を発生させる電子制御ブレーキアシストが装備されています。

➔ **電子制御ブレーキアシスト** P.188

また、ブレーキのロックを防止する ABS（アンチロックブレーキシステム）で、安全性の向上を図っています。

➔ **ABS（アンチロックブレーキシステム）** P.187

フットブレーキ

水たまりを走行したときは、ブレーキの効き具合を確認してください。
効きが悪いときは、効き具合が戻るまでブレーキペダルを何回か軽く踏んでください。

ブレーキを踏んでいる間、絶えず金属的な摩擦音が聞こえる場合はブレーキパッドを交換する必要があります。
Honda 販売店で点検を受けてください。

長い下り坂でブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキが過熱し、ブレーキの効きが悪くなり危険です。
そのため、長い下り坂などではエンジンブレーキを使用します。
アクセルペダルから足を離し、ギヤを低速にシフトすると、エンジンの回転抵抗で速度が落ちます。

ABS(アンチロックブレーキシステム)

■ ABS とは

ABS(アンチロックブレーキシステム)とは、急制動や滑りやすい路面で制動するとき、車輪のロックを防止することで車両の姿勢を安定させ、ハンドルの効きを確保しようとするための装置です。

■ABS の作動と警告灯

ブレーキペダルを踏んだとき、ブレーキペダルが小刻みに動くことがありますが、これは ABS の正常な動作です。そのままブレーキペダルを強く踏み続けてください。

なお、低速(車速約 10km/h 以下)では ABS は作動せず、通常のブレーキと同じ作動となります。



ABS 警告灯

パワーモードを ON モードにすると数秒間点灯し消灯するのが正常な状態。

ABS(アンチロックブレーキシステム)

アドバイス

指定された種類やサイズの異なるタイヤが混在していると、ABS が正常に機能しないことがあります。

タイヤは必ず、指定された種類、サイズのタイヤを指定空気圧で使用してください。

ABS 警告灯が運転中に点灯するときは、システムの異常が考えられます。

通常のブレーキ操作には支障はありませんが、ABS が作動していない可能性があります。ただちにHonda販売店で点検を受けてください。

ABS は、制動距離を短くするためのものではありません。

ABS を装備していない車両と同様に、路面が滑りやすいほど長い制動距離が必要になります。ABS が作動した状態でも車両の姿勢やハンドルの効きには限界がありますので、過信せず安全運転に心がけてください。また、次のような場合、ABS の装着されていない車両に比べ、制動距離が長くなることがあります。

- 砂利道、深い新雪、凸凹路などの悪路
- 舗装の継ぎ目やマンホールなどの段差

エンジン始動直後や走行中、システムチェックのためフロントコンパートメントからモーター音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

電子制御ブレーキアシスト

■電子制御ブレーキアシストとは

緊急制動時に、より大きな力を発生させ運転者のブレーキ操作を補助する装置です。

■電子制御ブレーキアシストの作動

ブレーキペダルを強く踏み込んだときに、ブレーキがより強く効くようになります。

ブレーキアシストが作動すると、ペダルが小刻みに動いたり、作動音が聞こえたりすることがあります。これはブレーキアシストが作動しているときの現象で異常ではありません。そのままブレーキペダルを強く踏み続けてください。

➔ VSA(ビークルスタビリティアシスト) P.183

エマージェンシーストップシグナル

エマージェンシーストップシグナルは、自車が急ブレーキをかけたことを非常点滅表示灯が自動的に高速で点滅して後続車に知らせ、追突される可能性を低減するシステムです。60ｋm/ｈ以上で走行しているときに急ブレーキをかけると作動します。

■作動のしくみ



エマージェンシーストップシグナルは、以下の状態になると作動が停止します。

- ブレーキペダルを離したとき
- ABS が停止したとき
- 急減速でなくなったとき
- ハザードスイッチを ON にしたとき

エマージェンシーストップシグナル

エマージェンシーストップシグナルは、追突されるおそれを低減するシステムであり、追突を完全に防ぐものではありません。運転するときは不必要な急ブレーキを避け、安全運転を心がけてください。

ハザードスイッチが ON のときは、エマージェンシーストップシグナルは作動しません。

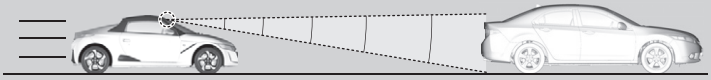
ABSが一定時間以上作動しないとき、システムが作動しない場合があります。

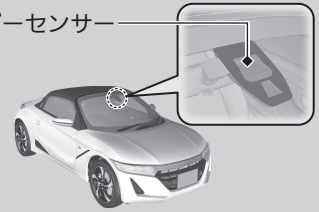
シティブレーキアクティブシステム*

低速走行時に、自車が、前方の車両のほぼ真後ろから追突するおそれがあるときに、運転者のブレーキ操作を支援し、衝突回避を支援したり衝突の衝撃を軽減する装置です。
なお、セレクトレバーまたはチェンジレバーが R のときは、作動しません。

■システム作動条件

自車の車速が 約 5km/h ～ 30km/h のとき、レーザーセンサーが前方の車両を検知





フロントガラス上部に、シティブレーキアクティブシステムのレーザーセンサーを装備

自車との速度差が 約 5km/h ～ 30km/h の車両に対して衝突のおそれがあるときに、システムが作動します。

≫シティブレーキアクティブシステム*

⚠警告

シティブレーキアクティブシステムは、あらゆる状況で衝突を回避できるシステムではありません。
正しく運転しないと衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

システムを正しく作動させるために、必ず次のことをお守りください。

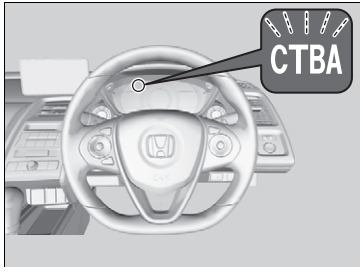
- **フロントガラス上部にあるレーザーセンサー付近に汚れ、氷、霜などの遮蔽物があるときは取り除く**
- ガラスを拭くときは、レーザーセンサーに衝撃を与えない
- センサーを取り外さない

マニュアル車

システム作動により停車したときは、エンジンが停止することがあります。
エンジンが停止したときは、通常操作でエンジンを再始動してください。
➡ **エンジンの始動** P.162

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■システムの作動のしかた



衝突のおそれがある状態になると、ブザー(ピピピ)が鳴り、CTBA表示灯が点滅し、ブレーキが強くかかります。

システムが作動し、停車した後に、自動ブレーキは解除されます。
安全のため、必要に応じてブレーキペダルを踏んでください。
また、車が停止してから、CTBA表示灯が10数秒間点灯します。

なお、衝突を回避しようとして、運転者がハンドル、ブレーキペダル、アクセルペダルを操作したときは、システムが解除されることがあります。

シティブレーキアクティブシステム*

次のような場合には、車両を正しく検知できず、システムが作動しない場合があります。

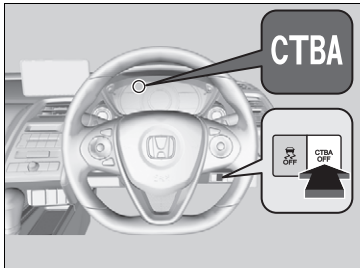
- 前方の車両が斜め、横向き、対向の場合で、車両を検知しにくいとき
- 前方の車両との車間距離が極端に短いとき
- 自車と前方の車両との相対速度差が大きいとき
- 自車の前方に別の車両が割り込み、急な減速を行ったとき
- 急加速を行い、前方の車両に接近しているとき
- 自車の前方に対向車が急に飛び出したとき
- 自車が対向車の前に急に飛び出したとき
- 交差点などで、自車の前方に車が飛び出したとき
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- カーブなどの道路状況のとき
- 前方車両が著しく汚れているなど、レーザーの反射が弱く検知しにくいとき
- 衝突を回避しようとして運転者がブレーキやハンドルを操作したとき
- キャリアカーなど特殊な形状の車、自転車、二輪車などや、物の材質、形状、大きさなどにより、レーザーセンサーが検知しにくいとき
- フロントガラス上部にあるレーザーセンサー付近に汚れ、氷、霜などの遮蔽物があるとき

アクセルペダルの踏み込み量が大きいときに、システムが作動しない場合があります。

次ページに続く

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■システムの ON と OFF



CTBA OFF を「ピッ」とブザーが鳴るまで押して、システムの ON と OFF を切り換えます。

シティブレーキアクティブシステムがOFFに切り替わったとき、 CTBA 表示灯が点灯します。

前回の走行時にOFFにした場合でも、再度エンジンを始動させると自動的にON になります。

シティブレーキアクティブシステム*

以下の場合、システムが自動的に停止し、 CTBA 表示灯が点滅することがあります。

- フロントガラス上部にあるレーザーセンサー付近の温度が高くなったとき
- フロントガラス上部にあるレーザーセンサー付近に汚れ、氷、霜などの遮蔽物があるとき
- フロントフードに雪などが積もっているとき

安全な場所に車を止めて、以下の対処を行ってください。

- レーザーセンサー付近の温度が高くなっているときは、エアコンを使用して車内の温度を下げる
- レーザーセンサー付近の汚れなどの遮蔽物やフロントフード上の雪などがあるときは取り除く

システムが作動できる状態になると、システムは自動復帰します。

以下の場合、システムを OFF にしてください。

- 車両の整備や検査の際に、シャーシダイナモやフリーローラーを使用する場合
- 草の生い茂っているオフロードなどの悪路や、木の葉がかかるような山道などを走行する場合

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■衝突の可能性のない場合の作動について

衝突の可能性がなくても、以下のとき、システムが作動することがあります。
周囲の状況に注意して、走行してください。

- 追い越しや交差点などで前方の車両や対向車に接近して走行するとき
- 低いゲートや狭いゲートなどを規制速度を越えるような速度で通過しようとするとき
- 段差のある道路、線路、工事の鉄板などの上を走行するとき
- カーブ途中の道路脇に標識やガードレールなどに接近して走行するとき
- 駐車時等、停止している車両や壁に接近するとき

シティブレーキアクティブシステム*

次の場合は、Honda 販売店にご相談ください。

- レーザーセンサーに衝撃が加わったとき
- フロントガラス周辺の修理を行うとき

サスペンションの改造はしないでください。
システムが正常に作動しないおそれがあります。

タイヤは必ず指定されたサイズ、種類、銘柄、および磨耗差のないタイヤをお使いください。サイズ、種類、銘柄や磨耗度合いの異なるタイヤを使用すると、システムが正常に作動しないおそれがあります。

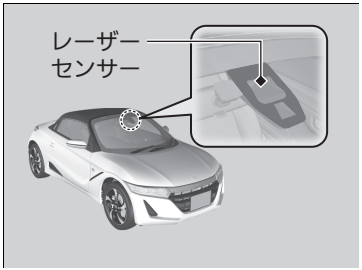
次のようなときは、システムが正常に作動しないことがあります。

- フロントコンパートメントや座席に重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- タイヤが指定空気圧に調節されていないとき

次ページに続く

*：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■レーザーセンサーについて



シティブレーキアクティブシステムと誤発進抑制機能* のレーザーセンサーは、フロントガラス上部に装備されています。

以下は、このレーザー等級の仕様データです。同様のことがIEC60825-1のラベルに規定されています。

レーザー等級	
最大平均出力	45mW
パルス幅	33ns
波長	905nm
出力角度(水平×垂直)	28°×12°

レーザー等級ラベル

INVISIBLE LASER RADIATION
DO NOT VIEW DIRECTLY WITH
OPTICAL INSTRUMENTS (MAGNIFIERS)
CLASS 1M LASER PRODUCT

レーザー説明ラベル

Max average power: 45 mW
Pulse duration: 33 ns
Wavelength: 905 nm

IEC 60825-1:2007
Complies with FDA performance standards for laser products except for deviations pursuant to Laser Notice No. 50, dated July 26th, 2001

▶レーザーセンサーについて

⚠警告

レーザーセンサーにより目を損傷するおそれがあるため、次のことを守る。

- **センサーを取り外さない。**
- **センサーから100 mm 以内の距離で、拡大鏡、顕微鏡、対物レンズなど拡大機能がある光学機器を使用して、センサーをのぞきこまない。**

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

無段変速オートマチック車

■誤発進抑制機能

停車時や約 10km/h 以下で走行しているとき、自車のほぼ真正面に車両などの障害物があるにもかかわらず、アクセルペダルを踏み込んだ場合に、エンジン出力を抑制し、急な発進を防止して衝突時の衝撃を軽減する機能です。
なお、急な坂道やセレクトレバーが P 、 R 、 N のときは、作動しません。

作動状態

機能作動中はブザー（ピピピ）が鳴り、CTBA 表示灯が点滅します。



アクセルペダルを踏む
アクセルペダルの踏み込み量が少ないときは作動しません。

アクセルペダルを離す
安全のため、必要に応じてブレーキペダルを踏んでください。

誤発進抑制機能

⚠警告

あらゆる状況でアクセルペダルの踏み過ぎによる衝突を軽減したり防止できるものではありません。

正しく運転しないと追突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

踏切内に閉じ込められたときは、遮断機を障害物として検知することがあります。その時は、慌てずにアクセルペダルを踏み続けるか、シティブレーキアクティブシステムを OFF にして遮断機を押しのけてください。

誤発進抑制機能は、シティブレーキアクティブシステムの機能のひとつです。そのため、シティブレーキアクティブシステムを OFF にしているときは、この機能は作動しません。また、機能を正常に作動させるために守ること、正常な作動ができない状況、衝突の可能性のない場合の作動やレーザーセンサーの取り扱いなども、シティブレーキアクティブシステムと同じです。

次ページに続く

■機能解除の条件

- アクセルペダルを離したとき
- アクセルペダルを約 4 秒間踏み続けたとき
- ブレーキペダルを踏んだとき
- ステアリングを操作して、衝突を避けようとしたとき

駐車する

1. ブレーキペダルをしっかり踏む。
2. ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをかける。

マニュアル車

3. チェンジレバーを R または 1 に入れる。

無段変速オートマチック車

3. セレクトレバーを P に入れる。

共通

4. エンジンを停止する。
▶ 車から離れるときは必ず施錠してください。

坂道に駐車するときは、必ずパーキングブレーキをかけてください。

駐停車操作

⚠注意

停車中の空ぶかしはしない。
万一、セレクトレバーが P N 以外に入っていた場合、思わぬ急発進のもとになります。

アドバイス

アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。また、上り坂で P N 以外に入れた状態で、アクセルを調節しながら車を停車させたりしないでください。
トランスミッションが過熱し、故障の原因となります。

枯れ草や紙、油、木材など燃えやすいものがあるところには駐停車しないでください。
排気管や排気ガスの熱により、着火するおそれがあります。

植え込みなどの近くに駐停車するときは、排気ガスが植え込みに当たらないように車の向きを決めてください。

吹雪の場合などは、室内へ雪が入ることがあります。ボディカバーをかけるようにしてください。

次ページに続く

仮眠するときは、エンジンを停止してください。
▶ 無意識にセレクトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

≫駐車する

⚠注意

駐車時はエンジンを止める。
万一、セレクトレバーがP N以外に入っていた場合、クリープ現象により車が動き出したり、乗り込む際に誤ってアクセルペダルを踏み、急発進するおそれがあります。

アドバイス

車が完全に止まらないうちにPに入れないでください。
トランスミッション破損の原因となります。

車内の見えるところに貴重品などを置かないでください。

車内にライターや炭酸飲料缶を放置しないでください。
車内温度上昇によりライターなどの可燃物が自然発火したり、缶などは破裂したりするおそれがあります。

積雪時は、ワイパーアームを起こしてください。
雪の重みでアームの取り付け部が破損することがあります。

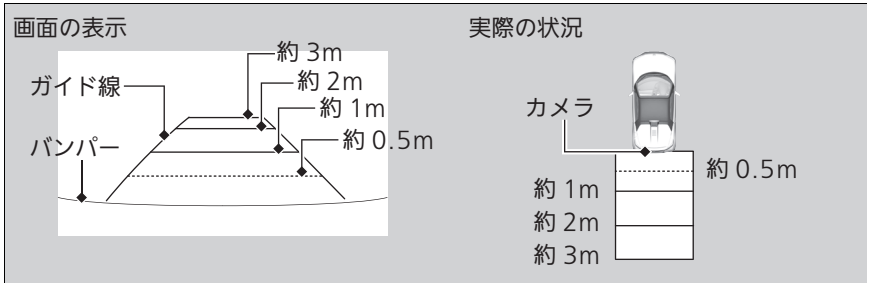
寒冷時に、パーキングブレーキをかけると、凍結することがあります。
パーキングブレーキをかけずに、石など輪留めをしてください。

リヤカメラシステムについて

リヤカメラシステムは、センターディスプレイの画面に、車両後方の映像を表示させるシステムです。

セレクトレバーまたはチェンジレバーを R に入れると自動的に画面が切り換わります。

■画面に表示される映像の範囲



リヤカメラシステムのカメラは特殊なレンズを使用しているため、画面に表示される映像の距離感覚は実際の距離とは異なります。
画面に表示される映像の範囲には限度があり、バンパーの両コーナー付近やバンパー下にあるものは表示されません。

»リヤカメラシステムについて

⚠注意

後退時は、必ず目視やミラーなどで後方および周囲の安全を直接確認して運転する。

画面を見るときは、必要最小限にする
画面に表示される映像の範囲には限度があるため、画面だけを見て後退すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

リヤカメラシステムの映像は、オーディオ画面よりも優先して表示されます。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

指定燃料について

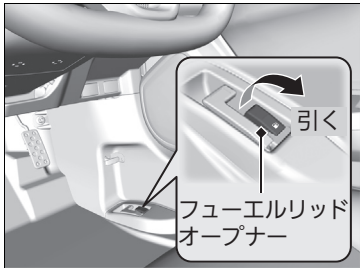
■指定燃料

無鉛レギュラーガソリン レギュラーバイオ混合ガソリン(E10/ETBE22)

■タンク容量

25 リットル

給油のしかた



1. 助手席側にガソリンスタンドの給油機がくるように車を停める。
2. エンジンを停止させる。
3. 運転席足元のフューエルリッドオープナーを引いてリッドを開ける。

»指定燃料について

アドバイス

指定燃料以外の燃料(有鉛ガソリン、粗悪ガソリン、軽油、灯油、高濃度アルコール含有燃料)を補給したり、不適切な燃料添加剤を使用しないでください。以下のような状態になるおそれがあります。

- 触媒装置などの損傷
- エンジンや燃料系などの損傷
- エンジンなどへの悪影響

プレミアムガソリンをお使いになることもできますが、この場合、本来のエンジン性能が大きく変わることはありません。

»給油のしかた

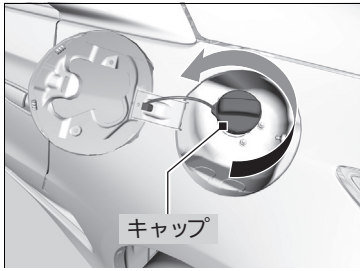
⚠警告

燃料補給時は火気厳禁。

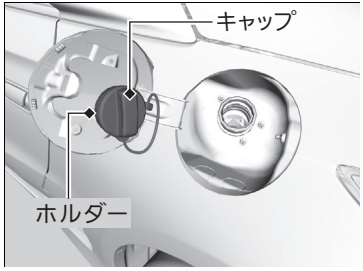
燃料や燃料蒸気は引火しやすいため火災や爆発のおそれがあります。燃料を扱っているときは下記の項目を厳守してください。

- エンジンは常に停止させる
- 炎、火花を近づけない
- たばこを吸わない
- 燃料の取り扱いは屋外で行う
- こぼれた燃料はすみやかに拭き取る

ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。



4. ツマミをゆっくり回し、フューエルキャップを開ける。



5. キャップはホルダーにかける。

6. 給油ノズルを奥まで差し込み、給油する。

▶満タンになると、給油ノズルの自動停止がはたらき、給油が停止します。

給油のしかた

⚠警告

燃料補給作業は、フューエルキャップを開ける前に車体などの金属に触れて身体の静電気を除去してから行う。

静電気の放電による火花により気化したガソリンに引火し、やけどを負うおそれがあります。

⚠注意

キャップはゆっくり開ける。

急激に開けると燃料補給口より吹き返しが発生し、火災になるおそれがあります。

燃料補給は、静電気を放電した人のみで行ってください。

燃料補給中に車内に戻ると、再び帯電することがあります。再度、静電気を放電してください。

「シュー」という音がする場合は、その音が止まってからゆっくり開けてください。

燃料蒸気を吸わないでください。

燃料成分には有害物質を含んでいる場合があります。

次ページに続く

7. 給油後、「カチッ」という音が 1 回以上するまでキャップを締め付ける。
▶ フューエルリッドは、手で押さえ付けて閉めます。

給油のしかた

⚠注意

給油ノズルの自動停止後は、追加補給しない。
気温などの変化により燃料があふれ、火災になるおそれがあります。

キャップが確実に閉まっていることを確認する。
閉まっていないと燃料がもれ、火災になるおそれがあります。

Honda 純正以外のキャップを使わないでください。
純正品を使用しないと、火災などを起こすおそれがあります。

気温などの変化により燃料があふれないように、タンク容量に達すると燃料タンクに空間を残して給油ノズルの自動停止がはたらくようになっています。

自動停止後に追加補給をすると、燃料が満タン容量以上に入ることがあります。

取り扱い

ターボ装置は、排気ガスの圧力でタービンを回してエンジンに大量の空気を圧縮して送り込み、より大きな馬力を引き出す非常に精密に作られた装置です。
ターボ装置の故障を防ぐため、必ず以下の点をお守りください。

- **エンジン始動直後のエンジンが冷えているときは、空ぶかしや急加速はしない**
- **エンジンオイル、オイルフィルターの交換時期を必ず守る**
  タービンは毎分10万回転以上の高回転で回り、かつ700℃以上の高温になります。その潤滑と冷却はエンジンオイルにより行われます。したがって、定められた距離または期間でエンジンオイル、オイルフィルターの交換を行わないと、劣化したエンジンオイルによりタービン軸受部の固着や異音の発生など、故障の原因になります。

ターボ車について

エンジンオイル、オイルフィルターの交換時期は、下表の通りです。

エンジンオイル	5,000km ごとまたは6 か月ごと(どちらか早い方)
オイルフィルター	10,000km ごとまたは 1 年ごと(どちらか早い方)

推奨エンジンオイル P.214

高速走行や山道走行などの高負荷で走行したあと、エンジンを再始動すると高水温警告灯が点滅または点灯することがありますが、機能的に問題はありません。約1分間アイドリング運転を行うか、走行すると警告灯は消灯します。

エンジンオイルメンテナンス表示灯

パワーモードを ON モードにしたときに、リセットしてからの走行距離に応じて、エンジンオイルの交換時期の目安を表示灯の点滅または点灯でお知らせします。

リセットしてからの走行距離	表示灯の状態
4,500km 未満	数秒点灯したあと、消灯
4,500km 以上　5,000km 未満	数秒点灯したあと、約 10 秒間点滅してから消灯
5,000km 以上	点灯 ▶ すみやかにエンジンオイルを交換してください。エンジンオイルを交換したあとは、表示灯をリセットしてください。

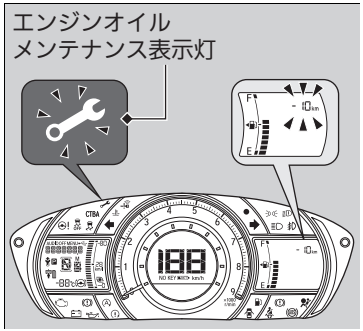
■表示灯のリセット

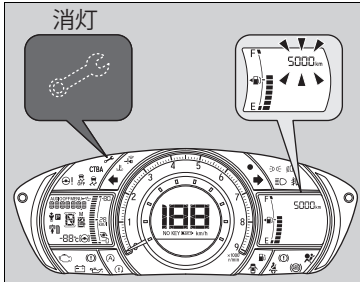


1. 車を安全な場所に停車する。
2. ライトスイッチを OFF にする。
3. セレクト / リセットスイッチを押したまま、パワーモードを ON モードにする。

» 表示灯のリセット

エンジンオイル交換後、走行距離をリセットするまで表示灯は点灯し続けます。
エンジンオイル交換直後にリセット操作を行わないと、次回の交換時期の表示を正しくできません。





4. そのままセレクト / リセットスイッチを、エンジンオイルメンテナンス表示灯が点滅に切り換わるまでしばらく押し続ける。
▶ 同時にインフォメーションディスプレイの表示がエンジンオイルの交換時期までの距離表示に切り換わり、点滅します。

5. エンジンオイルメンテナンス表示灯と走行距離表示が点滅を始めたら、セレクト / リセットスイッチから手を離す。

6. エンジンオイルメンテナンス表示灯が消灯するまで、再度セレクト / リセットスイッチを押し続ける。
▶ 走行距離表示が 5000 になります。

7. セレクト / リセットスイッチから手を離す。
▶ インフォメーションディスプレイが通常表示に戻ります。

アクセサリー

アクセサリーを取り付ける場合は、下記の項目を確認してください。

- アクセサリーをフロントガラスに取り付けていないか？
  ▶ アクセサリーの揺れる動きが車外の状況認識を遅らせることがあります。また、吸盤がレンズのはたらきをして、火災につながるおそれがあります。

車の改造

Honda 純正部品以外の、車の性能や機能に適さない部品を使用しないでください。

- 適正な性能や機能を発揮しなかったり、思わぬ事故のもとになったりします。
- Honda が国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、違反になることがあります。
- 車の改造はしないでください。不正改造は、法律に触れることはもちろん、思わぬ事故を起こす場合があります。

無線装置などの取り付けの際には、必ず Honda 販売店にご相談ください。
装置や取り付け方法が適切でない場合、電子機器部品に悪影響をおよぼすことがあります。

≫車の改造

車の性能、品質を維持するために、Honda 車に最も適した Honda 純正部品をお使いください。
純正部品には下記のマークが付いています。

HONDA
GENUINE PARTS

お求め、装着に際しては、Honda 販売店にご相談ください。



メンテナンス

この章では、基本的なメンテナンスについて記載しています。

メンテナンスの前に
- 点検整備について 208
- メンテナンスを安全に行うために 209
- メンテナンスに関する注意事項 209

エンジンルーム/フロントコンパートメント内のメンテナンス
- エンジンルーム/フロントコンパートメント内のメンテナンス項目 210
- リヤフードを開ける 212
- フロントフード(ボンネット)を開ける ..213
- 推奨エンジンオイル 214
- ウィンドウォッシャー液の補給 214

電球の交換 215

ワイパーブレードラバーの点検と整備 ...223

タイヤの点検と整備
- タイヤの点検 225
- タイヤとホイールの交換 227
- タイヤのローテーション 228
- 冬期のタイヤ 229

Honda スマートキー
- Honda スマートキーの取り扱いと電池交換..... 230

エアコンのお手入れ
- エアクリーンフィルター 231

清掃
- 日常のお手入れ 233
- 車内の清掃..... 233
- 車外の清掃..... 234

点検整備について

道路運送車両法により、法定点検と日常点検が義務づけられています。正しい点検整備で、車を安全・快適にお使いください。
普段と違う点(音、におい、ブレーキフルードの不足、地面に油のあとが残っているなど)に気づいたら、Honda 販売店で点検を受けてください。
点検整備の詳細については、別冊のメンテナンスノートも併せてご覧ください。

■点検整備の種類

■日常点検
長距離走行前や洗車・給油時などに、お客様自身の判断で行う点検です。

■定期点検
12か月および24か月ごとに実施する点検です。法律で定められているものと、Honda が指定するものがあります。

■その他
新車時の無料点検や定期交換、厳しい使われかたをしたときの点検整備があります。

≫点検整備について

作業に不慣れな場合や難しい場合は、Honda 販売店にご相談ください。

メンテナンスを安全に行うために

メンテナンスを行う際は、メンテナンスノートと下記の安全に関する注意事項をよくお読みのうえ、安全を確保して行ってください。
お客さま自身でメンテナンスを実施したときは、メンテナンス点検整備記録簿のメンテナンスレコードに記録してください。

■メンテナンスを行う場所や備品についての安全事項

- 火災や爆発防止のため、タバコの火、火花、炎を引火性の液体やガスから遠ざける

■車についての安全事項

- エンジンの排気ガスに含まれる一酸化炭素の毒作用に注意する
  ▶ エンジンをかけるときは必ず十分な換気を行ってください。
- 熱くなった部品によるやけどに注意する
  ▶ 部品に触れる前に、エンジンと排気システムを十分に冷やしてください。
- 可動部品によるけがに注意する
  ▶ 指示されたとき以外は、エンジンをかけないでください。
  ▶ アイドリングストップシステム装備車 アイドリングストップ中は、リヤフードまたはフロントフードを開けないでください。
- エンジンルーム内の、タオルや可燃物の置き忘れに注意する
  ▶ 火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。

メンテナンスに関する注意事項

■メンテナンスサービスで使用する部品やオイル

メンテナンスサービスを受けるときは、Honda 純正部品やオイル類を使用することをおすすめします。Honda 純正部品は、車で使われている部品と同じ高品質の基準に基づいて製造されているため、性能と耐久性の面で安心です。

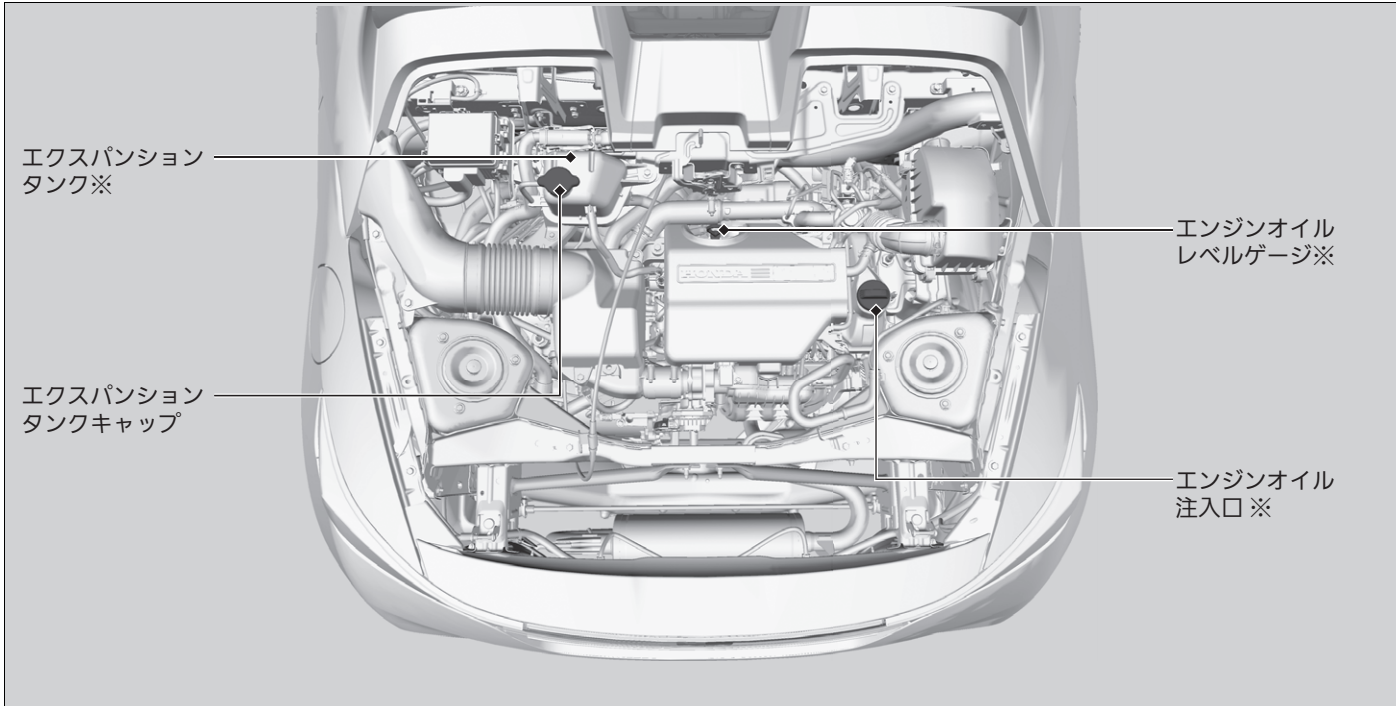
メンテナンスを安全に行うために

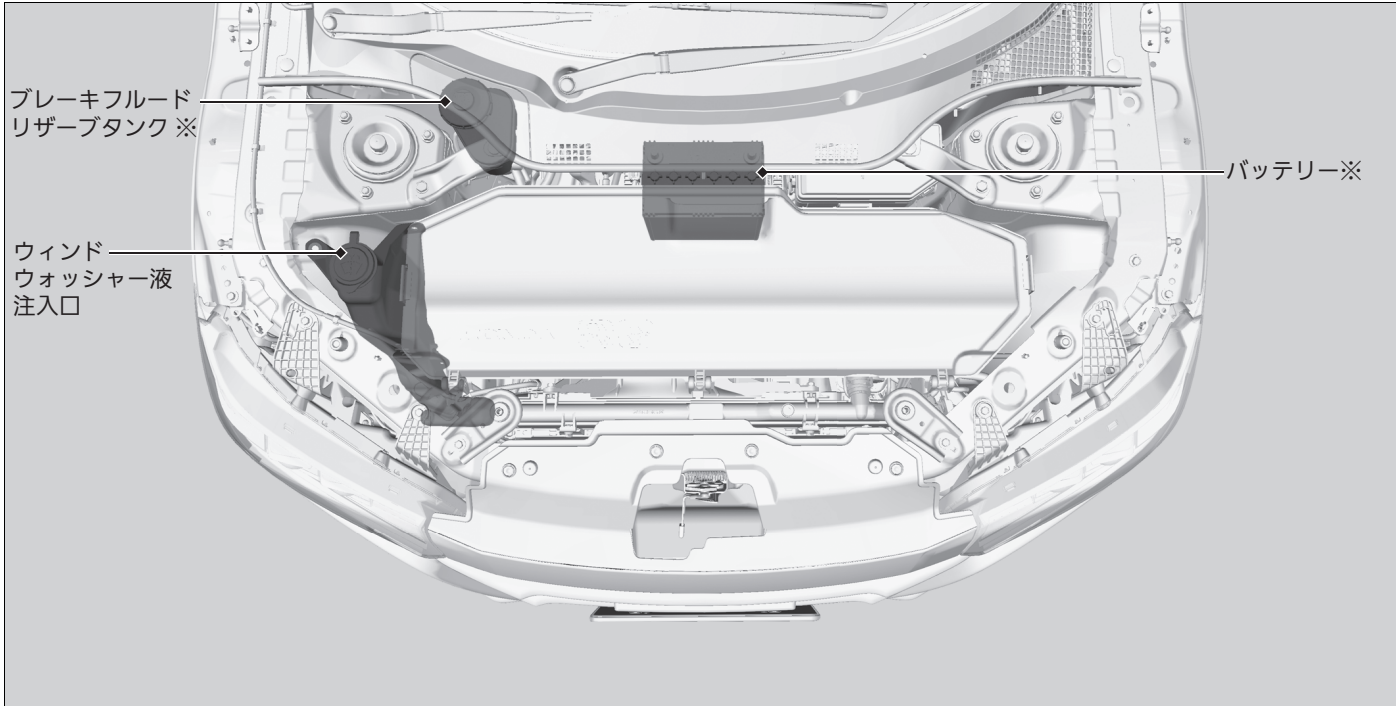
⚠警告

適切なメンテナンスを行い、走行前に故障がないようにする。
走行時に故障がある状態や、適切なメンテナンスがなされていないと、重大な傷害や死亡に至る事故を引き起こす可能性があります。
必ず、この取扱説明書に記載されている点検とメンテナンスに関する注意事項や別冊のメンテナンスノートに記載の点検時期を守ってください。

メンテナンスは、指示と注意事項を守って行う。
メンテナンスの指示と注意事項を守らないと重大な傷害や死亡のおそれがあります。
必ず、この取扱説明書に記載されている手順と注意事項を守ってください。

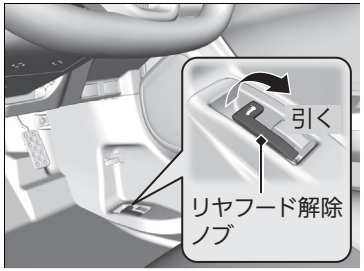
エンジンルーム / フロントコンパートメント内のメンテナンス項目





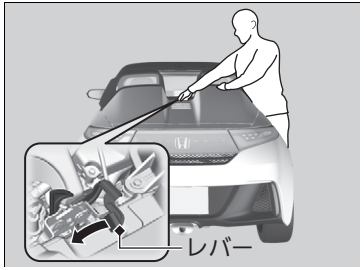
※：点検整備については、別冊の「メンテナンスノート点検整備について」をご覧ください。

リヤフードを開ける

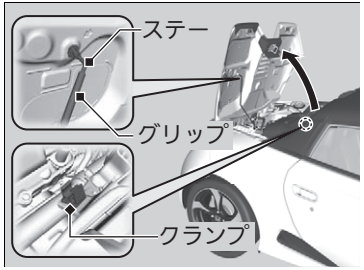


1. 車を停め、パーキングブレーキをかける。

2. 運転席足元にある、リヤフード解除ノブをひく。
▶ リヤフードが少し浮き上がります。



3. 運転席側から、リヤフード中央のレバーを手前に引いてロック機構を解除し、リヤフードを開ける。



4. グリップを持ってステーをクランプから取り外し、ステーをリヤフードにかける。

閉めるときは、ステーを外しクランプに納めてからリヤフードを静かに下げて、約30cm の高さから手を離します。

▶▶リヤフードを開ける

⚠注意

リヤフードを閉めるときは、手などをはさまないように注意する。

アドバイス

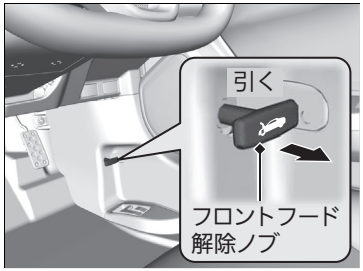
リヤフードを閉めたときは、リヤフードが確実にロックされていることを確認してください。

アイドリングストップシステム装備車

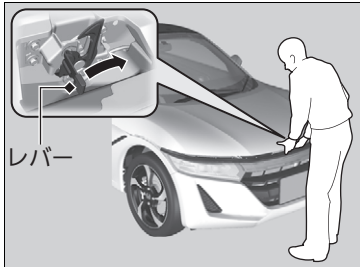
アイドリングストップ中は、リヤフードを開けないでください。

メンテナンス

フロントフード(ボンネット)を開ける



1. 車を停め、パーキングブレーキをかける。
2. 運転席足元にある、フロントフード解除ノブを引く。
▶フロントフードが少し浮き上がります。



3. フロントフード中央のレバーを右に押してロック機構を解除し、フロントフードを開ける。

フロントフード(ボンネット)を開ける

⚠注意

フロントフードを閉めるときは、手などをはさまないように注意する。

アドバイス

ワイパーアームを起こした状態で、フロントフードを開けないでください。
フロントフードがワイパーに当たり、フロントフードやワイパーが損傷することがあります。

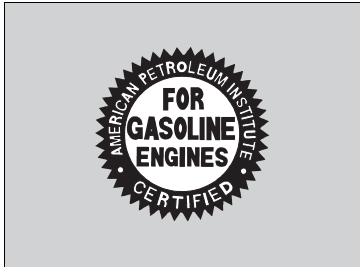
フロントフードを閉めたときは、フロントフードが確実にロックされていることを確認してください。

アイドリングストップシステム装備車

アイドリングストップ中は、フロントフードを開けないでください。

推奨エンジンオイル

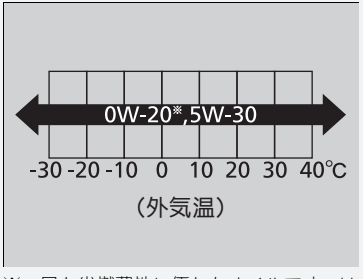
エンジンオイルは、量が少なかったり劣化したものを使用していると、エンジンの不調や破損につながることがあります。



推奨エンジンオイル：
Honda 純正エンジンオイル
➡ Honda 純正 エンジンオイル P.276
API SM 級または SN 級以上かオイル缶に API CERTIFICATION(エーピーアイサーティフィケーション)マークの入ったエンジンオイル

推奨エンジンオイル

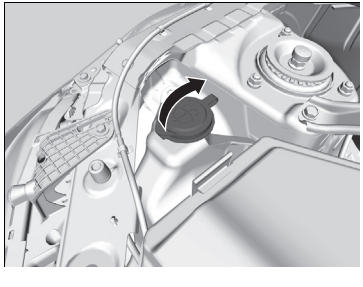
市販のエンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを下表にもとづきお使いください。



※：最も省燃費性に優れたオイルです。Honda 販売店でお求めください。

冬期はエンジンオイルの劣化が激しくなります。
冬期に主として短距離、市街地を運転する場合は、早めに交換してください。

ウィンドウォッシャー液の補給



ウォッシャー液の量は、キャップを外して確認します。

減っていた場合は、ウォッシャー液キャップを外し、ウォッシャータンクに補給します。

ウィンドウォッシャー液の補給

ウォッシャー液以外の液体を、タンクに入れないでください。

冬期はウォッシャー液の凍結を防ぐため、ウォッシャー液の濃度を上げてください。

ヘッドライト電球

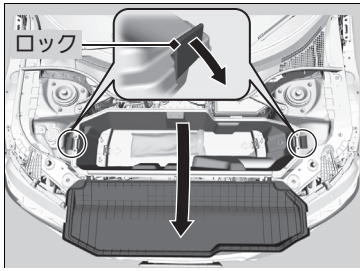
交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

ロービームヘッドライト	: LED
ハイビームヘッドライト	: 12V−60W

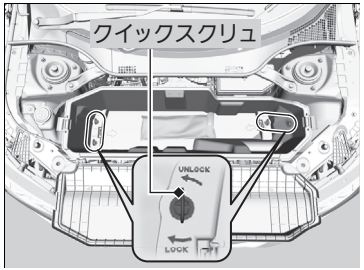
■ロービームヘッドライト

ロービームヘッドライトはLEDを使用しています。点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

■ハイビームヘッドライト



1. 左右のロックを解除してユーティリティボックスを開ける。



2. クイックスクリュを左に 90 度回してユーティリティボックスを取り外す。

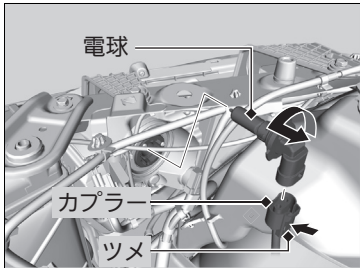
次ページに続く

» ハイビームヘッドライト

アドバイス

ハロゲン球は非常に熱くなります。取り扱うときは、熱が冷めてから行ってください。
また、ガラスに油、汗、傷がつくと、電球が過熱し割れるおそれがあります。

扱うときは口金の部分を持ち、ガラスが肌や固いものに触れないようにしてください。
ガラスに汚れがついたときは、中性洗剤の薄い水溶液を含ませたきれいな布で拭いてください。



3. カプラーを外す。
▶ カプラーはツメを押しながら外します。
4. 古い電球を左に回して抜き取る。
5. 新しい電球を右に回して固定する。
6. カプラーを押し込み、電球に取り付ける。
7. クイックスクリュを右に 90 度回してユーティリティボックスを固定する。
8. ユーティリティボックスのフタを閉じ、左右のロックで固定する。

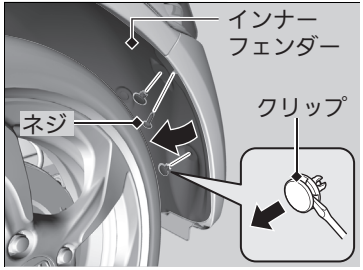
ハイビームヘッドライト

ユーティリティボックスを取り付けたときは、ユーティリティボックスが確実に固定されていることを確認してください。

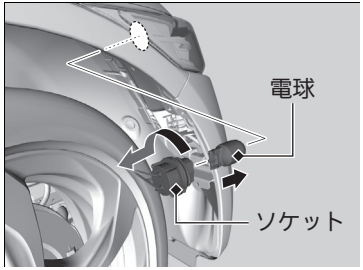
前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯：12V−21W(橙色)



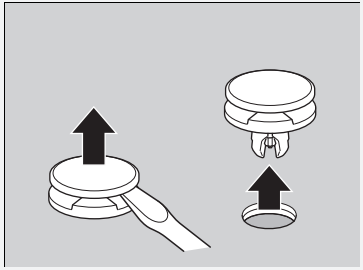
1. 交換する側と反対側にハンドルをいっぱいに切る。
2. ネジとクリップを外し、インナーフェンダーをめくる。



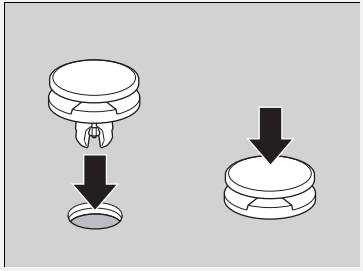
3. ソケットを左に回して外し、古い電球を抜き取る。
4. 新しい電球を差し込む。

前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯電球

クリップを外すときは、クリップの図の位置にマイナスドライバーを差し込んで、中央部のピンを起こして取り外します。



クリップを取り付けるときは、クリップ中央部のピンを起こしたまま差し込み、ピンを平らになるまで押してください。



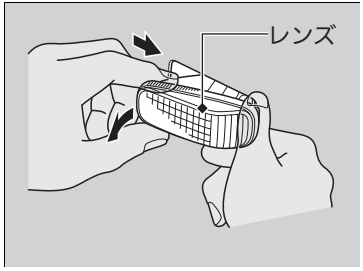
車幅灯電球

車幅灯はLEDを使用しています。電球の点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

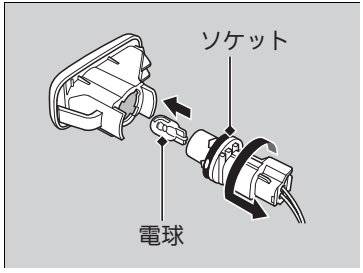
側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯：
オレンジレンズ装備車 12V−5W
クリアレンズ装備車 12V−5W(橙色)



1. ランプ本体を後方にずらして取り外す。



2. ソケットを左に回して外し、古い電球を抜き取る。
3. 新しい電球を差し込む。

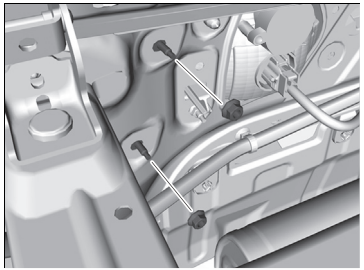
制動灯 / 尾灯電球

制動灯 / 尾灯はLEDを使用しています。電球の点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

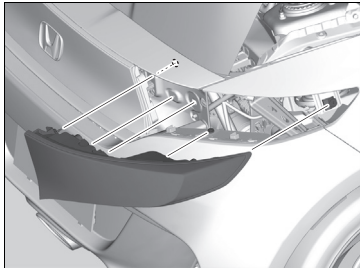
後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯 ：12V一21W(橙色)

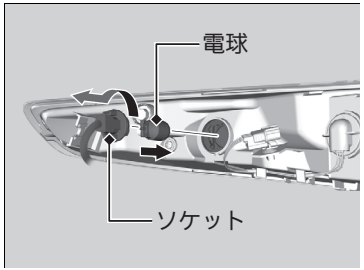


1. 付属のスパナを使い、ナットを外す。



2. ランプ本体を後方に引いて取り外す。

次ページに続く

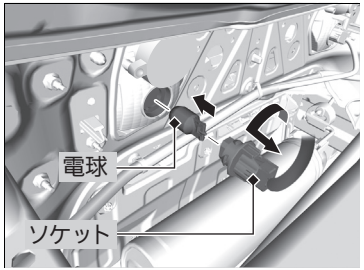


3. ソケットを左に回して外し、古い電球を抜き取る。
4. 新しい電球を差し込む。

後退灯電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

後退灯：12V−21W



1. ソケットを左に回して外し、古い電球を抜き取る。
2. 新しい電球を差し込む。

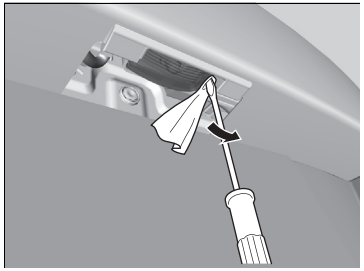
ハイマウントストップランプ電球

ハイマウントストップランプは LED を使用しています。電球の点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。

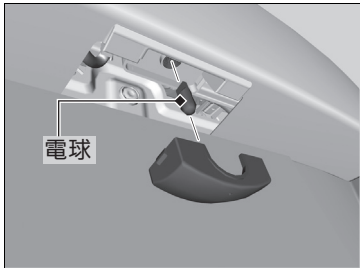
番号灯電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

番号灯：12V−5W



1. ランプ本体にマイナスドライバーの先端を差し込み、レンズを外す。
▶ ランプが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。



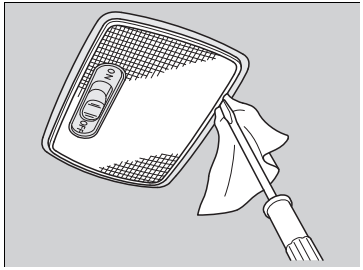
2. 古い電球を抜き取る。
3. 新しい電球を差し込む。

その他の電球

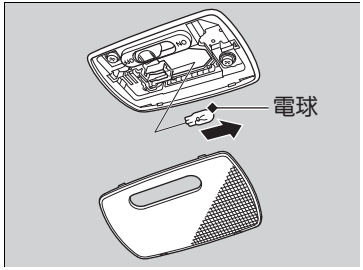
■室内灯電球

下記の電球をご使用ください。

室内灯:12V−8W



1. ランプ本体にマイナスドライバーの先端を差し込み、押し開ける。
▶ ランプが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。

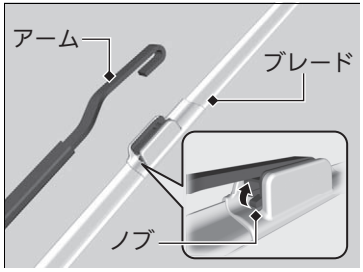


2. 古い電球を抜き取る。
3. 新しい電球を差し込む。

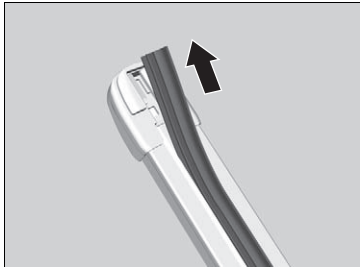
ワイパーブレードラバーの点検

ワイパーブレードラバーが傷んでいると、拭きムラになったり、ウィンドーガラスを傷つけたりします。定期的にワイパーブレードの状態を点検し、傷んでいる場合は交換してください。

ワイパーブレードラバーの交換



1. 運転席側、助手席側の順にワイパーアームを起こす。
2. ノブを押し上げながら、アームからブレードをスライドさせて外す。



3. ラバーのストッパーがブレードのツメから外れるまで引き、そのままラバーをブレードから引き抜く。

≫ワイパーブレードラバーの交換

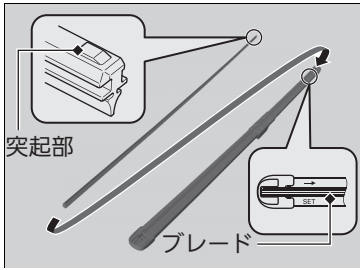
アドバイス

ワイパーアームを起こした状態でフロントフードを開けたりワイパーを作動させたりすると、フロントフードとワイパーアームを損傷します。

アドバイス

ブレードを外した状態でワイパーアームが倒れると、ガラスが損傷するおそれがあります。

次ページに続く



4. ラバーを突起部のない側を下にしてブレードに沿って差し込む。
▶ブレードをワイパーアームに取り付け、ラバーの突起部がブレード先端の溝に挿入されるまで差し込み、確実に固定します。

▩ワイパーブレードラバーの交換

ワイパーアームを戻すときは、助手席側、運転席側の順に戻してください。

タイヤの点検

■タイヤの点検について

タイヤが摩耗・損傷していたり、適正な空気圧でないと、安全な走行ができないばかりか乗り心地も損なわれます。
安全な走行のために求められるタイヤの条件は下記のとおりです。

- 種類とサイズが適正であること
- 接地面の状態が良好であること
- 空気圧が適正であること
- 摩耗、傷、亀裂、異物などがないこと

これらの条件を満たすために下記の点検を行い、常にタイヤを最適な状態に保ってください。

■日常的な点検

乗車前に必ず行う点検です。下記の項目を確認し、状況によってはメンテナンスをしてください。

- タイヤがつぶれているように見えないか？
  ▶ つぶれているように見えたら、すぐに空気圧をチェックしてください。
- 激しい摩耗、傷、亀裂、異物はないか？
  ▶ 状況に応じて、タイヤを交換してください。

タイヤの点検について

⚠警告

摩耗が激しいタイヤ、空気圧が適正でないタイヤを使用しない。
不適切なタイヤを使用すると、重大な傷害や死亡に至る事故につながるおそれがあります。

次ページに続く

■空気圧測定器による点検

すべてのタイヤの空気圧を測定してください。空気圧が下がっている場合は、パンクを入念に調べます。

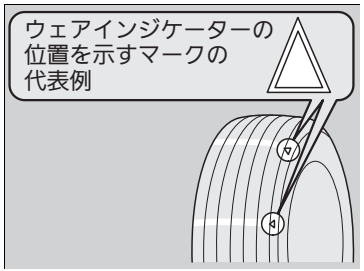
タイヤの指定空気圧は、巻末の資料を参照してください。

➔ **資料** P.276

■損傷、異物、摩耗の点検

下記の項目を点検してください。

- タイヤの接地面と側面の突起、膨らみが正常か？
  ▶ 異常が見られた場合は、タイヤを交換する必要があります。
- タイヤ側面に、裂け目、亀裂がないか？
  ▶ 裂け目や亀裂がある場合は、タイヤを交換する必要があります。
- 接地面とウェアインジケーターが同じ高さになっていないか？



ウェアインジケーター（摩耗限界表示）

ウェアインジケーターはタイヤの接地面にあり、他の部分より溝が 1.6mm 浅くなっています。

接地面が摩耗して、ウェアインジケーターと同じ高さになったら、タイヤを交換してください。

タイヤの点検について

タイヤの空気圧は、タイヤ温度が低いときに測定してください。

必要な場合は、指定空気圧になるまで空気を注入または排出してください。

タイヤが高温のときに空気圧を測っても、低温のときより高めになるため正しく測定できません。

指定空気圧は、運転席横の車体に貼ってあるラベルにも記載されています。

この取扱説明書が手元にない場合は、車のラベルをご覧ください。

タイヤとホイールの交換

タイヤは、四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。サイズ、種類、銘柄や摩耗度合いの異なるタイヤを使用すると、運転に関わるシステムが正常に機能しなくなったり、動力伝達装置に悪影響を与えたりします。

同時にすべての4 つのタイヤを交換することをお奨めします。それができない場合は、前輪または後輪タイヤの左右を一緒に交換してください。

タイヤとホイールの交換

⚠警告

必ず、サイズと種類が適切なタイヤを使用する。
不適切なタイヤを使用すると、重大な傷害や死亡に至る事故につながるおそれがあります。

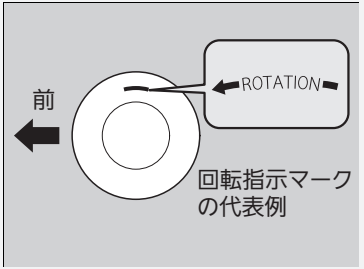
タイヤのローテーション

前後輪で、タイヤサイズが異なり、回転方向が指定されています。

この車はタイヤローテーションできません。

タイヤのローテーション

タイヤ回転方向が指定されているタイヤは、タイヤ回転指示マークがあります。
図のように回転指示マークが前へ向くように取り付けてください。



締め付けトルク
108 N・m (11 kgf・m)

冬期のタイヤ

雪道や凍結した道路を走行する場合は、スノータイヤを装着し、速度を落として十分に車間距離をとって運転してください。
また、横滑りの原因となりますのでハンドルやブレーキの操作は、特に慎重に行ってください。

スノータイヤは、走行条件や法令により装着が必要とされた場合に使用します。
装着する場合は、下記のポイントを参照してください。

■スノータイヤ

- 四輪とも同じ種類、指定サイズのタイヤを選ぶ
- 四輪すべてにスノータイヤを装着する

■タイヤチェーン

タイヤチェーンは使用できません。
タイヤチェーンを使用すると、ボディやサスペンション、ブレーキ配管などを破損するおそれがあります。

Honda スマートキーの取り扱いと電池交換

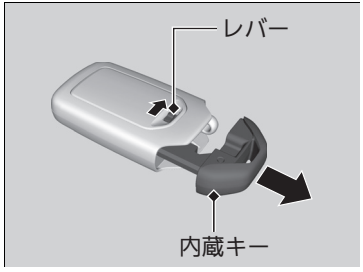
■取り扱いについて

Honda スマートキーの取り扱いは、下記の点に注意してください。

- 発信器を落としたり投げたりしない
- 温度が極端に高い / 低い場所に置かない
- 液体にひたさない

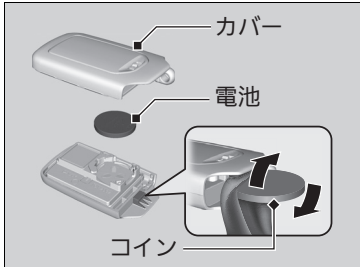
■電池交換のしかた

作動距離が不安定になった場合は、電池の消耗が考えられます。ボタンを押したときにインジケーターが点灯しない場合は、電池切れです。電池を交換してください。



ボタン電池 CR2032

1. レバーを引きながら、内蔵キーを取り出す。



2. カバーを外す。
- ▶ ボタンや電池を紛失しないよう丁寧に取り外してください。
- ▶ カバーに傷が付かないように、コインに布などを巻いてカバーを取り外します。

3. ⊕ と ⊖ を間違えないよう、電池を交換する。

≫取り扱いについて

Honda スマートキーをなくした場合は、Honda 販売店へご連絡ください。

≫電池交換のしかた

⚠注意

電池および取り外した部品は、お子さまが飲み込まないように注意する。
飲み込むと傷害を受けるおそれがあります。

電池交換の際は、破損などのおそれがあるため、Honda 販売店での交換をおすすめします。

電池交換の際は、カバーを確実に取り付けてください。
確実に取り付けられていないと、耐水性能の低下や故障の原因となります。

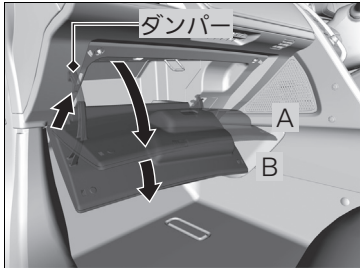
電池は Honda 販売店または時計店、カメラ店などでお求めください。

エアクリーンフィルター

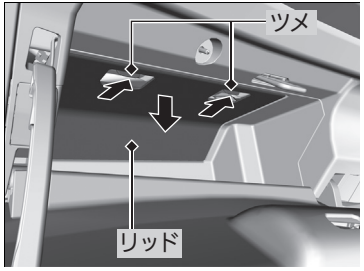
■エアクリーンフィルターの交換時期

エアクリーンフィルターは、通常 1 年または 15,000km ごとに交換してください。粉じんなどの多い場所で使用される場合は、早めの交換をおすすめします。

■エアクリーンフィルターの交換



1. グローブボックスを B の位置まで開く。
▶ Aの位置まで開いた後、ダンパーを下から押すと B の位置まで開きます。



2. 左右にあるツメを手前に押しながら、リッドを外す。

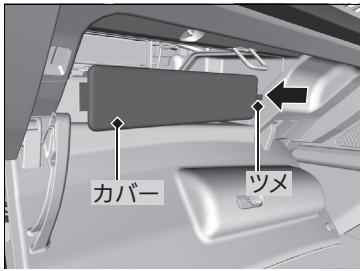
» エアクリーンフィルター

芳香剤を使用すると脱臭効果が弱くなり、脱臭寿命が短くなることがあります。

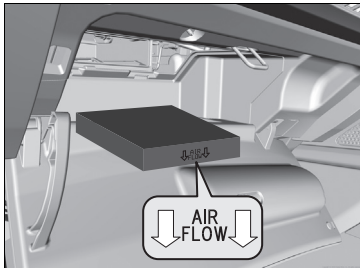
エアコンの風量が著しく減少したり、ガラスが曇りやすくなったときは、フィルターの目詰まりが考えられます。フィルターを交換してください。

アレルフリー高性能脱臭フィルターは、空気中の花粉・粉じんを集じんし、アレルゲンを処理、排気ガス臭も低減します。

次ページに続く



3. 右にあるツメを押しながら、エアクリーンフィルターケースのカバーを外す。



4. エアクリーンフィルターを引き出す。

5. 新品と交換する。

▶「AIR FLOW」マークの矢印が、下向きになるように取り付けます。

日常のお手入れ

■走行後のお手入れ

走行後は、塗装面に付着したほこりなどを毛はたきなどで払い落としてください。
飛び石などによる塗装面の傷は錆の原因になります。見つけたら早めに補修してください。

■洗車について

月に一度は洗車をするようにしてください。
以下の場合は、必ず洗車をしてください。

- 凍結防止剤を散布した道路を走行したとき
- 海岸地帯を走行したとき
- コールタール、ばい煙、鳥のふん、虫、樹液などが付いたとき

車内の清掃

内装の清掃は、掃除機で塵や埃を取り除いてから汚れを落としてください。ぬるま湯に中性洗剤を溶かしたものを柔らかい布に軽く含ませ、固く絞って汚れを落とします。その後、真水を含ませたきれいな布で、洗剤分をきれいに落としてください。

■シートベルトの清掃

ぬるま湯に中性洗剤を溶かしたものをブラシにつけて清掃し、その後空気乾燥させます。

洗車について

凍結防止剤を散布した道路や、海岸地帯を走行したときの洗車は、フェンダーの内側を念入りに洗ってください。

車内の清掃

室内に水をかけないでください。
オーディオやスイッチなどの電装品に水がかかると故障の原因となります。

オーディオ、スイッチなどの電装品にシリコン系のスプレーを塗布しないでください。
故障や車両火災の原因となるおそれがあります。万一、電装品にシリコン系のスプレーを塗布したときは、Honda 販売店にご相談ください。

ケミカル類、液体芳香剤は成分により、樹脂部品、布材の変色、しみ、ひび割れなどを起すことがあります。
ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤、酸、アルカリ性の溶剤は使用しないでください。

ケミカル類を使用したあとは、必ず乾いた布で軽く拭き取ってください。
使用した布をそのまま樹脂部品、布材の上に長時間放置しないでください。

液体芳香剤は、こぼさないよう確実に固定してください。

次ページに続く

■本革* のお手入れ

本革巻ハンドルなどは、ウール用中性洗剤の 10% 水溶液をやわらかい布に軽く含ませ汚れを落とします。その後、真水を含ませたやわらかい布で洗剤分を拭き取り、風通しをよくして乾燥させます。
汚れが付着したらすぐに拭き取ってください。

■ガラスのお手入れ

ガラスクリーナーなどで拭いてください。

車外の清掃

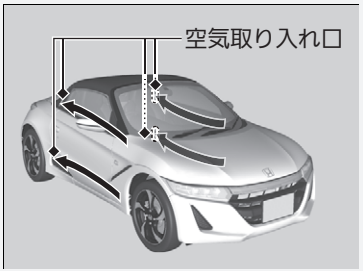
洗車は、十分に水をかけながら、下回り、足回りの汚れを落とします。塗装面は、屋根から順に下のほうへ水をかけながら、スポンジかセーム革のような柔らかいもので洗います。
汚れがひどい場合は、中性洗剤で洗い、水で完全に洗剤を落としてから水が乾かないうちに拭き取ります。

»ガラスのお手入れ

フロントガラスは、ガラスの内側にアンテナ線が装着されています。
傷付けないよう、これに沿って柔らかい布で拭いてください。

»車外の清掃

故意に空気取り入れ口や、エンジンルームに水をかけないでください。
故障の原因になります。



✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■高圧洗浄機を使うとき

- 洗車ノズルと車体の距離を十分に離す
- ウィンドーまわりは、近づけすぎると室内に水が入ることがあるため、特に注意して行う
- エンジンルームには水をかけない

■ワックスをかけるとき

ワックスは、月に1回程度または水をはじかなくなったときにかけてください。洗車した後や、車体表面温度が体温以下に下がっているときにかけるようにしてください。

■バンパーなどの樹脂塗装部品のお手入れ

樹脂塗装部品に、ガソリン、オイル、ラジエーター液、バッテリー液などが付着するとしみや塗膜はがれの原因となります。付着した場合は、すぐに柔らかい布で拭き取ってください。

■ガラスのお手入れ

ガラスクリーナーなどで拭いてください。

» ワックスをかけるとき

アドバイス

みがき粉(コンパウンド)入りのワックスは、使わないでください。塗装面に細かい傷が残ることがあります。

ワックスは Honda 純正ケミカル用品をお使いください。

» バンパーなどの樹脂塗装部品のお手入れ

樹脂塗装部品の補修をする場合は、Honda 販売店にご相談ください。

不適当な塗料を使うと塗膜を傷めます。

次ページに続く

■アルミホイールのお手入れ

アルミは塩分や汚れを嫌います。道路凍結防止剤や海水が付いたときは、スポンジに中性洗剤を含ませ汚れを早めに落としてください。

■ヘッドライト、制動灯の曇り

ヘッドライト、制動灯などのランプは、雨天走行や洗車などにより、レンズ面が一時的に曇ることがあります。また、ランプ内と外気との温度差により、レンズ内面が結露することもあります。
これは雨天時などに窓ガラスが曇るのと同様の自然現象で、機能上の問題ではありません。
また、ランプの構造上、レンズの縁に水滴が付着することがありますが、機能上の問題ではありません。但し、ランプ内に水がたまっている場合や大粒の水滴が付いている場合は Honda 販売店で点検を受けてください。

アルミホイールのお手入れ

この車専用のホイールをお使いください。
専用以外のホイールを使うと、走行装置やブレーキ装置に支障をきたすおそれがあります。ホイール交換は、Honda 販売店にご相談ください。

硬いブラシやコンパウンド(研磨剤)の入った洗剤などは使わない。
変色やしみの原因になったり、傷をつけるおそれがあります。

■ロールトップのお手入れ

ロールトップのお手入れは、車体に取り付けた状態で行ってください。
水を柔らかい布に含ませ汚れを落としてください。
汚れがひどい場合は、柔らかい布に中性洗剤を含ませ汚れを落としてください。

ロールトップのお手入れは、以下のことに注意してください。

- 自動洗車機やコイン洗車機を絶対に使用しない
  ▶ ロールトップを傷めるおそれがあります。
- 長期間ロールトップをたたんで収納したままにしない
  ▶ しわができる原因になります。

ロールトップのお手入れ

水は必ずロールトップの上方からかけるようにしてください。

ウィンドーとロールトップの合わせ目付近には水をかけないでください。

ロールトップが濡れているときは、必ず水気を拭き取って乾燥させてから開けてください。濡れたまま収納すると、車内への水の浸入、ロールトップクロスの劣化、縮みやカビの原因となります。

屋外で保管する際は、台風や大雨などで車内への水の浸入や、ロールトップ保護のため、ボディーカバーをかけるようにしてください。

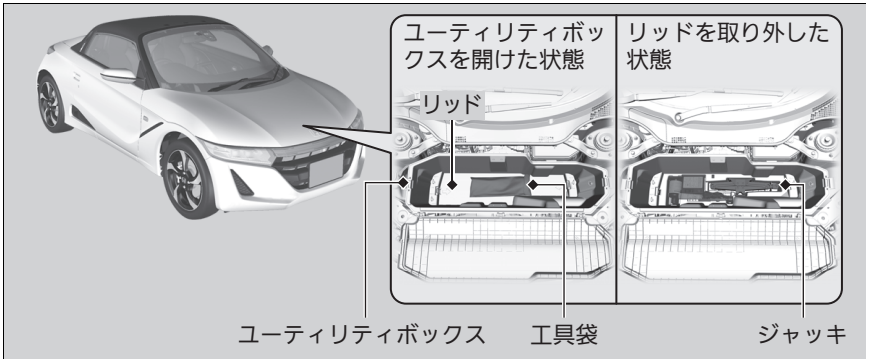
万一の場合には

この章では、万一の場合の対応方法について記載しています。

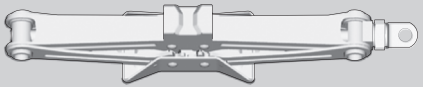


工具、発炎筒 239
パンクしたとき 241
ジャッキの取り扱い
ジャッキのかけかた 250
エンジンが始動しない
エンジンの状態の確認 252
Honda スマートキーの電池が切れたとき 253
緊急時のエンジン停止方法 254
ジャンプスタート 255
無段変速オートマチック車
セレクトレバーが動かない 258
オーバーヒート 259
警告灯の点灯 / 点滅 261
ヒューズ
ヒューズの設置場所 264
ヒューズの点検と交換 270
けん引 271

工具の種類

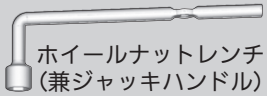


ユーティリティボックスに収納



ジャッキ

工具袋に収納



ホイールナットレンチ（兼ジャッキハンドル）



アイボルト



ジャッキハンドルバー



スパナ

»工具の種類

工具類はフロントコンパートメント内のユーティリティボックスに収納されています。

発炎筒

高速道路や踏切などの危険な場所で故障したときに使います。
発炎筒に記載されている次のことをよく読んであらかじめ確認しておいてください。

- 使いかた
- 使用上の注意
- 発炎時間
- 有効期限

➔ **発炎筒** P.2

≫発炎筒

⚠警告

ガソリンなどの燃えやすいもののそばで使わない。
火災や爆発のおそれがあります。

⚠注意

発炎筒を使うときは、以下のことに注意する。

- お子さまにさわらせないでください。いたずらなどにより発炎筒が発火して思わぬ事故ややけどの原因になります。
- 顔や身体に向けないでください。思わぬ事故ややけどの原因になります。
- トンネル内では視界を悪くするので使用しないでください。トンネル内では非常点滅表示灯を使ってください。

パンクしたタイヤの応急修理

タイヤの損傷が激しい場合は、乗り物をけん引する必要があります。
単にタイヤに小さな穴がある場合、永久的な修理をするために最寄りの販売店へ運転することができるよう、損傷を一時的に補修するタイヤパンク応急修理キットで応急修理ができます。
パンクしたときは、ハンドルをしっかり握り徐々にブレーキをかけてスピードを落とし安全な場所に停車してください。

1. 地面が固く、滑らない、水平なところに車を停め、パーキングブレーキをかける。

無段変速オートマチック車

2. セレクトレバーを P に入れる。

マニュアル車

2. チェンジレバーを R に入れる。

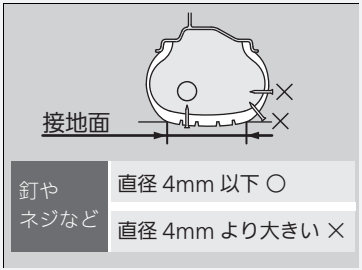
共通

3. 非常点滅表示灯を点滅させ、パワーモードを OFF モードにする。

パンクしたタイヤの応急修理

以下のような場合、タイヤパンク応急修理キットは使用できません。Honda 販売店またはロードサービスにご連絡ください。

- 応急修理剤の有効期限が切れているとき
- タイヤが 2 本以上パンクしているとき
- 約 4mm 以上の切り傷や刺し傷によるパンクのとき
- 路面接地部以外が損傷を受けパンクしたとき



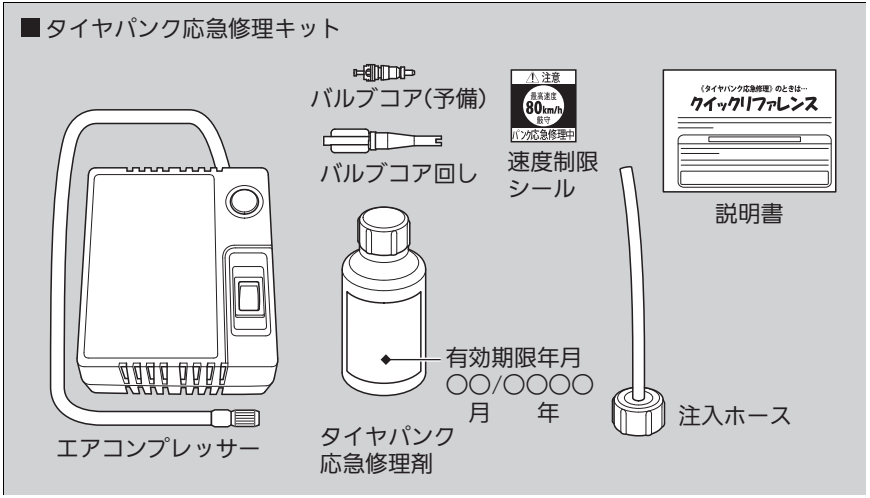
- ほとんど空気が抜けた状態で走行したとき
- タイヤがホイールから外れているとき
- ホイールが破損しているとき

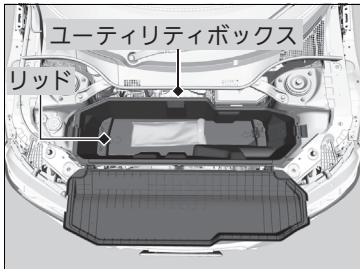
タイヤに刺さったクギなどは抜かないでください。
抜いてしまうと、タイヤパンクの応急修理キットでは応急処理が不可能になる場合があります。

次ページに続く

■タイヤ応急修理の準備

■タイヤパンク応急修理キット

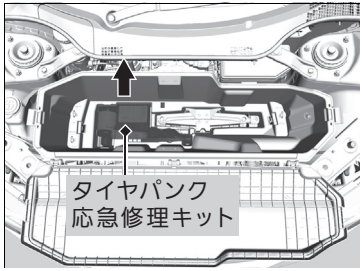




1. ユーティリティボックスを開けて工具袋を取り出してから、リッドを取り外す。

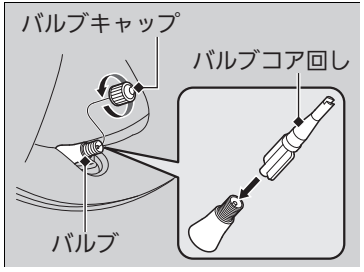
▶▶タイヤ応急修理の準備

応急修理をスムーズに行うため、タイヤパンク応急修理キットに付属の説明書をお読みください。

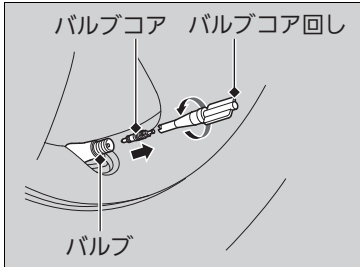


2. タイヤパンク応急修理キットを取り出す。
3. 交通から遠ざけ、パンクしたタイヤ付近にキットを水平に置く。

■応急修理剤の注入



1. バルブからバルブキャップを取り外す。
2. バルブコア回しの突起部分をバルブに押し当てて、タイヤの空気を完全に抜く。



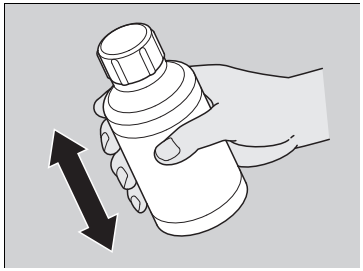
3. バルブコア回しで、バルブコアを回して外す。
▶外したバルブコアは、汚れないようきれいなところに保管します。

次ページに続く

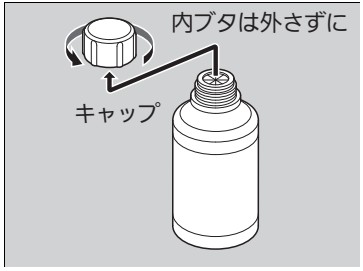
≫応急修理剤の注入

⚠注意

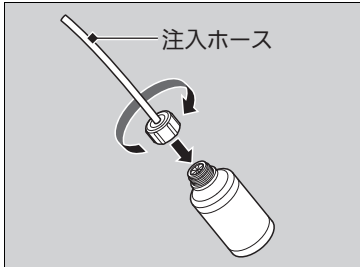
タイヤの空気は完全に抜く。
タイヤに空気が残っていると、バルブコアが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。



4. 応急修理剤のボトルをよく振る。



5. 応急修理剤のキャップを外す。
▶ 内ブタは取り外さないでください。



6. 応急修理剤の内ブタを付けたままの状態で、ボトルに注入ホースを取り付ける。
▶ 注入ホースをねじ込むと、内ブタが破れます。

≫応急修理剤の注入

⚠警告

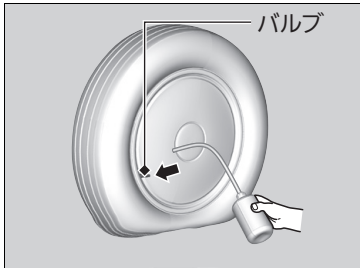
応急用修理剤は、飲用すると有害で、致命的になりうる物質を含んでいます。
誤って飲用した場合、
- できるだけたくさんの水を飲んでください。
- ただちに医師の診察を受けてください。

目に入ったり皮膚に付いた場合
- 水でよく洗い流してください。
- 異常を感じたときはただちに医師の診察を受けてください。

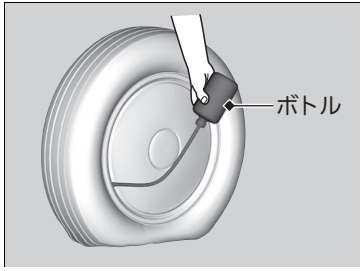
お子さまが誤って手を触れないよう、保管、取り扱いに注意してください。

注入ホースを取り付けたあと、応急修理剤のボトルを振らない。
修理剤が注入ホースから飛び出るおそれがあります。

応急修理剤が衣類などに付着すると、落ちないおそれがありますのでご注意ください。

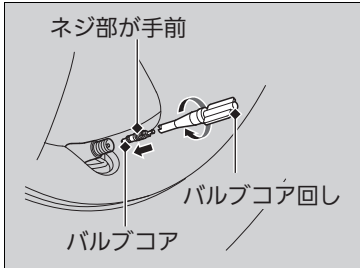


7. 注入ホースをバルブに差し込む。



8. 応急修理剤のボトルを逆さまに持ち、ボトル内の修理剤を全てタイヤの中に注入する。
▶全ての修理剤がタイヤの中に入るよう、手でボトルを何回も圧迫してください。

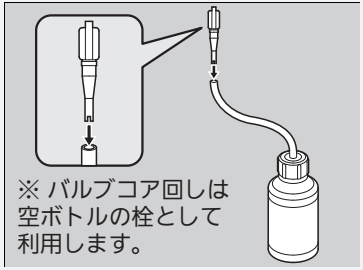
9. 注入後、注入ホースをバルブから引き抜く。



10. バルブコアをバルブに取り付け、バルブコア回しで回し、しっかりねじ込む。

≫応急修理剤の注入

注入が終わった空ボトルから修理剤がもれないよう、バルブコア回しで注入ホースに栓をしてください。

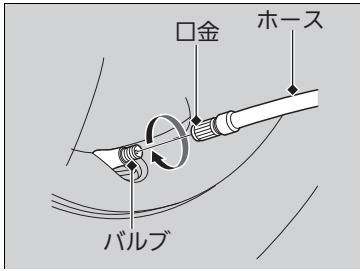


空ボトルはユーティリティボックスに収納してください。

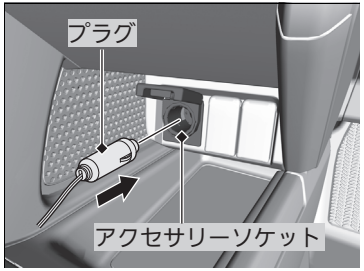
注入後の空ボトルは、タイヤ修理時に使用済み応急修理剤の回収に使用します。
捨てずに、Honda 販売店か専門修理工場までお持ちください。

次ページに続く

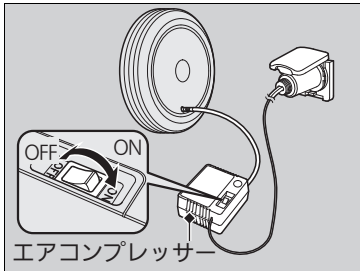
■エアの注入



1. エアコンプレッサーを準備する。
2. バルブにエアコンプレッサーのホースを確実に取り付ける。



3. エアコンプレッサーの電源コードのプラグを、アクセサリーソケットに差し込む。
▶ ドアや窓にコードをはさまないように注意してください。
➡ **アクセサリーソケット** P.94
4. エンジンを始動する。
➡ **一酸化炭素について** P.46



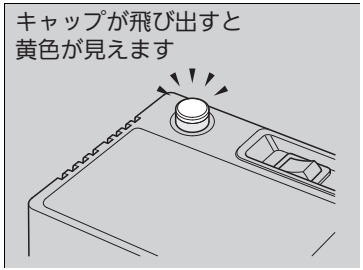
5. エアコンプレッサーのスイッチをONにして、空気を入れる。

≫エアの注入

⚠警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。
一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。
密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、エンジンをかけたままにしない。
周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。
エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。



6. エアコンプレッサーのキャップの飛び出しを確認する。
▶ 空気の注入が終了すると、キャップが飛び出し、「ピー」と鳴ります。
➔ **資料** P.276
▶ キャップの黄色部が見えていることを確認します。

7. エアコンプレッサーのスイッチを OFF にする。

8. タイヤパンク応急修理キットを格納する。

» エアの注入

エアコンプレッサーの電源を ON にすると、振動して音が聞こえますが、故障ではありません。

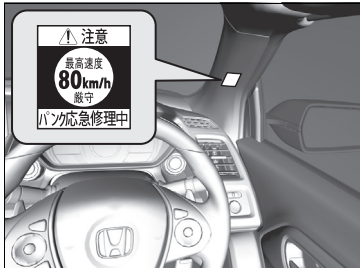
備え付けのコンプレッサーは、乗用車タイプの空気充填用です。取り扱いの際には、以下の点にご注意ください。

- エアコンプレッサーの電源は自動車用12V専用です。他の電源は使用しないでください。
- 使用中、エアコンプレッサーの表面が熱くなります。15 分以上は連続して使用しないでください。また、再使用する場合は、エアコンプレッサーが冷えてからお使いください。

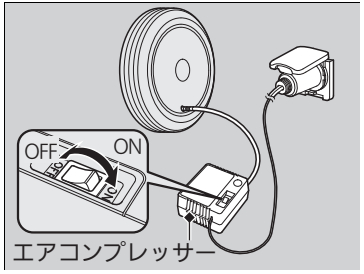
10 分以内にキャップが飛び出さない場合は、応急修理剤による応急修理はできません。Honda 販売店やロードサービスに連絡してください。

次ページに続く

■点検走行



1. 速度制限シールを、運転者のよく見える位置に貼る。



2. 点検走行を開始する。
▶ 法定速度を守ってください。高速道路では 80km/h 以下を厳守してください。
3. 10分または5km走行したあと安全な場所に車を停める。
4. 再度エアコンプレッサーを接続する。

≫点検走行

⚠警告

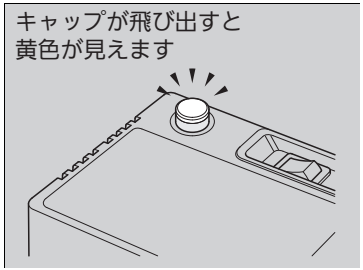
一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。
一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。
密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、エンジンをかけたままにしない。
周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。
エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。

⚠注意

ハンドルのパッドにシールを貼らない。
SRS エアバッグが正常に機能しなくなります。

警告灯やスピードメーターが見えない位置に貼らない。
安全運転の妨げとなります。



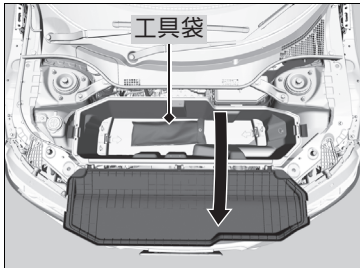
5. エアコンプレッサーのスイッチをONにして、キャップの飛び出しを確認する。
▶空気の注入が終了すると、キャップが飛び出し、「ピー」と鳴ります。
▶1分以内にキャップが飛び出し、キャップの黄色部が現れれば、応急修理は完了です。
▶1分以内にキャップが飛び出ない場合は、運転を中止してHonda販売店またはロードサービスに連絡してください。
6. エアコンプレッサーのスイッチを OFF にして、格納する。

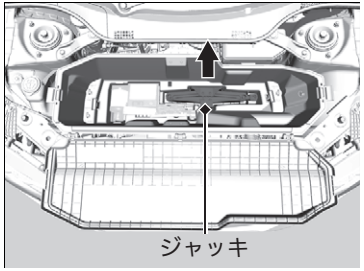
点検走行

走行前に、エアコンプレッサー、空ボトルなどの積み忘れがないか、しっかりと確認してください。

Honda 販売店やロードサービスにタイヤ交換または修理を依頼する際には、タイヤパンク応急修理剤を使用したことを知らせてください。

ジャッキのかけかた





1. 地面が固く、滑らない、水平なところに車を停める。

無段変速オートマチック車

2. セレクトレバーを P に入れる。

マニュアル車

2. チェンジレバーを R に入れる。

共通

3. パーキングブレーキをかける。

4. パワーモードを OFF モードにする。

5. ユーティリティボックスを開けて、工具袋からジャッキハンドルバーとジャッキハンドルを取り出す。

6. リッドを取り外し、ジャッキを取り出す。

≫ジャッキのかけかた

⚠警告

車がジャッキだけで支えられているときは、車の下に入らない。

車がジャッキから外れて、車の下にいる人が重大な傷害を負うおそれがあります。

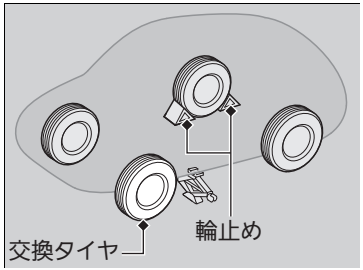
⚠注意

ジャッキを使うときは安全のため、次のことを必ず守る。

- エンジンをかけたままにしない
- 地面が固い平らなところ以外では使用しない
- ジャッキポイント以外にかけない
- 人や荷物を乗せたままにしない
- ジャッキ使用中に車内に入らない
- ジャッキの上や下にものを入れたりしない

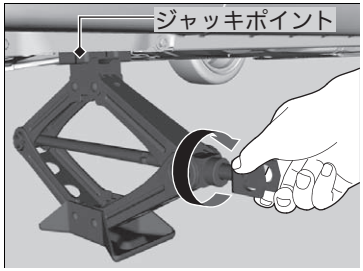
この車に搭載されているジャッキをお使いください。

このジャッキで別の車を上げたり、この車を上げるために別の車のジャッキを使用した場合、車両かジャッキが破損することがあります。



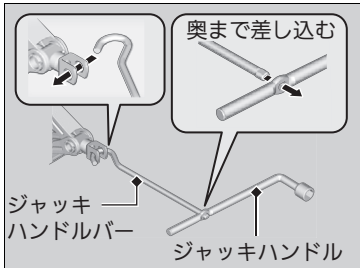
7. 交換するタイヤの対角線上にあるタイヤの前後に、石などで輪止めをする。

8. 交換するタイヤに最も近いジャッキポイントの下にジャッキを置く。



9. ジャッキの上部がジャッキポイントに接触するまで図の部分を矢印の方向に回す。

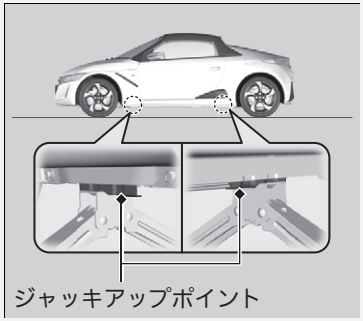
▶ ジャッキの溝にジャッキポイントがはまったことを確認します。



10. ジャッキハンドルとジャッキハンドルバーを使って、タイヤが地面から離れるまで車体を上げる。

ジャッキのかけかた

ジャッキポイントは、下記の通りです。



エンジンの状態の確認

エンジンが始動しない場合、スターターの状態を確認してください。

≫エンジンの状態の確認

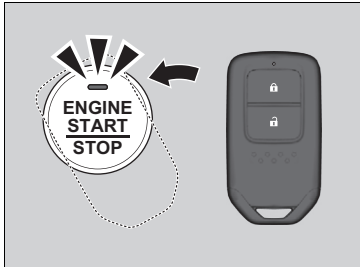
すぐに車を動かす必要がある場合は、ブースターバッテリーを利用してジャンプスタートさせます。
➔ **ジャンプスタートの方法** P.255

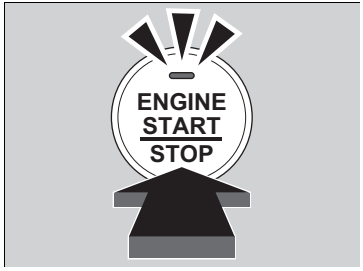
スターターの状態	確認項目
スターターが全く回らない！ **スターターの回転が非常に遅い！** バッテリーがあがっていることなどが考えられます。右記の項目をチェックして適切な対応をしてください。	• エンジン始動の作動範囲を確認します。 ➔**ENGINE START/STOP スイッチ** P.82 • ボタンを押してもキーのインジケーターが点灯しないとき ➔ **Honda スマートキーの電池が切れたとき** P.253 **室内灯などの明るさを確認する** 室内灯などを点灯し、明るさを確認します。 • 室内灯などが非常に暗い、または全く点灯しない場合 • 室内灯などの明るさに問題がない場合 ➔**ヒューズの点検と交換** P.270
スターターは正常に回るが … ヒューズに問題があることなどが考えられます。右記の項目をチェックして適切な対応をしてください。	**エンジン始動の手順を実行する** もう一度、正しいエンジン始動操作をしてみてください。 ➔**エンジンの始動** P.162 **燃料の量を点検する** 燃料が入っているか確認してください。 ➔ **燃料計** P.60 **ヒューズを点検する** 全てのヒューズを確認してください。 ➔**ヒューズの点検と交換** P.270

以上の確認をしてもエンジンが始動しない場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

Honda スマートキーの電池が切れたとき

ENGINE START/STOP によるパワーモードの操作やエンジンの始動ができない場合、以下の手順を行ってください。





1. ENGINE START/STOP を押す。
▶「ピーピーピーピーピーピー」とブザーが鳴り、インジケーターが約30秒間点滅します。

2. インジケーターが点滅している間に、Honda スマートキーの Honda エンブレムをスイッチに接触させる。
▶「ピッ」とブザーが鳴り、インジケーターが約 10 秒間点灯します。

3. インジケーターが点灯している間に、右足でブレーキペダルを踏みながら、ENGINE START/STOP を押す。
▶ブレーキペダルを踏んでいないときは、アクセサリーモードになります。

緊急時のエンジン停止方法

ENGINE START/STOP は走行中、緊急事態の場合にエンジンを停止するために使用することができます。
エンジンを停止しなければならない場合は、次のいずれかを行ってください。

- ENGINE START/STOP を約 2 秒以上押す
- ENGINE START/STOP を 2 回連続して押す

このときハンドルはロックしません。

無段変速オートマチック車

エンジンが停止すると、パワーモードはアクセサリーモードになります。
パワーモードを OFF モードにするには、車両が完全に停止後に以下の操作を行ってください。

1. シフトレバーを P に入れる。
2. ブレーキペダルを踏まずに ENGINE START/STOP を 2 回連続して押す。

マニュアル車

パワーモードは OFF モードになります。

- 車両が完全に停止後、クラッチペダルを踏まずに ENGINE START/STOP を 3 回連続して押す
  ▶ ハンドルがロックされます。

緊急時のエンジン停止方法

緊急時など必要な場合以外は、走行中に ENGINE START/STOP を押さないでください。

ジャンプスタートの方法

■処置のしかた

まず、フロントフードを開け、ユーティリティボックスを取り外してバッテリーの状態を確認します。

➔ **ユーティリティボックスの外し方** P.215

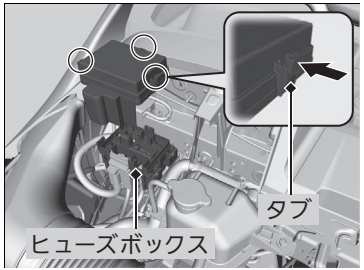
バッテリー液が凍っている場合はバッテリー液が溶けるまでジャンプスタートはできません。

次に、オーディオやライトなどの電源を OFF にしてください。

ブースターケーブルのクリップは、エンジンの振動などで外れないように確実に固定してください。また、ケーブルの巻き込みに注意してください。

1. 自車と救援車の電源を OFF にする。

2. リヤフードを開け、ヒューズボックスのカバーを取り外す。



次ページに続く

⚠警告

ジャンプスタートは、正しい手順で慎重に行う。
ジャンプスタートの操作を間違えると、バッテリーが爆発し、重大な傷害を受けるおそれがあります。
タバコの火、火花、炎をバッテリーから遠ざけ、正しい手順で行ってください。

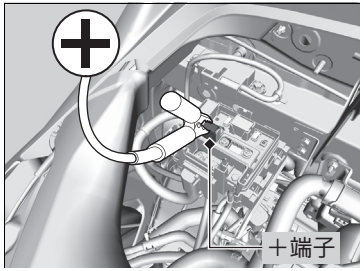
アドバイス

気温が極端に低い場所にバッテリーを長時間にわたって置くと、内部のバッテリー液が凍結するおそれがあります。
バッテリー液が凍結したバッテリーでジャンプスタートすると、バッテリーが壊れることがあります。

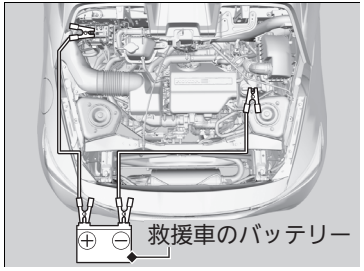
寒冷時は、バッテリーの性能が低下します。
エンジン始動に支障をきたすことがありますので、液量、比重の確認をし、必要に応じて液の補給や補充電をしてください。

金属どうしがきちんと接続されているか確認してください。
ケーブルをエンジンのアース以外の端子に接続しないでください。

バッテリー液が不足しているときは、使用しないでください。
バッテリー内部の劣化が進むおそれがあります。

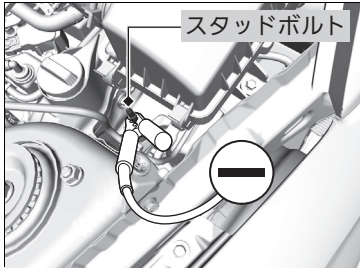


3. ブースターケーブルを、自車のエンジンルームにあるヒューズボックスの ⊕ 端子に接続する。



4. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの ⊕ 端子に接続する。
- ▶ 救援車には、12V のバッテリーを装着している車を使用してください。
- ▶ 自動車用充電器を使用する場合は、電圧を 15V 以下に設定してください。

5. もう1本のブースターケーブルを、救援車のバッテリーの ⊖ 端子に接続する。



6. ケーブルの反対側を、自車のエンジンのスタッドボルトに接続する。

7. 救援車のエンジンを始動し、回転数を少し高めにする。

8. 自車のエンジンを始動する。

■エンジン始動後の作業

自車のエンジンが始動したら、下記の手順でブースターケーブルを取り外します。

1. 自車のエンジンのスタッドボルトからケーブルを外す。
2. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの ⊖ 端子から外す。
3. 自車のエンジンルームにあるヒューズボックスの⊕端子からケーブルを外す。
4. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの ⊕ 端子から外す。

Honda 販売店や最寄りのガソリンスタンドなどで点検を受けてください。

エンジン始動後の作業

⚠警告

バッテリーを扱うときは、火気を近づけない。
バッテリーから発生する可燃性のガスに引火すると、バッテリーが爆発し、重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。
バッテリーを扱うときは、保護衣・保護面を着用するか、Honda 販売店でバッテリーのメンテナンスを受けてください。

バッテリー液の取り扱いに注意する。
バッテリー液は希硫酸です。目や皮ふに付くとその部分が侵されますので十分注意してください。
- 万一、付着したときはすぐに多量の水で少なくとも 5 分間以上洗浄する
- 飲み込んだときはすぐに多量の飲料水を飲む

応急処置後は、専門医の診察を受けてください。

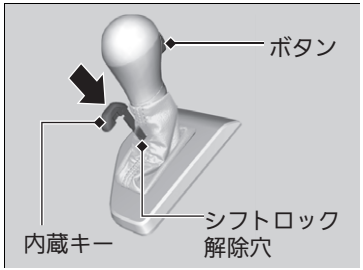
ブースターケーブルの端子どうしが接触しないよう注意してください。

セレクトレバーが動かない

無段変速オートマチック車

セレクトレバーが、 P の位置でロックされて動かなくなったら、下記の方法で解除してください。

■ロックを解除する



1. パーキングブレーキをかける。
2. パワーモードを OFF モードにする。
3. シフトロック解除穴に内蔵キーを差し込む。
4. キーを押しながらセレクトレバーのボタンを押し、セレクトレバーを N に入れる。
▶ ロックが解除されました。Honda 販売店で、早めに点検を受けてください。

オーバーヒートしたときの対処方法

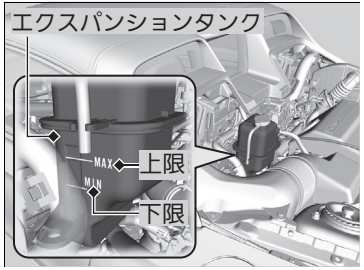
次のようなときは、オーバーヒートです。
- 高水温警告灯が点灯したり、エンジンの力が急に落ちる
- エンジンルームから蒸気が立ちのぼっている

■最初にすること

1. ただちに車を安全な場所に停める。
▶ セレクトレバーを P (無段変速オートマチック車)に入れ、パーキングブレーキをかけます。すべてのアクセサリーの電源を切り、非常点滅表示灯を点滅させます。

2. **蒸気が出ていない場合：**エンジンをかけたままリヤフードを開ける。
蒸気が出ている場合：エンジンを停止し、蒸気が出なくなってからリヤフードを開ける。
リヤフードを開ける P.212

■次にすること



1. フロントフードを開けて冷却ファンの作動を確認し、高水温警告灯が消灯してからエンジンを停止する。
▶ 冷却ファンが作動していない場合は、すぐにエンジンを停止します。

2. エンジンが冷えてから冷却水量、ホースなどからの水漏れを点検する。
▶ 冷却水量が不足していたら、エクスパンションタンクに冷却水を補給します。冷却水がない場合は、応急的に水を補給します。

次ページに続く

⚠警告

蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでリヤフードを開けない。
エクスパンションタンクから噴き出る蒸気や熱湯に触れると、重大な傷害を受けるおそれがあります。

エンジンが熱いうちにエクスパンションタンクキャップを外さない。
冷却水が噴き出し、重大な傷害を受けるおそれがあります。必ずタンクが十分に冷えてからキャップを外してください。

アドバイス

高水温警告灯が点灯した状態で運転すると、エンジンを著しく損傷するおそれがあります。

冷却水がもれている場合は、Honda 販売店に修理を依頼してください。

■最後にすること

- 十分にエンジンが冷えたら、エンジンを始動し高水温警告灯を確認する。
  警告灯が消灯している場合は、運転を再開します。点灯しているときは、
  Honda 販売店に修理を依頼します。

油圧警告灯が点灯した



■点灯の理由
エンジン内部を潤滑しているオイルの油圧が低下すると点灯します。

■点灯したらすぐにすること
1. ただちに車を水平で安全な場所に停車する。
2. 非常点滅表示灯を点滅させる。

■車を停車してからすること
1. エンジンを停止し、3 分間ほど放置する。
2. リヤフードを開け、エンジンオイルの量を確認する。
▶ 必要に応じて、エンジンオイルを補給してください。
3. エンジンを始動し、油圧警告灯を確認する。
▶ **消灯した：**運転を再開してください。
▶ **10 秒以内に消灯しない：**エンジンを止めて、ただちに Honda 販売店に修理を依頼してください。

充電警告灯が点灯した



■点灯の理由
バッテリーが充電されていないと点灯します。

■点灯したらすること
電気の消費を減らすため、エアコンなどを OFF にして、ただちに Honda 販売店に修理を依頼してください。

≫油圧警告灯が点灯した

アドバイス

油圧が低い状態でエンジンを回転させると、エンジンが破損するおそれがあります。

≫充電警告灯が点灯した

一時的に停車する場合は、エンジンを停止しないでください。
エンジンを始動すると、バッテリーが急速に放電します。

PGM-FI 警告灯が点灯 / 点滅した



■点灯 / 点滅の理由

エンジンの排気ガス制御システムが異常のとき点灯します。エンジン各気筒の失火状態を検知したときに点滅します。

■点灯したときは

高速走行を避けて、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。

■点滅したときは

枯草などの可燃物のない安全な場所に停車し、10 分以上エンジンを止めて冷えるまでお待ちください。

ブレーキ警告灯(レッド)が点灯した



■点灯の理由

- ブレーキフルードが減っているときに点灯します
- ブレーキ配分機能が異常のときに点灯します

■走行中に点灯したらすること

- ブレーキペダルを軽く踏んで、ペダルの圧力を確認する
- ブレーキフルード量を確認する

≫PGM-FI 警告灯が点灯 / 点滅した

アドバイス

PGM-FI警告灯が点灯したまま運転すると、排気ガス制御システムとエンジンを損傷する場合があります。

エンジン再始動後、再び点滅するときは、50km/h以下の速度で最寄りのHonda販売店まで走行し点検を受けてください。

≫ブレーキ警告灯(レッド)が点灯した

ただちに、Honda 販売店に修理を依頼してください。
ブレーキフルードが減っている状態で運転することは危険です。

ブレーキペダルに抵抗がない場合は、ただちに安全な場所に車を停めてください。必要に応じて、ギヤを落とします。

ABS警告灯と同時に点灯した場合は、急ブレーキ時に車両が不安定になる可能性があります。
高速走行や急ブレーキを避けてください。
ただちに、Honda 販売店に修理を依頼してください。

EPS(電動パワーステアリング)システム警告灯が点灯した



■点灯の理由

- EPS が異常のときに点灯します
- 停車中にエンジンの空ぶかしを行うと点灯し、ハンドルが重くなる場合があります

■点灯したらすること

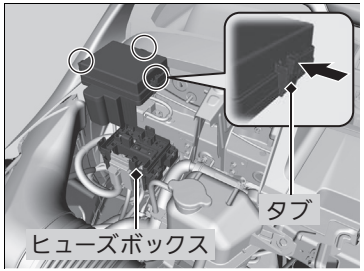
- 安全な場所に停車し、エンジンを再始動する

その後も走行中に点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

ヒューズの設置場所

電気装置が作動しない場合、パワーモードを OFF モードにして、ヒューズが切れていないか確認します。ヒューズは、4 つのヒューズボックスに入っています。

■エンジンルーム内のヒューズボックス



エンジンルーム内の助手席側に付いているエクスパンションタンクの隣にあります。タブを押して開けてください。

■各ヒューズの装備と容量

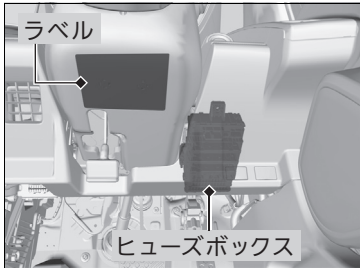
	表示	装備	容量
1		スターター マグネチック ヒューズ	7.5A
2		STRLD	7.5A
3		スターター	30A
4		バッテリーメイン	100A

▶エンジンルーム内のヒューズボックス

ヒューズボックスのフタに、ヒューズの場所が表示してあります。

ヒューズ番号とフタの表示で、該当するヒューズの位置を確認してください。

■室内運転席側のヒューズボックス



アクセルペダルの上にあります。

室内運転席側のヒューズボックス

コラムカバーの下に貼ってあるラベルに、ヒューズの場所が表示してあります。

ヒューズ番号とラベルの番号で、該当するヒューズの位置を確認してください。

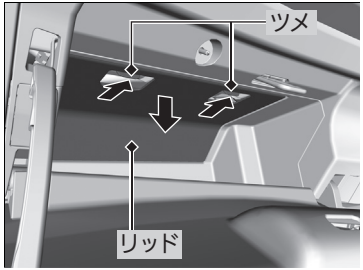
次ページに続く

■各ヒューズの装備と容量

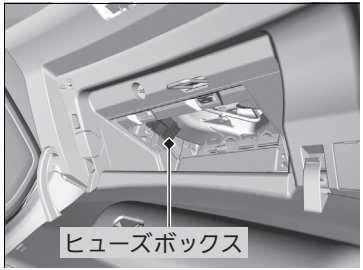
	表示	装備	容量
1		エアコン	7.5A
2	—	—	—
3	—	—	—
4	—	—	—
5		メーター	7.5A
6	—	—	—
7		オプション	7.5A
8		発電機	7.5A
9		フューエルポンプ	15A
10		ABS/VSA	7.5A
11		パワーウィンドー	10A
12		フロントワイパー	7.5A
13		イグニッション コイル	15A
14	—	—	—
15	—	—	—
16	—	—	—
17	—	—	—
18	—	—	—
19		右側ドアアンロック	10A
20		左側ドアアンロック	10A
21	—	—	—
22		右側ドアロック	10A
23	—	—	—
24		SRS エアバッグ システム	10A
25		イルミネーション	10A
26		ACC キーロック	7.5A
27		スモールライト	10A
28	—	—	—
29		右側ヘッドライト ハイビーム	10A
30		ウォッシャー	10A
31		Honda スマート キーシステム	10A
32		運転席 パワーウィンドー	20A
33		助手席 パワーウィンドー	15A
34	—	—	—
35		リヤ パワーウィンドー	20A
36	—	—	—
37		ACC	7.5A
38	—	—	—
39		左側ヘッドライト ハイビーム	10A
40		フロント アクセサリー ソケット	20A
41		左側ドアロック	10A
42		ドアロック	20A

無段変速オートマチック車

■室内助手席側のヒューズボックス



グローブボックスを開き、リッドを取り外します。



エアクリーンフィルターの上にあります。

➔ **エアクリーンフィルター** P.231

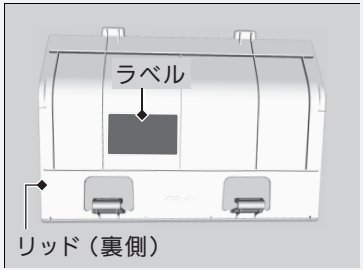
■各ヒューズの装備と容量

	表示	装備	容量
1		VB ソレノイド	7.5A
2		ABS/VSA	7.5A
3		ACC	7.5A
4		バックアップメイン	10A
5		メーター	7.5A
6	—	—	—

» 室内助手席側のヒューズボックス

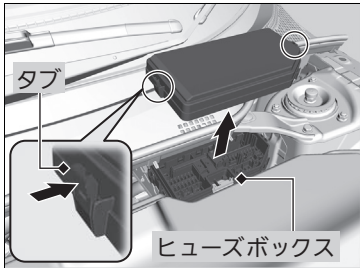
上部のリッドに貼ってあるラベルに、ヒューズの場所が表示してあります。

ヒューズ番号とラベルの番号で、該当するヒューズの位置を確認してください。



次ページに続く

■フロントコンパートメント内のヒューズボックス



フロントコンパートメント内の助手席側にあります。

フロントコンパートメント内のヒューズボックス

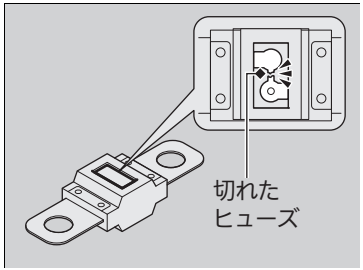
ヒューズボックスのフタに、ヒューズの場所が表示してあります。
ヒューズ番号とフタの表示で、該当するヒューズの位置を確認してください。

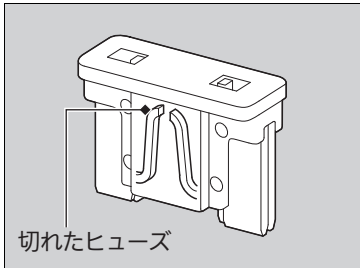
■各ヒューズの装備と容量

容量に( )がついているヒューズは、装備が無い場合でもヒューズが入っている場合があります。

	表示	装備	容量
1		EPS	60A
		ABS/VSA モーター	40A
		DC/DC1	(30A)
	—	—	30A
		DC/DC2	(30A)
	—	—	—
2	—	—	50A
		ヒューズボックス メイン	60A
	—	—	40A
		イグニッション メイン 1	30A
		ヘッドライト ハイビームメイン	30A
		イグニッション メイン 2	30A
		メインファン	30A
	—	—	40A
		ヒーターモーター	30A
		ヘッドライト ロービームメイン	20A
		ワイパー	20A
3	—	—	—
4		LAF センサー	7.5A
5	R	右側ヘッドライト ロービーム	10A
6	L	左側ヘッドライト ロービーム	10A
7	—	—	—
8	—	—	—
9	—	—	—
10	—	—	—
11	—	—	—
12	—	—	—
13	—	—	—
14		非常点滅表示灯	10A
15		ABS/VSA FSR	20A
16	—	—	—
17	—	—	—
18		ホーン・制動灯	10A
19	—	—	—
20	—	—	—
21		ドライブバイワイヤ	15A
22	—	—	—
23		FI メイン	15A
24		バッテリーセンサー	(7.5A)
25		MG クラッチ	7.5A
26		室内灯	7.5A
27		車幅灯メイン	20A
28	—	—	—
29		バックアップ	10A

ヒューズの点検と交換





1. パワーモードを OFF モードにし、ヘッドライトとすべてのアクセサリーを OFF にする。
2. ヒューズボックスのフタを取り外す。
3. エンジンルーム内の大きいヒューズを点検する。
▶ 切れているヒューズがあったら、プラスドライバーでネジを外し、新しいものと交換してください。
4. エンジンルーム内と室内、フロントコンパートメント内の小さいヒューズを点検する。
▶ 切れているヒューズがあったら、新しいものと交換してください。

≫ヒューズの点検と交換

アドバイス

規定容量より大きいヒューズに交換すると、電気系統を損傷する危険性が高くなります。
交換したあと、すぐにヒューズが切れるような場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

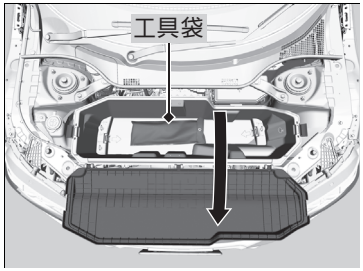
ヒューズは同じ規定容量のヒューズと交換してください。
規定容量はヒューズの設置場所に記載している一覧で確認してください。
ヒューズの設置場所 P.264

非常時のけん引

けん引は専門業者に依頼して四輪または後輪を持ち上げて行ってください。

■やむをえずけん引される場合

やむをえず四輪を接地させてロープでけん引を行う場合、次の方法で行ってください。



1. エンジンルームの下からトランスミッションフルード(オイル)などが漏れていないことを確認する。
   ▶ 異常がある場合は、四輪または後輪を接地させてのけん引は行わないでください。
2. フロントフードを開ける。
3. ユーティリティボックスのカバーを開けて、工具袋からジャッキハンドルバーとアイボルトを取り出す。

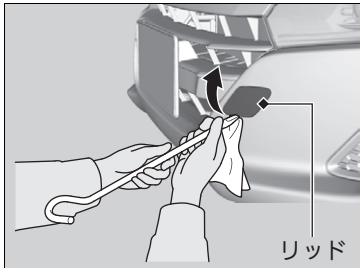
≫非常時のけん引

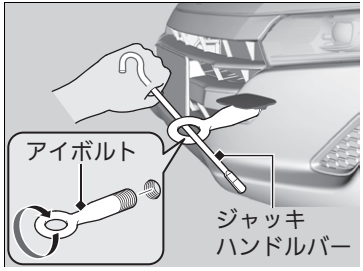
車輪が動かないときなど動力伝達装置に異常があると思われるときは、四輪または後輪を持ち上げてけん引してください。

アドバイス

バンパーで車を持ち上げたり、けん引すると、バンパーがいちじるしく損傷します。
バンパーは車の重量を支えるようにはできていません。

次ページに続く





4. ジャッキハンドルバーの先でリッドを開ける。
▶バンパーが傷つかないよう、ジャッキハンドルバーの先に布などを巻き付けてください。
5. アイボルトがガタつかない程度まで手で締めつけてから、ジャッキハンドルバーで確実に締め付ける。
6. ロープをアイボルトにかけ、ロープ中央部に白い布(0.3m 平方以上)を付ける。
7. マニュアル車は、エンジンをかける。無段変速オートマチック車は、エンジンをかけてセレクトレバーを D にし、約 5 秒間保持する。
▶エンジンがかからないときは、アクセサリーモードまたは ON モードにします。
8. セレクトレバーまたはチェンジレバーを N にする。

≫非常時のけん引

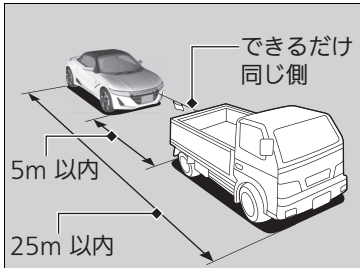
アドバイス

アイボルト以外のところにロープをかけないでください。
車体が破損、変形する場合があります。

長い下り坂では、ブレーキの温度が上がりブレーキが効かなくなるおそれがありますので、レッカー車にけん引してもらってください。

アドバイス

エンジンが停止している状態でのけん引は、以下のことに注意してください。
- ハンドルがロックしていないか確認する
- ブレーキの倍力装置が作動しないため、ブレーキの効きが悪くなる
- パワーステアリングのパワー装置が作動しないためハンドル操作が重くなる
- 無段変速オートマチック車は、トランスミッションが破損するおそれがある



9. パーキングブレーキを解除する。

10. けん引する。

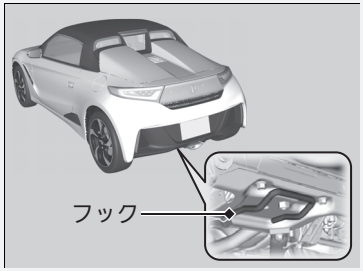
▶ けん引中は、前の車の制動灯に注意してロープをたるませないようにしてください。

▶ 速度30km/h以下、走行距離80km以内でけん引してください。

非常時のけん引

車両後方についているフックを他車のけん引や緊急時の脱出に使用することはできません。

フックが破損するおそれがあります。後方からけん引する必要がある場合は、Honda 販売店やロードサービスに連絡してください。



資料

この章には、仕様に関する情報が記載されています。



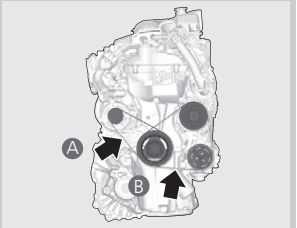
仕様 275

仕様

■仕様

名称	S660
排気量	658 cm³
車体形状	2 ドアコンバーチブル
乗車定員	2 名

■調節

ベルトのたわみ量			
	Ⓐ：	補機ベルト（発電機）	10.5-11.5mm { 約 98N(10kgf) の力 }
	Ⓑ：	補機ベルト（エアコンディショナー）	8.5-9.5mm { 約 98N(10kgf) の力 }
点火プラグ		NGK	ILZKAR8F8S
		DENSO	SXE24HCR8S
電極のすき間		基準値	0.7-0.8mm

点火プラグは、イリジウムプラグを使用しています。交換時期は「メンテナンスノート」をご覧ください。

■確認

ブレーキペダル	遊び	1-6.7 mm
	床板とのすき間	145 mm 以上 { 約 196N(20kgf) の力 }
	カーペットとのすき間（参考値）	129 mm 以上 { 約 196N(20kgf) の力 }
パーキングブレーキ	引きしろ	6～8 ノッチ { 約 196N(20kgf) の力 }

■燃料

燃料種類	無鉛レギュラーガソリン レギュラーバイオ混合ガソリン（E10/ETBE22）
燃料タンク容量	25 ℓ

■エアクリーナーエレメント

タイプ	湿式

■バッテリー

容量 / タイプ	32AH(5)/M-42R※1 28AH(5)/38B19R※2

※1 ： 無段変速オートマチック車
※2 ： マニュアル車

■ウォッシャー液

タンク容量	1.2 ℓ

■電球

ヘッドライト（ロービーム）	LED
ヘッドライト（ハイビーム）	12V-60W※1
前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯	12V-21W（橙色）
車幅灯	LED
側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯	12V-5W※2 12V-5W（橙色）※3
制動灯 / 尾灯	LED
後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯	12V-21W（橙色）
後退灯	12V-21W
ハイマウントストップランプ	LED
番号灯	12V-5W
室内灯	12V-8W

※1 ： ハロゲンバルブ
※2 ： オレンジレンズ装備車
※3 ： クリアレンズ装備車

■ブレーキフルード

指定液	Honda 純正ブレーキフルード DOT3 または DOT4

■トランスミッションフルード

指定液	Honda 純正ウルトラ HMMF※1	2.3 ℓ（交換時）
	Honda 純正ウルトラ MTF-III※2	1.3 ℓ（交換時）

※1 ： 無段変速オートマチック車
※2 ： マニュアル車

■推奨エンジンオイル

Honda 純正エンジンオイル	ULTRA LEO※1	API SN 級 SAE 0W-20
	ULTRA LTD	API SN 級 SAE 5W-30
規定量	オイル交換時	2.4 ℓ
	オイル、オイルフィルター同時交換時	2.6 ℓ

※1 ： 最も省燃費性に優れたオイルです。

■冷却水

指定液	Honda 純正ウルトラ e クーラント
規定濃度	50%
規定量	5.00 ℓ (交換時 : エクスパンションタンク 0.50 ℓ、ヒーター0.38 ℓ 含む)

■タイヤ

サイズ	前輪	165/55R15 75V
	後輪	195/45R16 80W
空気圧 kPa (kgf/cm²)	前輪	190 (1.9)
	後輪	200 (2.0)
リムサイズ	前輪	15×5J
	後輪	16×6 1/2J

数字

7速マニュアルシフトモード 171
シフトインジケーター/M（7速マニュアルシフトモード）表示灯 56, 170

A

ABS(アンチロックブレーキシステム) 187
ABS警告灯 50, 187
A/C(エアコン) 95
AUX ジャック(外部入力端子) 102
AVG(平均燃費表示) 63

C

CRUISE CONTROL（クルーズコントロール) 180
クルーズコントロール表示灯 56
クルーズメイン表示灯 56
CVT(無段変速オートマチックトランスミッション) 168

E

ENGINE START/STOPスイッチ 82
EPS(電動パワーステアリング）システム警告灯 52, 263

G

G メーター表示画面 122

H

Hondaスマートキー 69, 70
ENGINE START/STOPスイッチ 82
Hondaスマートキーシステム警告灯 50
Hondaスマートキー電池消耗警告灯 53
Hondaスマートキー持ち去り警告 84
Hondaスマートキー持ち去り警告灯 53
電池交換のしかた 230

I

iPod 対応USB プレーヤー/FM･AM チューナー 105
iPodの使いかた 110
USBデバイスの使いかた 112
音質、バランス、車速連動の音量調整 ... 106
画面の切り換え 105
工場出荷状態に戻す 114
ラジオの使いかた 107

M

M(7速マニュアルシフトモード）表示灯 56
MIST 87

P

PGM-FI警告灯 49, 262

R

RANGE(航続可能距離表示) 63

S

SELECT モードスイッチ 64
SPORT モードスイッチ 175, 176
SRSエアバッグ 32
エアバッグシステム警告灯 37, 50

U

USB/HDMI®ジャック 101

V

VSA(ビークルスタビリティアシスト) 183
VSA OFF警告灯 51, 184
VSA警告灯 51, 183

W

W(ワット数) 275

ア

アイドリングストップシステム..... 56, 176
アイドリングストップシステム警告灯..... 52
アイドリングストップ表示灯..... 56, 176
アイボルト 271, 272
アクセサリー 206
アクセサリーソケット 94
アジャイルハンドリングアシスト システム 184
安全なドライブのために 25
安全に関する表示 22
安全のための確認事項 25
アンチロックブレーキシステム(ABS) 187
ABS警告灯..... 50, 187
アンビエントメーター 6

イ

一酸化炭素の危険性..... 46
イモビライザーシステム..... 76
イルミネーション 88
インフォメーションディスプレイ 61

ウ

ウィンカースイッチ(方向指示器) 85
方向指示器表示灯..... 54
ワンタッチターンシグナル..... 85
ウィンドウォッシャー
ウィンドウォッシャー液の補給..... 214
ウィンドウォッシャースイッチ..... 87
ウィンドーの開閉..... 78
ウェアインジケーター..... 226
運転
エンジンの始動..... 162
クルーズコントロール 180
シフト操作..... 169, 173
ブレーキ操作..... 185

エ

エアコン..... 95
エアクリーンフィルター..... 231
エアコンの使いかた..... 96
デフロスター 97
窓の曇りや霜の取りかた 97
エアバッグ..... 32
SRSエアバッグ..... 32
エアバッグシステム警告灯..... 37
エアバッグシステム故障診断記録装置 22
エアバッグのお手入れ 38
サイドエアバッグ 35
エクスパンションタンク..... 259
エマージェンシーストップシグナル..... 189
エラーメッセージ..... 138
エンジンオイル..... 214
エンジンオイルメンテナンス 表示灯 59, 204
推奨エンジンオイル..... 214, 276
油圧警告灯 48, 261
エンジンスイッチ..... 82
エンジンの始動..... 162
エンジンが始動しない 252
ジャンプスタート 255
エンジンルーム/フロントコンパート メント内のメンテナンス 210, 211
ウィンドウォッシャー液の補給 214
エンジンルーム/フロントコンパート メント内のメンテナンス項目 210, 211
推奨エンジンオイル..... 214, 276
リヤフードを開ける..... 212
冷却水の点検と補給..... 259
エンジン冷却水..... 259, 276

オ

オーディオリモートコントロール スイッチ 103
追越合図(パッシング)..... 86
応急修理剤(タイヤパンク)..... 241
オーディオ装置..... 100
オートエアコン..... 96
オートライトコントロール
オートライトコントロール警告灯..... 51
オーバーヒート..... 259

オドメーター..... 62
温度センサー..... 62

カ

外気温表示..... 62
外部入力端子(AUX ジャック)..... 102
鍵(かぎ)..... 68
ガソリン..... 200, 275

キ

キー
ENGINE START/STOPスイッチのパワーモードがOFFモードからアクセサリーモードにならない..... 19
ENGINE START/STOPスイッチのパワーモードがOFFモードにならない..... 19
Hondaスマートキー..... 69, 70
Hondaスマートキーの電池が切れたとき..... 253
キー閉じ込み防止装置..... 74
キーナンバータグ..... 69
キーの種類と機能..... 68
キーレスエントリー..... 73
キーレスエントリーでドアが開かない..... 20
電池交換のしかた..... 230
キー閉じ込み防止装置..... 74
キーナンバータグ..... 69
キーレスエントリー..... 73
電池交換のしかた..... 230
キックダウン..... 168
給油..... 200
給油のしかた..... 200
指定燃料..... 200, 275
燃料計..... 60
燃料残量警告灯..... 50

ク

空気圧..... 276
クリープ現象..... 168
クルーズコントロール..... 180
クルーズコントロール表示灯..... 56
クルーズメイン表示灯..... 56
車の改造..... 206
グローブボックス..... 93

ケ

計器..... 47
警告灯..... 48
ABS警告灯..... 50, 187
EPS(電動パワーステアリング)システム警告灯..... 52, 263
Hondaスマートキーシステム警告灯..... 50
Hondaスマートキー電池消耗警告灯..... 53
Hondaスマートキー持ち去り警告灯..... 53
PGM-FI警告灯..... 49, 262
VSA OFF警告灯..... 51, 184
VSA警告灯..... 51, 183
アイドリングストップシステム警告灯..... 52
エアバッグシステム警告灯..... 37, 50
オートライトコントロール警告灯..... 51
高水温警告灯..... 51
シートベルト非着用警告灯..... 49
充電警告灯..... 49, 261
スターターシステム警告灯..... 52
セレクトポジション P 移動警告灯..... 53
ドア/フロントフード開閉警告灯..... 25, 52
トランスミッション警告灯..... 49
燃料残量警告灯..... 50
ブレーキ警告灯..... 48, 262
ブレーキシステム警告灯..... 48
油圧警告灯..... 48, 261
警告灯の点灯/点滅..... 261
けん引..... 271

コ

交換
- 後退灯電球 220
- 後面方向指示器/後面非常点滅表示灯電球 219
- 室内灯電球 222
- 車幅灯電球 218
- 制動灯/尾灯電球 219
- 前面方向指示器/前面非常点滅表示灯電球 217
- 側面方向指示器/側面非常点滅表示灯電球 218
- ハイマウントストップランプ電球 220
- 番号灯電球 221
- ヘッドライト電球 215
- ワイパーブレードラバー 223

工具 239
高水温警告灯 51
航続可能距離表示 63
後面方向指示器/後面非常点滅表示灯 219
コンビニフック 94

サ

サービス診断記録装置 22
- データの開示について 22

サイドエアバッグ 35
サンバイザー 3

シ

シートの調節 90
- シート 90

シートベルト 26
- アンカーポイント 31
- シートベルトの着用 29
- シートベルトの点検 31
- シートベルト非着用警告灯 49
- シートベルトプリテンショナー 28
- シートベルトリマインダー 27
- 妊娠中のかたのシートベルトの着用のしかた 30

時刻の設定 66
室内装備品 93
室内灯 92
シティブレーキアクティブシステム 190
シティブレーキアクティブシステム表示灯 57, 191
シフトインジケーター 56
シフトスイッチ 172
シフト操作 169, 173
車外の清掃 234
ジャッキ 250
車内の清掃 233
車幅灯 218
ジャンプスタート 255
充電警告灯 49, 261
瞬間燃費表示 63
仕様 275
衝撃感知ドアロック解除システム 75

ス

スイッチ操作
- エンジンスイッチ 82
- 方向指示器(ウィンカースイッチ) 85
- ライトスイッチ 86
- ワイパー/ウォッシャー 87

スターターシステム警告灯 52
ステアリング 88
スノータイヤ 229
スパークプラグ 275
スピードメーター 60
スマートフォン連携 141

セ

清掃 233
制動灯 219
セキュリティシステム 76
- イモビライザーシステム 76
- セキュリティアラームシステム 76

セレクト/リセットスイッチ 61
セレクトポジション 169
- セレクトポジション表示灯 56

セレクトレバー
- セレクトレバーが動かない 258
- セレクトレバーの操作 170

センターディスプレイ（スマートフォン連携ナビ対応オーディオ） 115
Bluetoothオーディオの使いかた 133
G メーター表示画面 122
iPodの使いかた 127
USBデバイスの使いかた 130
音質、バランス、車速連動の音量調整 119
壁紙の設定 120
画面の切り換え 117
画面の設定 118
工場出荷状態に戻す 137
ビデオ機器などの接続 135
ラジオの使いかた 123
前面方向指示器/前面非常点滅表示灯 217

ソ

側面方向指示器/側面非常点滅表示灯 218

タ

ターボ車 203
ターボブースト表示 63
タイヤ 225
ウェアインジケーター 226
指定空気圧 276
タイヤの点検 225
タイヤのローテーション 228
タイヤパンク応急修理キット 241
冬期のタイヤ 229
パンク 241
タコメーター 60

チ

チェンジレバーの操作 173
チャイルドシート 39
ジュニアシート 44
駐停車操作 197

テ

低水温表示灯 54
データの開示について 22
デフロスター 97
点火プラグ 275
電子制御ブレーキアシスト 188
電池交換 230

ト

ドアの施錠と解錠 68
Hondaスマートキー 69, 70
キー閉じ込み防止装置 74
キーナンバータグ 69
キーの種類と機能 68
キーレスエントリー 73
キーレスエントリーでドアが開かない 20
車外でのドアの施錠/解錠 71
車内でのドアの施錠/解錠 75
ドア/フロントフード開閉警告灯 25, 52
ドアミラー 89
冬期のタイヤ 229
スノータイヤ 229
時計 66
トラブルシューティング
ENGINE START/STOPスイッチのパワーモードがOFFモードからアクセサリーモードにならない 19
ENGINE START/STOPスイッチのパワーモードがOFFモードにならない 19
運転席ドアを開けるとブザーが鳴る 20
エンジンが始動しない 252
オーバーヒートした 259
キーレスエントリーでドアが開かない 20
警告灯が点灯/点滅した 261
けん引してもらいたい 271
ジャンプスタートしたい 255
セレクトレバーが動かない 258
走行するとブザーが鳴る 21
ハイオクガソリンは使える？ 21
パンクした 241
ヒューズが切れた 264
ブレーキを踏むと音がする 21
ブレーキを踏むと振動する 19
トランスミッション警告灯 49
トランスミッションフルード 275

トリップメーター 62
ドリンクホルダー 93

ネ

燃料 200, 275
燃料計 60
燃料残量警告灯 50

ハ

パーキングブレーキ 185
排気ガスの危険性 46
ハイビーム 86
ハイビーム表示灯 54
ハイマウントストップランプ 220
ハザードスイッチ ..... **表紙ウラ**
発炎筒 240
パッシング 86
発進補助ブレーキ機能 179
バッテリー
ジャンプスタート 255
充電警告灯 49, 261
容量 275
パワーウィンドーの開閉 78
パワーモード 82
パワーモード警告ブザー 83
パンク 241
番号灯 221
ハンズフリーテレフォン 147
ハンドル 88
ハンドル位置調節レバー 88

ヒ

ビークルスタビリティアシスト(VSA) 183
VSA OFF警告灯 51, 184
VSA警告灯 51, 183
非常点滅表示灯スイッチ ..... **表紙ウラ**
尾灯 219
ヒューズ 264
各ヒューズの装備と
容量 264, 266, 267, 269
ヒューズの設置場所 264
ヒューズの点検と交換 270
表示灯 54
アイドリングストップ表示灯 56, 176
エンジンオイルメンテナンス
表示灯 59, 204
クルーズコントロール表示灯 56
クルーズメイン表示灯 56
シティブレーキアクティブシステム
表示灯 57
シフトインジケーター/M
(7速マニュアルシフトモード)
表示灯 56
セキュリティアラームシステム
作動表示灯 55
セレクトポジション表示灯 56
低水温表示灯 54
ハイビーム表示灯 54
ハンドル操作表示灯 54
ブレーキ踏み込み不足表示灯 56
方向指示器表示灯 54
ライト点灯表示灯 54
ヒルスタートアシストシステム 164

フ

ブースターケーブル 255
ブザー
運転席ドアを開けるとブザーが鳴る 20
走行するとブザーが鳴る 21
フューエルリッドの開けかた 200
ブレーキシステム 185
ABS(アンチロックブレーキシステム) ... 187
エマージェンシーストップシグナル 189
電子制御ブレーキアシスト 188
パーキングブレーキ 185
フットブレーキ 186
ブレーキ警告灯 48, 262
ブレーキシステム警告灯 48
ブレーキを踏むと音がする 21
ブレーキを踏むと振動する 19
ブレーキフルード 275
ブレーキ警告灯 48, 262
フロントフード(ボンネット) 213
フロントフード(ボンネット)の開閉
ドア/フロントフード開閉警告灯 25, 52

へ

平均燃費表示(AVG) 63
ヘッドライト 86
追越合図(パッシング) 86
電球の交換 215
ハイビーム 86
ハイビーム表示灯 54
ライト点灯表示灯 54
ロービーム 86
ヘッドライトオートオフ機能 86

ホ

ホイールサイズ 276
方向指示器(ウィンカースイッチ) 85
方向指示器表示灯 54
ワンタッチターンシグナル 85
ホーンスイッチ 1
Hondaスマートキー持ち去り警告灯 53
ボンネット(フロントフード) 213

ミ

ミラー 89
ドアミラー 89
ルームミラー 89

ム

無段変速オートマチックトランスミッション 168

メ

メーター 60
インフォメーションディスプレイ 61
スピードメーター 60
タコメーター 60
燃料計 60
メンテナンス 207
Hondaスマートキー 230
エアコンのお手入れ 231
エンジンルーム/フロントコンパートメント内のメンテナンス項目 210, 211
清掃 233
タイヤの点検と整備 225
メンテナンスに関する注意事項 209
メンテナンスを安全に行うために 209
ライト類の点検と整備 215
ロールトップのお手入れ 237
ワイパーブレードラバーの点検と整備 ... 223

モ

モード切り換え(エアコン) 96

ユ

油圧警告灯 48, 261

ラ

ライトスイッチ 86
追越合図(パッシング) 86
ハイビーム 86
ハイビーム表示灯 54
ライト点灯表示灯 54
ロービーム 86
ライト類の点検と整備 215
後退灯電球 220
後面方向指示器/後面非常点滅表示灯電球 219
室内灯電球 222
車幅灯電球 218
制動灯/尾灯電球 219
前面方向指示器/前面非常点滅表示灯電球 217
側面方向指示器/側面非常点滅表示灯電球 218
ハイマウントストップランプ電球 220
番号灯電球 221
ヘッドライト電球 215
ラジエーター 259

リ

リムサイズ 276
リヤカメラシステム 199
リヤフード 212

ル

ルームミラー 89

レ

冷却水 259, 276
オーバーヒート 259
高水温警告灯 51
低水温表示灯 54
補給 259

ロ

ロービーム 86
ロールトップ 79
ロールトップのお手入れ 237

ワ

ワイパー/ウォッシャー 87
ワイパーブレードラバー 223
ワンタッチターンシグナル 85

お車についてのお問い合わせ、ご相談は、まずHonda販売店にお気軽にご相談ください。
下記アドレスより最新のHonda販売店を検索することが可能です。
Hondaホームページ　http://www.honda.co.jp/
（Hondaホームページにある検索ボックスに『販売店』と入力してください）

携帯電話からは、携帯電話用Hondaホームページをご覧ください。
http://dream.honda.co.jp/dealerlocator/

※：QRコード読み取り機能付きの携帯電話をお持ちの場合は、右のQRコードをご利用ください。
ご利用にあたっては、お持ちの携帯電話取扱説明書をご確認ください。
QRコードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記のお客様相談センターでもお受け致します。

本田技研工業株式会社　お客様相談センター

フリーダイヤル　0120-112010（イイフレアイオ）

受付時間　9:00～12:00　13:00～17:00
〒351-0188　埼玉県和光市本町8ー1

所在地、電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

お車に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速に対応させていただくために、あらかじめ、お手元にお車の車検証をご準備いただき、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

① 車検証記載事項：車両型式、車台番号、エンジン型式、車両番号、登録年月日
② 車種名、タイプ名、走行距離　③ ご購入年月日　④ 販売店名